

令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業

高等職業訓練促進給付金等事業の
効果的な活用の在り方に関する調査研究

報告書

令和7（2025）年3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

— 目 次 —

第1章 本事業の目的と実施概要	1
1. 背景と目的	1
2. 調査の全体設計	1
3. 調査研究の実施体制	4
4. 成果の公表方法	4
第2章 ヒアリング調査結果	5
1. ヒアリングの実施経過.....	5
2. ヒアリング結果のまとめ	8
3. ヒアリング記録（企業・当事者を除く）	14
第3章 自治体・当事者向け資料	46

第1章 本事業の目的と実施概要

1. 背景と目的

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「ひとり親家庭等への支援等に関する調査研究」（令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究）では、高等職業訓練促進給付金による資格取得が実際に、ひとり親家庭の就職・転職や正規雇用、年収の増加等につながっていることが確認された。他方で、資格取得の効果には個人差があることもうかがわれた。

自治体は制度の運用に当たり、ひとり親本人の状況（職務経歴、家族の状況等）や意向（どのような働き方を希望しているか等）を踏まえ、それにマッチする資格を提案することが必要と考えられる。しかし、特に令和3年度以降対象となったIT関連の資格について、自治体のひとり親支援の現場では、資格取得後の就職先や働き方、キャリアステップ等に関する情報が不足しており、資格取得を検討しているひとり親に対して十分な情報提供を行うことが難しい状況にある。

そこで本事業では、高等職業訓練促進給付金の対象資格のうち、令和3年度以降対象となったIT資格について、ITを活用した仕事への就職に関する基礎知識、自治体における就職支援のポイント等に関する情報を収集し、自治体が同給付金に係る相談対応を行う際や、ひとり親が同給付金の活用を検討する際に役立つ参考資料を作成した。

2. 調査の全体設計

本調査研究では、（1）有識者ヒアリング調査、（2）企業・団体ヒアリング調査、（3）当事者ヒアリング調査、（4）文献調査を実施した。また、（1）～（4）の結果を基に、自治体・ひとり親向けの参考資料を作成した。

（1）有識者ヒアリング調査

ひとり親の就労に詳しい学識者、ひとり親への就労支援を行っている民間支援団体、IT資格の取得を目的とした高等職業訓練促進給付金の給付実績が比較的多い自治体を対象として①個別ヒアリング及び②合同ヒアリングを実施した。

①個別ヒアリングでは、主に以下の項目について情報収集を行った。

- ・ ひとり親の就労の現状と課題
- ・ 各業界（IT以外を含む）におけるひとり親の就労の傾向
- ・ ITを活用する仕事で、ひとり親の安定した就業につながるもの
- ・ IT資格を取得するメリット／等

②合同ヒアリングでは、個別ヒアリングと同一の対象者・団体に対し合同でヒアリングを実施し、自治体・ひとり親向け参考資料の構成や内容について意見を伺った。

(2) 企業・団体ヒアリング調査

IT を活用した仕事でひとり親を雇用等（業務委託含む）する企業、ひとり親の就職支援を行う民間支援団体、ひとり親の就職相談において積極的な取組をしている自治体等を対象として、ヒアリングを実施した。主なヒアリング項目は以下の通り。

- ・ 【ひとり親を雇用等する企業の場合】ひとり親の業務内容、採用の経緯、採用に当たったの配慮、人材育成の取組等、考えられるキャリアステップ、求められるスキル、採用時に重視していること（職務経験等）、ひとり親が働く上での留意点
- ・ 【支援団体、自治体の場合】ひとり親の就労支援の取組内容
- ・ IT を使った仕事で、ひとり親の採用ニーズがある職種、仕事の例
- ・ IT 資格について（採用段階で IT 資格を取得していることのメリット、特に有用な資格等）／等

(3) 当事者ヒアリング調査

IT を活用する仕事に就いているひとり親本人へのヒアリングを実施し、ひとり親の具体的な仕事内容やキャリアステップ、(IT 資格を取得した場合は) 資格取得までのプロセスや苦労したこと等について、当事者視点での情報を把握した。

対象者となるひとり親のうち、高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得した方については、以下のプロセスで調査を実施した。

(ステップ1) 令和3～5年度に高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得したひとり親に対し、自治体経由でヒアリング依頼状を郵送。※令和3～4年度に高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得したひとり親が1名以上いる自治体(82か所)に対して、給付実績に基づき、2～20部の依頼状を送付した。

↓

(ステップ2) 調査に協力いただけるひとり親は、ヒアリング依頼状に記載の URL から WEB 登録フォームにアクセスし、取得した資格、現在の仕事の概要、連絡先等を入力。

↓

(ステップ3) WEB 登録のあったひとり親のうち、日程調整の連絡が取れた方に対し、調査を実施した。

上記以外の対象者（高等職業訓練促進給付金の利用をしていない）については、有識者からの紹介により、調査を実施した。

主なヒアリング項目は以下の通り。

- ・ 現在の仕事の内容（特に IT を使う場面）、役職、勤務日数、週当たり労働時間
- ・ 現在の仕事に就いた経緯、これまでのキャリア、今後想定しているキャリアステップ
- ・ 家庭状況等について（こどもの人数・年齢、親族等との同居状況、育児・家事への支援）
- ・ IT 資格を取得してよかったこと、高等職業訓練促進給付金を振り返って
- ・ 同様の仕事を目指すひとり親へのアドバイス

(4) 文献調査

ヒアリング調査で十分に把握できなかった点（主に以下の点）について、厚生労働省の職業情報提供サイト（job tag）や、民間の就職・転職サイト、資格試験実施主体のWeb サイト等を利用して、情報収集を行った。

- ・ IT を活用した仕事の概要
- ・ IT スキル標準（ITSS）の概要
- ・ 各資格について、学習内容、難易度、修業期間、資格を生かせる仕事 / 等

3. 調査研究の実施体制

本事業の実施体制は、以下の通りである。

図表 1-1 事業実施体制

氏名	所属・役職
松井 望	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 社会政策部 副主任研究員
尾島 有美	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 社会政策部 主任研究員
古賀 祥子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 社会政策部 主任研究員
大島 奈々	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 社会政策部 研究員
信國 舞	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 社会政策部 研究アシスタント
白土 典子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 社会政策部 研究アシスタント

4. 成果の公表方法

本事業の成果を取りまとめた本報告書は、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングのホームページにて公開する。

第2章 ヒアリング調査結果

1. ヒアリングの実施経過

① 有識者ヒアリング

調査対象、実施日は、下記の通りであった。なお、いずれも Web 会議システムによるオンライン実施であった。

図表 2-1 調査対象、実施日

所属・氏名等	個別ヒアリング 実施日	合同ヒアリング 実施日
一般社団法人日本シングルマザー支援協会 代表理事 江成道子氏	令和6年8月7日	令和6年 12月19日
特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長 赤石千衣子氏 他	令和6年8月22日	
日本女子大学人間社会学部 教授 周燕飛氏	令和6年8月26日	
横浜市こども青少年局こども家庭課	令和6年9月10日	
北九州市子ども家庭局子育て支援課	令和6年9月25日	

② 企業・団体ヒアリング

調査対象、実施日は、下記の通りであった。

図表 2-2 調査対象、実施日

所属・氏名等	実施方法	ヒアリング実施日
クラウドカンパニー株式会社 代表取締役 小川昌宏氏	対面	令和6年9月19日 令和7年3月17日 (※)
日本オラクル株式会社カスタマーサクセスサー ビス事業統括 オラクルユニバーシティ 本部長 高橋弘行氏、 ビジネス推進部/研修部 部長 岡田大輔氏	オンライン	令和6年10月8日
有限会社奥進システム カスタマーサポート部 リーダー 今岡由美子氏	オンライン	令和6年10月9日
学校法人角川ドワンゴ学園 人事部 荻野志歩氏	オンライン	令和6年10月15日
株式会社 iRup 菊地一静氏	オンライン	令和6年11月5日
特定非営利活動法人ウィズワーク・ラボ 代表理事 角氏、清瀬氏	オンライン	令和6年10月25日
一般社団法人グラミン日本 理事長 百野氏	オンライン	令和6年11月7日
東京都江戸川区総務部人権・男女共同参画推進 センター 相談啓発係、ひとり親相談室すずら ん	対面	令和7年2月5日

(※) クラウドカンパニー株式会社の小川氏については、1回目のヒアリングでは当該企業の取組等についてお話を伺った。また、2回目のヒアリングでは、第3章に掲載している自治体・当事者向け資料のうち、IT業界の基礎知識に関する部分について、ITの専門家の立場から助言をいただいた。

③ 当事者ヒアリング

調査対象、実施日は、下記の通りであった。

図表 2-3 調査対象、実施日

本報告書上の 仮名	高等職業訓練促進給付金を 活用して取得した資格	現在の仕事	実施方法	ヒアリング実施 日
Aさん	Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート	コールセン ター	オンライン	令和6年11月 11日
Bさん	Web クリエイター能力認 定試験 エキスパート	UI/UX デザ イナー	オンライン	令和6年11月 12日
Cさん	VBA エキスパート (Excel VBA Standard)	製造業の業 務改善	オンライン	令和6年11月 13日
Dさん	Web クリエイター能力認 定試験スタンダード	IT 企業の人 材開発部	オンライン	令和6年11月 15日
Eさん	Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート	教育関係の 事務職	オンライン	令和6年11月 25日
Fさん	※高等職業訓練促進給付金 の利用なし	UI/UX デザ イナー	オンライン	令和6年10月 2日
Gさん	Web クリエイター能力認定 試験 エキスパート	介護事務	電話	令和6年11月 21日

2. ヒアリング結果のまとめ

ヒアリング結果の主なポイントは以下の通りである。なお、有識者ヒアリングの対象者も含め、支援団体については「民間支援団体」、自治体については「自治体」と表記している。

(1) 高等職業訓練促進給付金の制度について

① 制度拡充の意義

学識者からは、次のような意見があった。看護師・准看護師の資格は正規雇用につながりやすい一方、資格を取得するには通常3年以上の修業が必要であり、資格取得まで修業を続けるには、十分な生活費や勉強時間、育児サポート体制等を確保できる環境が必要となる。他方で、IT資格は修業期間が比較的短いものも多いため、修業のための環境を整えるという意味では、看護師・准看護師等に比べてハードルが低く、幅広い層のひとり親に門戸が開かれている。また、IT資格は就職・転職の場合だけでなく、現在の職場にしながらスキルアップを目指す場合にも有用であり（一般事務の仕事の中でITを活用する等）、労働生産性や職場での評価を高めることができれば、中長期的には昇進や収入増につながる可能性がある。

当事者へのヒアリングでは、次のような事例が把握された。以前から高等職業訓練促進給付金の存在は知っていたものの、自身としては医療の仕事に苦手意識があった。看護学校卒業まで長期間修業することに困難を感じていたことから給付金の利用はしていなかったが、ITには関心が高かったので、令和3年度にIT資格も対象に追加されたのを機に、給付金の活用や資格取得の意向を持った。

② 利用者層について

支援団体からは、高等職業訓練促進給付金の利用者層について、キャリアアップの意向を明確に持ったひとり親が多く、しっかりと支援することで、資格を生かした就職等につながる可能性が高いという意見があった。

他方で、自治体から、中には主に経済的サポートを得る目的で高等職業訓練促進給付金の利用を希望するケースもある、という声もあった。この点について、資格取得以外に対応が必要な課題がある場合は、他の支援メニューを提案する必要があるため、給付金の申請段階において本人のニーズをよく聞き取ることが重要と考えられる。

(2) 自治体に求められる支援

① 目的（ゴール）から逆算した就職準備

支援団体や企業、自治体から、取得する資格を先に決めてから仕事を探すのではなく、まず本人が何をしたいのか（例えば、正規雇用で就職したいのか、副業をしたいのか、将来に備えてITスキルを身につけたいのか等）を整理し、そのために準備すべきことや必要な支援を逆算して考える必要がある、といった意見が複数あった。

また、複数の支援団体から、ゴール（本人が将来どうなりたいのか、どれくらいの収入が必要なのか等）を決めるに当たり、ライフプランの見通しを立てることの重要性が指摘された。ひとり親の中には離婚後の環境変化等も背景に、こどもがしながら働くことに前向きに

なれない、自己肯定感が低く新しいことに挑戦しづらい、といった方もいるが、支援団体への相談を通して自分が抱えている不安の根底に経済的な問題があることに気づいたり、こどもに将来必要な教育費が可視化されたりすることで、経済的に自立するモチベーションを持ち、就職の具体的な目標を定めることができる。

支援団体等から、支援メニューの検討において、ひとり親の属性（年齢、正規職員としての就業経験、出産等で離職後のブランクの期間等）や元々のITスキルを考慮する必要があるとの意見があった。例えば、企業で勤務した経験のないひとり親の場合、未経験でも就職しやすい職種を目標に、まずは基礎レベルのITスキルの他、社会人としての基本的なマナーやスキルの習得を支援することが考えられる。

② 出口戦略の検討・明確化

学識者や支援団体から、就職支援に出口戦略を持たせることの重要性が指摘された。IT業界の場合、AIの台頭をはじめとする技術革新により、市場の動向は常に変化しているため、就職支援に当たっては、市場の動向を分析し、成長が見込まれる分野や、需要の高い職種・スキルをターゲットにすることが重要との意見があった。

また、就職可能性を更に高めるためには、地域でひとり親を雇用する意向・ポテンシャルのある企業を把握し、その企業で求められている職種、当該職種に必要なスキルを整理することが必要との意見があった。特に、地域の企業と連携した職業訓練コースやインターンシップを用意できれば、即戦力となるスキル習得が可能であるだけでなく、当該企業による採用につながる可能性もある。

企業開拓のポイントの1つとして、仕事と育児の両立の観点から、残業や土日出勤が少ない、働く時間や場所が柔軟である等、子育てをしながら働きやすい企業がよいとの意見が複数あった。自治体の中には、相談員が個別の企業を実際に訪問し、働きやすさ等の確認を行っている例もあった。

③ その他

支援団体等から、ひとり親の中には自己肯定感が低下していることが原因で、継続的な就業等が難しくなるケースがあるため、自己肯定感を高められるような関わりが重要との意見があった。また、定型的な業務に従事してきたひとり親の場合、ナレッジワーク（自身の持つ知識を活用して新たな付加価値を生み出す労働）への転換のハードルが高く、就職後につまずきを感じやすいため、手厚くフォローを行う必要があるとの意見もあった。支援団体等の中には、就職に向けてひとり親のチャレンジ精神を高められるような関わりを行っている事例（自分にできることを低く見積りがちな人に対し、スキルアップにつながる仕事に挑戦するメリットを伝える等）や、就職後も継続的に手厚いメンタリングを行っている事例があった。

就職支援の効果を測る指標としては、単に企業等に就職できたかどうかだけでなく、就職後の収入や生活水準の変化が重要であり、就職後の状況も捕捉する必要があるとの意見があった。

(3) IT を活用した仕事におけるひとり親の就業実態

① 業務未経験からの就職について

支援団体や企業、自治体から、未経験から IT を活用した仕事に就職した事例が幾つか挙げられた（支援団体が実施する就職支援プログラム等を受講したことで就職につながったケースを含む）。また、当事者の中には、IT 資格の取得と併せて Web デザインのポートフォリオを作成することで、経験者の枠で採用されたケースがあった。

ただし、IT 資格があるだけで就職に結びつくわけではないという声が多く、また、採用時に最も重視されるスキルとしては、支援団体や企業から以下のような意見があった。

■業務を遂行する力

責任感を持って最後まで仕事をやり遂げる力が重要。また、IT を活用した仕事では、複数のタスクを同時並行で行うことが多くあるため、自分でやるべきことを洗い出し、優先順位を考え、スケジュールを守って仕事を進める力（タスク管理能力）が求められる。

■コミュニケーション力

社内や顧客とやりとりしながら仕事を進める上で、コミュニケーション力（相手の話を傾聴する力や、共感する力等）は必須。また、IT 業界では形の見えないもの（ネットワークやソフトウェア等）を商品としている。商品について顧客に説明したり、社内で打合せをしたりする際は、専門的な内容や抽象的な概念であっても、的確な言葉で分かりやすく表現しなければ、お互いの認識を合わせることができないため、説明力、プレゼン力が重要である。

■論理的思考力

特に IT 業界の場合、顧客の要望に対応するシステムの構築や、システムに問題がある場合の改善作業を行うために、論理的思考力（全体像を見ながら問題を分析し、解決策を筋道立てて考える力）が重要となる。

この他、仕事への適性も重要という意見があった。例えば、システム開発の仕事はプログラムのエラーを一つ一つ修正することへの忍耐力が必要なことや、ホームページ制作ではどのようなページができたかを見ることができるが、プログラミングのコードはどのように動くかをすぐには確認できないという点が大きく異なり、仕事の向き・不向きもあるとの見方があった。また、プログラミングが苦手な人でも、データベースを活用した仕事は、知識習得と訓練により対応できるようになるケースがあるとの意見もあった。

② 業務委託・フリーランスについて

支援団体等の取組の中には、ひとり親が IT を活用した仕事の業務委託を受け、収入を得ながら経験を積んでいるケースがあった。年齢や職種にもよるが、業務未経験のひとり親がすぐに IT 企業の正社員として就職するのは難しい場合もあるため、まずは基礎レベルの業務委託の仕事から始めて、ある程度経験を積んでから企業による正規雇用を目指すという選択肢も考えられる。

ただし、業務委託は稼働状況にもよるが、雇用労働に比べ安定就労につながりにくい場合がある点に、注意が必要である。支援団体等によると、業務委託は働く時間帯等を自分で調

整できるため、ひとり親にとって働きやすいというメリットがある一方、1件当たりの収入としては比較的少額にとどまるようであった。

なお、当事者の1人に、過去に企業でWebデザインの仕事を経験後、フリーランス（業務委託等で生計を立てる働き方）でWebデザイナーをしていたケースがあった。フリーランスで安定的な生活を目指すためには、この当事者のように、まず企業等の組織に所属して（正規雇用等の雇用契約を結んで働いて）、キャリアや人脈を築いてからフリーランスに転向することが多く、実務経験がないままフリーランスで成功するのは、一般的にはハードルが高いと思われる。一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会「フリーランス白書2024」でも、フリーランス・パラレルワーカーの回答者1,242人について、直近1年間の仕事獲得経路で最も多いのは「人脈（知人の紹介含む）」（61.6%）、次いで「過去・現在の取引先」（58.9%）となっている等（重複回答あり）、フリーランスとして仕事を獲得していく上では、実績や人的ネットワークが重要であることがうかがわれる。

③ テレワークについて

支援団体や自治体から、ITを活用した仕事はテレワークが可能というイメージや、テレワークへの過度な期待を抱くひとり親が多いこと、また、就職時のミスマッチを防ぐため、テレワークの現実をあらかじめ理解してもらう必要があること等が指摘された。例えば、完全テレワークを導入している企業は多くないこと、未経験者も応募可能なテレワークの求人は限られていること、テレワークは対面に比べ、コミュニケーションや新しい仕事を覚える上で難しい面もあること等について、心づもりをした上で就職活動に臨む必要がある旨の意見があった。

④ 地域・企業規模等による雇用ニーズの違い

支援団体や自治体から、地方では大都市圏に比べ、産業構造の違いから、ITを活用する仕事の求人が少ないという声があった。また、地方や中小のIT企業ほど、IT以外の仕事も含めたマルチタスクが求められるケースが多いという声もあった。

年齢については、IT企業の場合、未経験者は30代半ばまでは採用される可能性があるが、それ以上の年齢では実務経験がなければ難しいとの声が、支援団体や企業等から複数あった。

（4）ITを活用した仕事の具体例

支援団体等へのヒアリングでは、ITを活用した仕事のうち、人材の需要があり、かつ基礎レベルのITスキルがあれば採用可能性がある仕事の例として、デジタルマーケティング、IT営業、カスタマーサポート（ヘルプデスク等）、ICT支援員等が挙げられた。特にデジタルマーケティングやIT営業は、適性や実績によっては高収入を得られるようになる可能性もあるとの意見があった。ICT支援員は職場が学校であり、こどもと生活リズムが合うため働きやすいとの意見があったが、他方で収入は必ずしも高くない点がデメリットのようであった。

また、IT業界に限らず事務の仕事は、土日休みで残業が少ないことが多いので子育てと両立しやすく、ITの基礎スキル（パソコンのWordやExcelが使用できる等）があれば採用可能性が高

くなるという意見があった。

Web デザイナー／Web クリエイターについては、企業に雇用されて実績を積んだ後に、フリーランスとなり高収入を得るような事例もある一方、支援団体や企業からは、才能やセンス、人脈がなければ安定した収入を得にくいという指摘や、近年はスキルマーケット（インターネット上で、一般の個人がスキル提供し報酬を得る活動をするプラットフォーム）の利用が増加していること等を背景に、雇用案件自体が減少しているという指摘もあった。

システム開発の分野では、AI の台頭により一般人でもプログラムが作れるケースがある等、プログラマーやシステムエンジニアは競争が厳しくなっているが、他方で行政機関等では DX 化が進んでおり、現在のところ IT インフラを扱うエンジニアの需要は高いとの見方があった。

（５）IT 資格について

① IT 資格の有用性

複数の企業から、IT 資格の取得により、一定程度の知識を持っていることや、資格を取るまで学習を続けてきたことを証明できるため、採用時に有利になるのではないかという意見があった。また、学識者からは、IT 業界以外（一般事務の仕事の中で IT を活用する等）においても、資格取得のプロセスで身に付けた知識・技術を生かし、労働生産性や評価を高めることができれば、中長期的には昇進や収入増につながるだろうという見解もあった。就職後の業務においても、資格取得の過程で得られる体系的な知識が重要であると指摘する企業もあった。なお、支援団体の意見として、中小企業では、資格取得で得たスキルが実際の業務でどう生かされるのかイメージできない場合もあるため、資格とともに過去の成果物やスキルアップの過程を示すことも有効だろうというものがあった。

ヒアリングを行った当事者の中には、IT 資格を取得したことで、現在の職場において、昇進や業務スキルの向上が実現したというケースが見られた。また、資格を取得していたことで、転職の際に経験者と見なされ、入社後すぐに正社員として、IT の知識・経験を活用した仕事ができたとする当事者もいた。その他、資格取得を成し遂げたこと自体が自信につながったという声もあった。

② 役立つ IT 資格の例

支援団体や企業へのヒアリングでは、役立つ IT 資格として、IT パスポート試験、MOS（Microsoft Office Specialist）、基本情報技術者試験、Photoshop クリエイター能力認定試験、Illustrator クリエイター能力認定試験、LPIC-1、OCJP（Oracle Certified Java Programmer）Silver SE、CCNA（Cisco Certified Network Associate）等が挙げられた。特に IT パスポート試験や基本情報技術者試験、MOS については、企業の認知度が高く、基本的なスキルを証明できるという声が複数の企業から聞かれた。ホームページ制作等の職種の場合、Photoshop や Illustrator のスキルを身に付けておくと、入社後すぐに業務に生かせる場合もあるとの意見もあった。IT インフラを扱う企業では、会社としても LPIC-1 や CCNA の取得を推奨しているという事例があった。

ヒアリングを行った当事者は、高等職業訓練促進給付金を活用して、それぞれ MOS、VBA

エキスパート、Web クリエイター能力認定試験を取得していた。VBA エキスパートを取得した当事者は製造業で事務を担当しているが、VBA の知識は IT 業界以外の職場でも業務改善に活かせるため、職場でも頼られることが多くなったということであった。また、Web クリエイター認定試験は、Web デザインにまつわる業務の前提とされるコーディングの知識を身につけられるため、業務で応用して活用する機会が多いという声があった。

(6) その他

① あるとよい仕組み

ひとり親の雇用を促進するために必要なこととして、企業に対し、ひとり親のニーズや働き方等について正しい認識を持てるよう、啓発を行うことが必要という意見があった。例えば、ひとり親は短時間勤務が多いと思われがちだが、実際には人それぞれであり、働きやすい環境や周囲のサポートがあれば、特にこどもの成長に伴ってフルタイムで働ける人も多く、そうした事実を企業にインプットすることで、ひとり親を雇用する企業が増えていくのではないかと、この意見があった。また、IT 企業で働くひとり親の中には、元々高いスキルを持った上で就職し活躍しているケースも一部あるが、そうでないケースでは仕事に慣れるまで手厚いフォローが必要となるため、就職あっせんを行う際は、あらかじめ企業側にそうしたことを理解してもらう必要があるといった意見もあった。

② その他の仕事について

本調査研究の主な対象は IT を活用した仕事であるが、支援団体や自治体から、その他の仕事で未経験からチャレンジしやすいものや、働きやすいものについて、幾つか挙げられた。看護や介護の仕事は、需要があって経済的な自立につながりやすく、キャリアアップも見込めるという意見があった一方で、職場環境によって働きやすさが異なるという意見もあった。また、家事代行の仕事も需要があり、自分の都合の良い時間帯の中でマッチングを行えるため働きやすい点や、少ない件数から始めて徐々に業務量を増やしていくことも可能な点が強みであるとの意見があった。その他、IT 企業に限らず営業の仕事は、未経験からチャレンジしやすく、コミュニケーション力等が高い人であれば良い成績を出せる事例も多いとのことであった。

3. ヒアリング記録（企業・当事者を除く）

有識者ヒアリングの記録及び、一般社団法人グラミン日本、特定非営利活動法人ウィズワーク・ラボ、東京都江戸川区へのヒアリングの記録について、以下に掲載する。（なお、企業及び当事者へのヒアリングについては、ヒアリング記録はここでは掲載しないが、重要なポイントをまとめたコラム・事例集を第3章に掲載しているため、そちらを参照されたい。）

（1）一般社団法人日本シングルマザー支援協会

1. 団体について

- ・ 「MES（ミーズ）採用プログラム」という、ひとり親の社会復帰やステップアップ転職をスムーズに行うためのプログラムを実施している。社会性を高めるステップから意識改革、定着支援まで丁寧なサポートを行っている。現在支援している方は20名程度、ここ5年で計300名程度である。

2. ひとり親の就業実態や必要な支援について

（1）ひとり親の就業の現状と課題

①当事者の意識

- ・ 日本のひとり親は、就労に向けて行動を起こすことのハードルを高く感じている印象があり、そもそも就労支援や相談につながりにくい。当団体の活動当初、ひとり親向けによい仕事を紹介すれば応募があると考えていたが、実際にはほぼ問い合わせがなかった。また、当団体の「ママベストパートナー認定企業」は働きやすいところが多いが、当該企業の求人募集であっても応募が少ない。
- ・ 背景として、子育てのために家庭に入っていた女性は、仕事をすることに対し恐怖や不安を感じており、こうした感情が女性の自立の大きな障壁となっていることが分かってきた。

②社会的な風潮

- ・ また、女性が経済的に自立することを後押しするよりも、「母親なのだからパートでよい」という社会の風潮があるために、ひとり親が能力を発揮しづらいという面もある。自治体や他団体に相談した際に、「それほど頑張らなくてもパートでよい」「働くこと子どもがかわいそう」と言われたことがある人も少なくない等、社会的にひとり親の自立への理解が進んでおらず、正社員として働くことを前提とした支援が十分にできていない。ただし、最近では、高齢期になり貧困状態となる女性の中には、勤労世代に非正規・短時間労働もしくは専業主婦だった人が多いというデータが知られるようになる等、女性が経済的に自立する必要性についての理解は広まりつつある。

（2）必要な支援

- ・ 現在では、不安を払拭するための働きかけを強く意識しながら、自立に向けた支援を行うようにしている。まずは当団体に足を運んでもらうため、子どもを連れて遊びに来てほしいと

伝えている。スタッフと何度か話すうちに信頼関係が構築され、ようやく悩みや本音が聞けるようになる。また、日頃から、ひとり親向けのメールマガジン等の中で、当事者の意識改革を促している。

- ・ 何を相談したいか決まっていなくても、まずは相談に来てほしいと伝えている。こどもの将来の進学を考えると不安で眠れない等、漠然とした不安を抱えている人は多い。相談支援の中で不安・不満を深掘りしていくと、8割はお金の問題が根底にあることが分かる。そうした人に対し、自ら収入を得て経済的に自立する必要性を理解してもらって初めて、キャリア相談のステージに移行できる。
- ・ 収入を上げるためには知識や技術等を習得する必要があるが、キャリア相談支援の対象者には、事務職以外の経験がなく、資格もない人が多く、こうした人の場合はまず、「できること」を増やす必要がある。自分の能力に見合わない（簡単なレベルの）仕事しかしたことがない人の場合、自信が持てず、自分のできることを低く見積もる傾向が見られる。当団体からは、自分のスキルアップにつながる仕事にチャレンジした方が楽しいことや、そこまで団体が伴走することを伝えている。本人のチャレンジ精神も高まってくれば、支援がよりスムーズに進む。
- ・ ただ、キャリア相談支援に移行後、履歴書を書く段階で連絡が取れなくなるケース等もあり、最終的に就職に至るケースは必ずしも多くない。途中でドロップアウトするひとり親は、自分を見つめる過程で自信を失ってしまうことがあるようだ。そこで、履歴書は昔作成したものを一旦持ってきてもらうだけでよい、自己PRも写真も空欄のままでもよい等、相談に来るハードルを下げるように工夫している。また、MES 就職プログラムについては東京大学と連携し、行動心理学の理論を活かして、ゲーム感覚で段階的に収入アップを伴う就職を進めていく工夫も行っている。

(3) 実施している取組の中で、効果があると感じているもの

①MES 就職プログラム inJ カレッジ

- ・ 「MES 就職プログラム inJ カレッジ」では毎月 10 名枠で参加者を募集し、教育付き人材紹介を行っている。社会人基礎力、コミュニケーション、営業スキル等の講座がある。潜在的な能力の掘り起こしに向けた面談やマインド改革を通じて職業の選択肢を広げ、チャレンジしようという意欲を高める点に特徴がある。実際、異業種・職種への転職や、年収の上昇といった成果も見られている。
- ・ 2024 年からは、すきまバイトサービスの提供会社と連携し、ひとり親に対して就労不安の払拭、就労意欲の喚起、職業適性の探索、強みの発見を促し、正社員を目指す支援を行っている。支援対象者のうち、大卒が約半数、高卒が約4割である。コミュニケーション力が高い方も多く埋もれており、転職市場では優秀な人材の取り合いが始まっている。

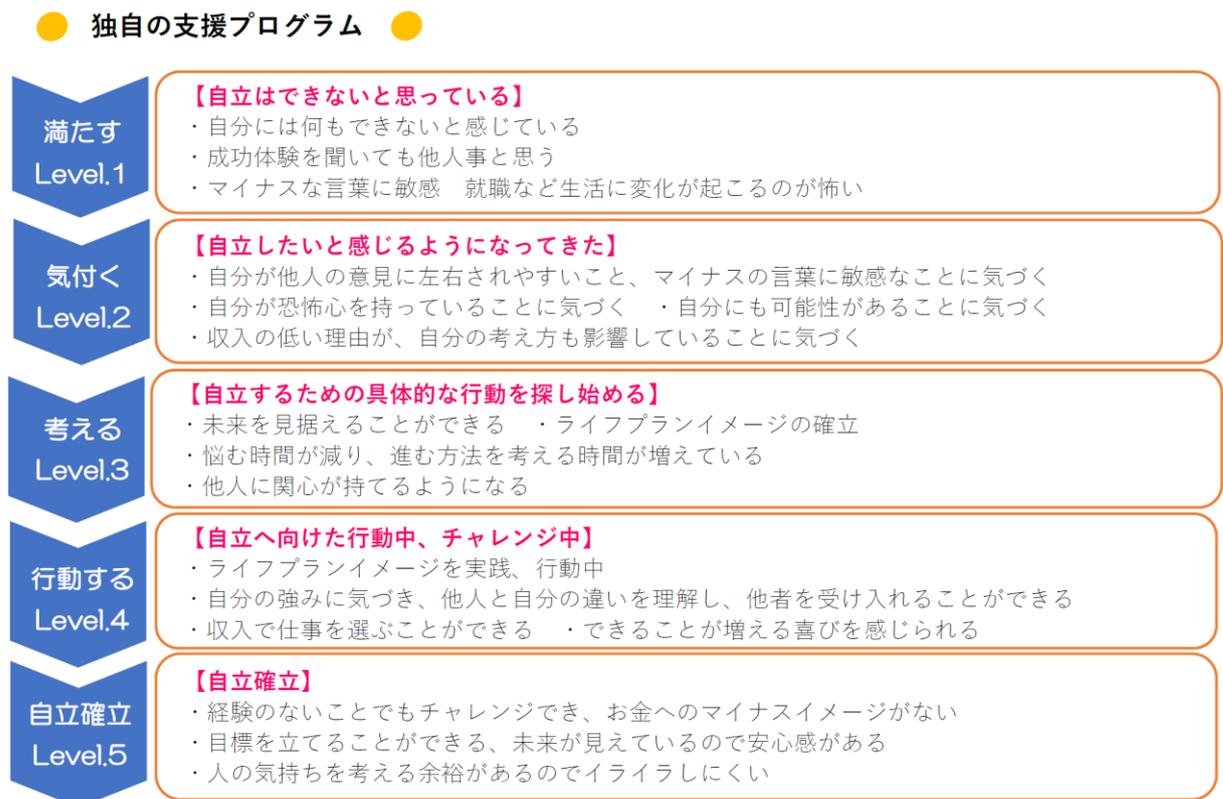
②自治体との連携協定

- ・ 横浜市、相模原市、さいたま市、青梅市の4自治体と協定を結び、アウトリーチ型の訪問相談を行っている。自治体が行う中学生向け学習支援（無料家庭教師の派遣）を受けている期間中に一度、当団体スタッフが対象家庭を訪問し、ひとり親の自宅で保護者面談を行っている。

る。当団体（民間団体）が単独でこの事業を行う場合に比べ、自治体と連携していれば信頼を得やすいので、自宅訪問を受け入れてくれるひとり親は多くなる。この事業により、初めての相談者となつながらきっかけになっているし、相談支援を入りに継続的に関わっていく家庭もある。

- ・自治体の役割は、相談者が求めるニーズ（例：児童扶養手当の支給）に公平な観点から対応することだと思うが、他方で、本人の意識改革やステップアップを促す働きかけといったところまでは、踏み込みにくいと思う。官と民の連携によって、それぞれの得意分野を活かして効果的な支援ができると考える。

<独自の支援プログラム>



出所）横浜市子ども青少年局子ども家庭課「政令市初！ひとり親家庭を応援する連携協定を締結します！一般社団法人日本シングルマザー支援協会と「ひとり親コンシェルジュ」で連携」（平成 30 年 2 月 21 日）

（４）各業界におけるひとり親の就業の傾向

- ・ひとり親は、「責任が小さいこと」「家から近いこと」「残業がないこと」という軸で仕事を選びがちである。しかし、その軸だけで伸び悩んでいる業界に就職してしまうと、結局収入が増えない。業界・企業の成長と、自身のスキルアップ・成長が重なると収入が大きく増えるため、成長している業界に就職することが重要である。
- ・営業職、介護職は経済的な自立につながりやすく、キャリアアップも見込める。営業職であれば 300 万円程度以上、介護職であれば 400 万円以上の年収を稼ぐケースも少なくない。
- ・営業職は、営業先と継続的に関係性を構築するためのコミュニケーション力や「ママさ」が

求められる。現状は男性が多いと思うが、コミュニケーション力があり真面目であれば、女性にも向いている仕事であり、さらに子育てとも両立しやすい。チームではなく個人で行う営業であれば、顧客と自分との間での調整が付きさえすれば、こどもの体調不良時等にもスケジュールの再調整がしやすい。また、営業成績がよければ、長時間労働をしなくても評価されやすい。

- ・ 保険業界の営業のように企業内で業務がしっかりマニュアル化されており、素直でマメな性格の人であれば年収 600 万円程度も可能である。さらにスキル向上の努力をすれば、より高い年収も不可能ではない。資格を必要としないことも入り口としてよい。また、雇用側のひとり親に対する理解も、非常に高い。
- ・ 飲食業界については、シフト勤務が中心で、かつ業界全体的に人手不足であるため、こどもの病気で休む必要があったり、保育園への送迎等の時間制約があるひとり親が働くのは難しい面が多い。

3. IT を活用した仕事について

(1) IT を活用する仕事で、ひとり親の安定した就業につながると思われるもの

- ・ デジタルマーケティング、SNS 運用等の仕事は需要があり、今後も成長するのではないかと。こうした仕事は年齢を問わず、スキルを学んで身に付ければ稼ぐことができる。こうした仕事に比べると、デザイン関係の仕事は、才能やセンスが求められるのでハードルが高い。
- ・ プログラミングや RAP 等は難易度が高い。
- ・ AI を活用した仕事については、今後の需要はまだ分からないが、伸びしろがあると思っている。
- ・ ひとり親の中には、これまでパソコンを操作する必要がなく、触ったことがないという人も多い。これまでに飲食やアパレル業界の経験しかない場合は、IT 系の仕事紹介は難しいので、営業等の仕事をすすめている。
- ・ 事務経験者は Excel、Word 等が使えるため、IT 業界を紹介することがある。

(2) 団体が行っている IT 関係の仕事への就職支援

- ・ 当団体のデジタルマーケティング講座では、デジタルマーケティングの運用担当者を育成している。座学だけでなく、企業から実際の場合発注を受けることができ、学びと実践を併行してスキル積むことができる。さらに講座を卒業した 1 期生が、講師となって同講座を担当しており、一定程度の収入も得ている。
- ・ 2024 年、一般財団法人日本民間公益活動連携機構が休眠預金等に係る資金を活用する事業に採択された。ひとり親が子育てをしながら自立できる業種・職種に就職するためのリスキリングを企業と連携して行う。リスキリングプログラムの実行団体には約 20 社の応募があり、そのうち 8 割が IT 企業であった。プログラミング、AI、Web ライティング等を扱う企業が多い。100~200 名のひとり親を対象にリスキリングを行い、3 年かけて 4 クール程度を開催し、年収 300 万円以上を目指す。なお、Web ライティングについては、収入につながるかが課題と考えている。

(3) IT 業界の課題

- ・ リスキングを受けたひとり親が企業に就職する際、一定期間（半年～1年等）の給与を保障する等、企業に対する負担軽減の仕組みがあるとよい。海外では、そうした仕組みがある。また、ひとり親の相談先として、現状のメンタルヘルスではなく、不安や恐怖を払拭するための社外相談先が必要である。それによって、うつ病等による休職の減少や、ハラスメント防止にもつながる。
- ・ IT 企業の中には、「IT 業界には高収入で活躍しているひとり親もいるので、ひとり親でも働きやすい」といった認識を持っているところも多いようだが、初めから高いスキルを持って活躍しているひとり親は、ごく一部にすぎない。多くのひとり親は、IT 関係の仕事が未経験だったり、就労経験自体が少なかったりする。そうしたひとり親の場合は手厚いフォローが必要であることを、IT 企業側に理解してもらうことが、就職あっせんへの第一歩だと考えている。

(4) IT 資格を取得するメリット・課題

- ・ 初めから専門性の高い仕事に就くことは難しいため、ベーシックな業務から始め、徐々にスキルアップできる環境が必要だが、IT 業界では人材育成の負担を避けて高スキル人材を採用しようとする傾向が強い。キャリア支援という観点から、ベーシックなスキルを有する人が採用される風土が広がれば、IT 業界はひとり親の就職先として十分考えられる。
- ・ ひとり親が就職先でステップアップを図る際、仕事の細分化を行い、一段ずつ階段を上る仕組みが用意されているかどうかは大きい。IT 関係の仕事は、営業職等と比べると細分化できていない企業が多いと感じる。収入の目安や役職の目安等、先々のステップアップやロールモデルも見せられるとよい。
- ・ 高等職業訓練促進給付金の利用者は、将来のキャリアアップにつなげたいという意識を持つ人が多いと思われるため、支援対象として力を入れることが効果的な層だと思われる。

4. 高等職業訓練促進給付金について

- ・ 高等職業訓練促進給付金の利用者は、一般的に看護師資格を取得するケースが多い。看護師資格は就労イメージが就きやすく、実際に仕事に就いた後の実態とのギャップも少ない。一方、社会福祉士は資格取得前にイメージしていたことと実態にギャップが生じることがあり、せっかく資格取得しても就業を断念してしまうケースもある。

以上

(2) 特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

1. 団体について

- ・ しんぐるまざあず・ふぉーらむでは、就労支援事業、相談支援事業、情報発信・政策提言事業、他団体支援事業を実施している。
- ・ 就労支援事業については、今年度は3つの事業に取り組む（オフィスワーク支援「明日に花咲く」東京スター銀行／きらりチャレンジ／東京都ひとり親家庭支援センターはあと）。「きらりチャレンジ」は、国が行う「ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業」を補完する形で、受験費用の援助、塾の紹介等を行う。東京都ひとり親家庭支援センターはあとでは、東京都のひとり親家庭就業推進事業として就労相談から求人紹介まで取り組んでいる。
- ・ その他、2016年より企業と連携したキャリア支援プログラム「未来への扉」を実施している。今年度は中止しているが、今後再開する予定。2021年にはみてね基金を使った就労支援プログラム「わたし輝く」、2022年は東京都のひとり親家庭就業推進事業「すてきみらい塾」、2023年には自主事業で「ひろがれみらい塾」を実施した。

2. ひとり親の就業実態や必要な支援について

(1) 団体の就業支援の取組

①わたし輝く（LPIC-1取得を目指すプログラム）

- ・ コロナ禍で、販売や飲食業に従事する人が勤務できなくなったことから、人手不足のIT企業への就職を目指したのが「わたし輝く」というLPIC-1取得を目的としたプログラム。説明会への参加が280名あり、90名の応募者のうち15名を採用した。
- ・ LPIC-1の取得者は10名、このうち30代の8名は全員就職したが、40代は就職ができなかった。成功率が高い背景には、90人のうちパソコンスキルの高い人を採用したことがある。受講者の1人は、税務署の受付（会計年度任用職員）からヘルプデスクを派遣する企業に転職をして年収が150万円程度上がった。
- ・ LPIC-1取得後の主な就職先はヘルプデスク（Linuxのシステムを使って社員のヘルプ対応をする人材派遣企業等）であった。

②スマイルアップ（初心者向けのMOSやコンタクトセンター検定の資格取得を目指すプログラム）

- ・ ITスキルが低い人を対象に「スマイルアップ」という、MOSやコンタクトセンター検定の資格取得を目指すプログラムを実施。パソコン初心者15名を選定し、電源を入れるところから4回の対面支援を行った。
- ・ 15人中14名がMOSに合格、1名は仕事が多忙になったため離脱した。メンターを付けて手厚く支援したことで離脱が少なかったが、合格後の就職は厳しく、転職できなかった人、社会福祉士を目指した人、その後も就職活動を続けた人等がいる。
- ・ 連携企業のコールセンターを紹介したものの、就職に直結してはいないが、エンパワメント

の講座を受けて、受講者は自分なりの目標を設定して歩き始めたように思う。その際に、パソコンへの抵抗感がなくなり、様々なツール（Slack、メール、Zoom 等）を使えるようになったことで、選択肢が広がったのではないか。

- ・ 本プログラムでは、教える側がスキルが低い人の課題を把握していないと効果が上がらないことが学びになった。例えば、対面講座で Zoom の操作を教えた後、オンライン講座に移行した際に失敗した。講師が Zoom の画面共有をすると、受講生も全画面表示となり、Word の画面が見えなくなることでパニックとなった。口頭で説明しても処理できず、その後は、自信がない人は対面参加に変更した。スキルが低い人はオンラインで完結する講座の受講は難しい。

③IT 人材訓練を含む 5 種の職業訓練を行うプログラム

- ・ その後 100 人以上のシングルマザーを支援した時には、IT 資格（MOS）、在宅就業（在宅テレフォンアポインター）、建築（建築施工管理技士補）、コールセンター、家事代行の 5 つのスキルアップコースを設けて実施。定員 150 名で 109 名を支援した。
- ・ 募集の際は IT スキルの習得支援も掲げていたが、実際には、IT 業界は就職が厳しいと予想して力をあまり入れなかった。実際に、IT 業界への就職は厳しく、コールセンターへの就職が多かった。
- ・ 仲間ができる、励まし合えるというメリットがある集合型研修を採用。MOS 受験のために仲間と一緒に勉強したことで、受講率が高かった。他方で、e ラーニングのみのプログラムは自分との闘いになり脱落しやすい。

（2）各業界におけるひとり親の就業の傾向

- ・ 成功パターンの 1 つはコールセンターへの就職である。グループで業務を請け負うため、働き方に柔軟性がある。例えば、こどもへの対応が必要な期間は 10 時～16 時勤務にして、対応が不要になったら勤務時間を延長して働いている人がいる。
- ・ 人材管理がきめ細やかで、不満等をフィードバックするとすぐに改善してくれるような企業では、継続的に働きやすいようだ。「ひろがれみらい塾」の受講者の就労困難要因は、親の介護 6%、DV 被害 14%、障害 6%、病気 19%、こどもの不登校 17%、こどもの病気 14%、その他コロナの影響 8 割だった。課題を抱えるひとり親が多いことを踏まえると、柔軟な働き方ができる職場選びが重要になるのではないか。
- ・ パソコン操作ができない人には、家事代行の研修をし、登録をおすすめした。家事代行は、コロナ禍以降は人手不足の業界であり、伸びしろがある。自身で好きな時間帯でマッチングして訪問する形態であれば、仕事にためらいがある人が週数回から始め、慣れてきたら時間を長くしていく等、段階を踏める点が良い。ただし、マッチングした時間帯で働ける柔軟なシステムは大都市圏のみと聞いている。
- ・ 看護と介護はケア労働として需要は大きいだが、職場環境によって働きやすさが変わる。人間関係が厳しい事業所に就職するとメンタル不調に陥る可能性もある。また、ひとり親は特にハラスメントの対象になりやすい。しかし、人間関係のような実態は、就職してみないと分からない（また夜勤のある仕事はこどもの世話を誰がするのも解決しなければならない）。

- ・ Web デザインで副業的に働ける人はごくわずかにいた程度。
- ・ 都市部と地方では状況が異なる。IT 関係は大都市圏に集中するが、コールセンターは地方にも展開している。工場や倉庫は地方のニーズが高いと思われるので、フォークリフト運転資格の取得によって事務と倉庫管理で働くようなことができるか。地方のひとり親で、都市部の IT 企業にリモートで勤めるケースはほぼない。

(3) ひとり親に理解のある・積極的に雇用する企業が増えていくために、必要と思われること

- ・ 働き方の希望に対応しやすい企業、職種であることが重要。こどもの年齢にもよるが、9 時からの始業、残業が少ない、休みやすい等の条件を希望するひとり親が多い。
- ・ 例えば、建築系は朝 8 時始業が多く、人手不足で女性を雇用したくとも、その時間帯に遠方の現場に行くことができない。建築施工管理技士補の業務内容のうち、事務作業のみの実施とする等業務の組み換えが必要になるか。建築事務をアウトソーシングしている企業では、8:30 始業だが、事務作業のみの業務であり、ひとり親を複数名雇用してくれた。このように子育てしながら働く女性のニーズと企業のすり合わせ（時間や環境）が求められる。他方で、営利企業は何でもよいとはならないので難しい。

3. IT を活用した仕事について

(1) IT を活用する仕事で、ひとり親の安定した就業につながると思われるもの

- ・ 開発部門は高度な IT の知識・技術が求められるため、未経験のひとり親が就職できる可能性は低い。採用可能性が比較的高いのは、ヘルプデスクと営業である。営業であれば、IT の知識と商品売るための知識を身に着ければよい。また、一般事務でも、IT の基本知識を持っていることで、プラスアルファの価値を出せるため、採用可能性が高まる。
- ・ クラウドサービスの導入支援を行う企業に対してひとり親の雇用について交渉したところ、全くスキルがない人を採用した場合、就職 1 年目の育成コストが企業の持ち出しになることから、雇用は難しいという判断になった。他方、一度 IT 企業に就職した後に退職して専業主婦になった人等、経験値がある人であれば、少しの研修でサービスの導入営業ができると思われるため、採用可能性があるようだった。
- ・ Web デザインの仕事は、特に中高年の未経験者が就職できる可能性は低い。企業の求人も少なく、コーディング等の単純作業や Web サイトのパナー作成等の仕事はあると思うが、全員は就職できない。自営の Web デザイナーになるとしても、企業で経験を積み独立する方が、優位性が高い。絵を描くのが得意というだけで Web デザインの仕事をして勝負にならない。ただし、若年層（30 代まで）であれば、未経験から Web デザインの仕事に就いてキャリアアップしていける可能性はある。Web デザイン専属で採用されるのは難しいだろうが、例えば中小企業で、事務兼 Web 更新担当等の形で就職することは可能と思われる。
- ・ 在宅勤務で Web デザインの仕事をしている人の多くは、何年か業務経験を積んだ人である。それを理解せずに、在宅勤務をしたいという理由で Web デザインの研修に応募するひとり親が多い。当団体では IT 事務、カスタマーサポート等の視野を広げる案内をしている。

(2) IT 資格を取得するメリット・課題

- ・ MOS については、誰もが知っていて、評価される資格を履歴書に書けることがメリットである。さらに、本人が、履歴書に取得資格を記載できたという自信を持てる。また、パソコンへの抵抗感がなくなることで、仕事の選択肢が広がる。
- ・ システムエンジニア (SE) や Web プログラマーの養成は、半年間では難しいと思う。パソコン操作ができない人の場合、最低でも 1 年は修業が必要である。高いゴールを設定するのであれば、単に知識や技術を教えるだけではなく、時間をかけて、本人をエンパワメントする支援から取り組まないといけない。LPIC-1 の取得プログラムは 8~9 か月かけた。
- ・ 今後、中小企業の IT 導入が進めば、雇用ニーズが高まり、40 代でも就職できるようになるかもしれないが、現在のところ、企業が就職を受け入れ教育可能な年齢として 40 歳あるいは 35 歳採用年齢の壁となっている。一般的には 50 代以上になると、IT 企業では戦力外と見なされる等でいづらくなり、転職することが多いと聞くので当たり前なのかもしれない。その前提で、当団体では、短期間しか働けない IT 企業で働くのか、高齢まで働けるコールセンターや家事代行等をするのか、長期的なライフプランの基に検討することを助言したい。
- ・ 資格だけで就職できるわけではなく、現実的にその人の条件を考える必要がある。RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション) の資格を取ったので就職したいという 40 代女性が、資格を増やすために MOS の講座を受講しに来た。しかし当団体では、RPA は、5~6 年前は優位性が高く、講座受講後高い収入につながっていたようだが、最近では需要が低下しているのではないかと考えていた。また、年齢的にも採用可能性が低いと思われたので、すすめなかった。結果としては、本人が RPA にこだわらず柔軟に様々な職種を探したようで、一般事務として就職した。

4. その他

(1) 本調査研究事業の設計について

- ・ 事例集については、就業に当たって幾つか注意点がある (年齢や自営業等) と思う。成功事例だけではなく、うまくいかないことや注意点についても伝える必要がある。
- ・ 職業訓練期間の半年~1 年はひとり親家庭にとって大事な期間である。夢を描かせて無駄な努力をさせる、人生の貴重な時間を成功率が低い道に投入させるということがないようなガイダンスになると良い。成功事例を伝えるだけにならないよう留意いただきたい。

(2) ひとり親家庭の就労支援について

- ・ 委託事業の場合、支援現場の情報が委託元 (企画側) に共有されず、委託元の知識が不足した状況で事業が検討される傾向がある。労働市場も日々変化しているので現場からのフィードバックを十分に受け、それを踏まえながら企画を見直していかなければ、一見すばらしい事業を打ち出したとしても、絵に描いた餅になってしまう。
- ・ ライフプランについての情報提供も重要である。家計の中では主に住宅費、教育費、老後の費用が大きな負担と言われ、特に日本では教育費の負担が大きい。多くのひとり親は具体的にどれくらい必要になるのか分からない。例えば、大学入学の初期費用や学費を準備する

ノウハウがなく、教育費について漠然とした不安を抱えている。当団体ではこうしたひとり親のために、ライフプランに関するセミナーや、サポートブック等を用意している。（とはいえ、いわゆる高等教育の無償化について説明すると、その所得制限内で働いた方がいいと考えたり、児童扶養手当の所得限度額等の年収の壁を考えたりしてしまう人もいるようだ。）

- ・ セミナーを受講してもらい、まずは不安を見える化している。そうすれば次のステップとして、例えば低年齢のこどもとの時間を大切にしたいという親に対し、具体的にいつまでこどもと一緒にいる（仕事をしない・セーブする）のかを考えてもらうことができる。こどもとの時間が重要と考えて一緒に過ごす期間が長くなると、パートタイムの就業しかできず職種も限られ、将来的に必要な収入が確保できないため、早めに正社員や収入の高い仕事を目指すべき、といった判断もできるようになる。こどもの状況によって支援の必要性等は異なるが、ライフプランの見通しがあると、不安感なく仕事にもチャレンジしやすいように思う。

以上

(3) 日本女子大学人間社会学部 教授 周燕飛氏

1. 高等職業訓練促進給付金等事業について

(1) 制度拡充の意義

- ・ 日本のひとり親（本ヒアリングにおいては、母子家庭の母を指す）の主な問題は、「働いても貧困」（働いていても、平均年収が低いため貧困状態を抜け出せない）ということである。そのため、正規雇用の比率を高めることは重要であり、正規雇用に向けて専門資格の取得を支援することも重要な施策の1つだろう。
- ・ ただし、従来の高等職業訓練促進給付金が対象としていた、看護師等の手堅い（正規雇用で安定的に働くことにつながりやすい）専門資格を取得するには、学力が高く、修業期間中に祖父母がこどもの世話をしてくれるといった条件が揃っている人でなければ難しかった。それが令和3年度以降の制度拡充により、もっと幅広い層のひとり親が制度の恩恵を受けられるようになったと認識している。
- ・ また、ひとり親の中には、収入増は希望するが、ワークライフバランスも確保したいため、育児を優先するため収入増を諦めるケースも多い。ワークライフバランスを確保しつつ高収入を得られる選択肢としては、大きく2つが主流である。1つは事務職（定時で帰れる、室内で働ける）、もう1つは在宅ワークができる仕事である。
- ・ 在宅ワークができる仕事について、IT関係の仕事はひとり親の中でも高い期待が持たれている。ITの知識・技術を身に着けることで、在宅で子育てと両立しながら仕事ができる可能性が広がる。昨年度調査（令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業「ひとり親家庭等への支援等に関する調査研究」）の自由回答でも、システムエンジニア（SE）等にならずとも、例えば事務の仕事でITの知識・技術が役立っているという人が見られた。高等職業訓練促進給付金の拡充措置で、情報分野にも対象を広げたことは良かったのだと思う。

(2) 制度の課題

- ・ 高等職業訓練促進給付金は、ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業（入学時50万円、就職時20万円）も利用すれば、最大（4年間受給し、修了支援給付金も受給した場合）で603万円の給付・貸付けが受けられる。ただし、1度しか受給ができないので、介護福祉士実務者研修のように受講料が少額の資格を取得する人は、将来もっと高額な受講料の資格を取得する可能性を考慮し、制度の利用を見送るかもしれない。

2. ITを活用した仕事について

(1) ひとり親の安定した就業につながると思われる仕事

- ・ 新聞の調査で、情報サービス業の企業の7割は人手不足を感じており、新規採用者数が多い一方、課題もあることが指摘されていた。欧米のSEに比べると、日本のSEは平均年収や専門性が低い上、納期が厳しく、残業や休日出勤が多いため、耐えられずに離職する若者が多いとのことだった。そうすると、ひとり親が高度なIT資格を取得したとしても、子育てと両立しながらIT関係の仕事が続けられるのか、懸念がある。本調査の中で、そのあたりも明

らかにしてもらいたい。

- ・ ひとり親には事務の仕事を希望する人が多いが、事務の仕事は IT 業界に限らず、あらゆる産業にあるのでマッチングしやすい。
- ・ 医療・福祉業界も IT 技術を使った事務の仕事が多い。また、建設業界の事務も多くは女性が務めている。事務の仕事は IT を活用することで効率化できるケースが多い。ただ、中小企業等では従来の紙ベースの業務を継続しており、IT が活用されていないところも多い。

(2) IT 資格を取得する意義・必要性

- ・ IT 業界に就職せずとも、IT 資格取得のプロセスで身に付けた知識・技術を生かし、労働生産性や職場での評価を高めることができれば、長期的には昇進や収入増につながると思われる。
- ・ 事務の仕事に就職する場合、採用時点で、他の候補者より少しでも IT スキルが高ければ (Microsoft Office が使える等)、採用されやすい。日本では、IT を活用した事務の多くは、OJT でスキルを身に付けることが多いので、IT 資格を取得しておくことは、具体的な技術を習得しておくためというよりは、より良い仕事にアクセスする確率を高めるという意味で、役に立つと考える。
- ・ IT 関係の知識 (Word、Excel、インターネット検索等) は、日本語スキルと同様に、生活していく上で必須の基本スキルになっていこう。しかし、実態としては、ひとり親の中にはその基本スキルを持たない人も多い。情報の検索能力が足りないために、利用できる支援制度があってもたどり着かないこともある。例えば、全国ひとり親世帯等調査 (旧全国母子世帯等調査) の結果を見ていると、高等職業訓練促進給付金の認知度について、2011 年と 2022 年とでほぼ変わらず、4 割強は制度を知らない。基本的な IT の知識・技術があれば、認知度はもっと高かったのではないかと思う。高等職業訓練促進給付金のスキームで対応するかは別として、特に中高年のひとり親については、初歩的なスキルの習得支援自体は必要だろう。

(3) 資格取得に当たっての留意点

- ・ 元々ベースの知識のある人が IT 関係の知識・技術を身に着けた場合は仕事につながりやすい一方、そもそも IT リテラシーが低い人の場合は、初歩的な IT 知識の習得から始めることになり、そうした初歩的な知識だけでは、収入増等につながりにくい。ひとり親にも多様な層があることに着目し、それぞれの層に対し異なる職業訓練コースを用意することが望ましい。個別の職業カウンセリングを通じて、その人に適したコースを提示することが重要となる。

(4) 自治体が雇用先を開拓する際のポイント

- ・ 特定求職者雇用開発助成金等、ひとり親の雇用を奨励する制度はあるが、事務手続きが煩雑であるため、あまり活用されていないと聞く。また、人手不足の職場というのは、そもそも条件が悪く人気がないというケースも多い。職業訓練の目標は、現状よりも好条件で働ける職場に就職することなので、訓練を終えたひとり親にとって、そうした職場は魅力がないだろう。
- ・ 中小企業で、条件のよい職場なのに、情報発信がうまくできず良い人材が集められない、と

いうところがあれば、ひとり親の就職先として有力候補になるのではないかと。

- ・ こうした雇用先開拓のノウハウは、ハローワークや、マザーズハローワークが把握していると思う。
- ・ 自治体の雇用先開拓においては、キーパーソンを巻き込めるかどうかポイントとなる。例えば、ハローワークのOBで、雇用先開拓のノウハウを持っており、定年退職後に社会貢献をしたいと考えている人等に、活躍してもらおうとよいと思う。
- ・ 地域によって雇用ニーズは異なるので、その地域でひとり親を雇用する意向・ポテンシャルのある企業を把握し、その企業で求められている職種にマッチするスキルについて、オーダーメイドの職業訓練コースを用意できると、就職の効果が高いと思われる。

3. 本調査研究事業の設計について

- ・ IT企業へのヒアリング調査について、どのような人材であれば正規雇用として即採用したいか、年収やワークライフバランスの実態等について、総合的に聞き取ることで、職業訓練等の事業をデザインする上で参考になると思う。
- ・ 昨年度調査の報告書では、自治体の声として、IT資格は範囲が広すぎるので、審査側の負担が大きいという回答があった。看護師のような資格であれば判断しやすいが、資格の中には有用性がはっきりしないものもあるので、担当職員だけでは判断しにくいという点はその通りなのだと思う。これを踏まえ、本調査の企業ヒアリングでは、どのような仕事が入収入増につながり、無理なく働けるかということ、ある程度絞り込めるとよいだろう。
- ・ また、どんな属性の企業であれば多くのひとり親の採用が期待できるかという点も、明らかにできるとよい。この点が分かれば、自治体から特にその属性の企業に対してアプローチを行うことで、ひとり親の雇用を促進できると思う。
- ・ 企業ヒアリングで、就職したが離職したケースについて、その要因等を把握できるとよい。また、再雇用について、結婚・出産でブランクのある人の再就職がどのくらい可能か、また、再就職するひとり親が実際にいるか等も、把握できるとよい。

4. その他

(1) IT以外の業界について

- ・ ひとり親の安定的な就業に適した業界について、ひとり親に特化してということではなく、全ての女性について、キャリアをなるべく中断させないよう、また賃金を上昇させていけるよう支援している業界がよいだろう。
- ・ 女性是对人サービスの仕事に就くケースが多いが、それ以外の業界にも目を広げていく必要がある。今は男性が中心の職種についても、女性が参入していけるようになるとうい。

(2) 40~50代のひとり親の就職先について

- ・ 中高年は若年層に比べると、定年までの期間が短いので、職業訓練に投資するインセンティブが低いと思われる。ただ、若年層に比べて人生経験が豊富なことが強みなので、それを活かせる職業が向いているかもしれない。例えば、福祉系の相談業務、カウンセリング業務等が考えられる。ただ、給与条件等はそれほど良くないこともあり、確実にすすめられる仕事

を聞かれると回答が難しい。

- ・ 福祉業界は人手不足であり、介護事業所等では70～80代でも働いている人が多く、中高年でも活躍の場が多い。若年層と競合にならないという点で、医療福祉業界はよいのかもしれない。農業等も人手不足は深刻である。
- ・ 40～50代は子育ての負担が減り、仕事を頑張ろうというモチベーションが高まるステージである。時間的余裕ややる気も、1つのアドバンテージになるのではないか。

以上

(4) 神奈川県横浜市

1. 横浜市について

(1) 児童扶養手当受給者数

- ・ 児童扶養手当受給者数は、2024年8月末時点で約1万6,000人である。

(2) 高等職業訓練促進給付金

- ・ 横浜市が高等職業訓練促進給付金の対象資格として指定しているIT資格は、教育訓練給付金の指定講座のうち情報関係の資格である。
- ・ 昨年度までは、給付金の利用希望者については市で直接相談を受けていたのだが、今年度からは、ひとり親サポートよこはま（横浜市母子家庭等就業・自立支援センター）で対応している。給付金の申請時に、ひとり親サポートよこはまの就労支援員が面談を行い、その中で資格取得を目指す理由を聞き取っている。
- ・ 資格取得者のアフターフォローとしては、こども家庭庁からの就労実績調査（年1回）に対し、就職状況等を回答している。また、本人から就職活動のサポートを求められた場合はフォローを行っており、その場合は具体的な状況まで把握できることがある。

(3) ひとり親支援の取組

- ・ 横浜市で特徴的な取組としては、「ひとり親コンシェルジュ」がある（詳細は後述）。
- ・ 母子家庭等就業・自立支援センター事業は、横浜市のひとり親支援の中核的な事業であり、ひとり親サポートセンターよこはまの就労支援員が中心となって、就労支援等を行いながら自立に向けたサポートをしている。高等職業訓練促進給付金の受給者も含め、支援を必要とするひとり親に対し、生活と就労の両面について伴走支援している。
- ・ 区役所の窓口に来たひとり親であれば、窓口で就業相談が適切と判断すれば、ひとり親サポートよこはまに案内している。他方、そもそも自ら区役所へ相談に来られないひとり親の方々については、ひとり親サポートよこはまをどう周知していくかが、今後の課題と考えている。

2. ひとり親の就業実態や必要な支援について

(1) ひとり親に特に必要と思われる支援

- ・ 小さな子どもがいる家庭に対しては、例えば見守りサービス、送迎サービスや、育児と仕事の両立ができるよう、フレックスタイムやテレワーク等、柔軟な働き方ができる仕組みが必要である。
- ・ ひとり親になり、就労が必要となる経緯は人それぞれなので、個々人の生活状況や気持ちの整理をお手伝いしながら、就職に向けた準備を考えられるように支援をしていくことが重要である。就労しやすくなるための支援も重要だが、気持ちの整理等も含めた全体的な支援も重要ということである。
- ・ ひとり親サポートよこはまでは、ひとり親が利用できるサービスについて、分かりやすく、適切に利用できるように案内することで、それぞれが必要な支援につながれるよう努力している。

(2) 「ひとり親コンシェルジュ」の取組

- ・ 横浜市では、「ひとり親家庭思春期・接続期支援事業」として、中学1年生の子を養育する児童扶養手当受給世帯を対象に、家庭教師を半年派遣するとともに、その期間中に相談支援員が家庭を訪問して、保護者への相談支援を実施している。この事業の中で、「ひとり親コンシェルジュ」という取組を行っている日本シングルマザー支援協会と「ひとり親家庭の自立支援に関する連携協定（ひとり親応援協定）」を結び、同協会が保護者への相談支援を実施している。
- ・ 相談支援では、これから高校受験等を控え、教育費の必要性が増していくというタイミングで、保護者の収入がアップするようサポートしていくことを目的としている。現在の生活状況や就労状況、教育費をどう準備していくか等について、就業相談を中心に様々な相談に対応している。
- ・ 「ひとり親コンシェルジュ」では契約上、相談支援は1回としているが、その後継続的に同協会からの支援を受けているひとり親もいるようで、効果を感じている。

(3) 業界・職種ごとのひとり親の就業の傾向

- ・ ひとり親が働きやすい職種としては、事務職が挙げられる。土日が休みで残業が少ないため、特に小さな子どもがいるひとり親には、希望する人が多い。また、就労支援員から見ても、事務職は子育てと両立がしやすいとのことである。
- ・ 生活を安定させたいと考えるひとり親には、収入が安定しやすい医療・介護の仕事に就くために、関連の資格を取得する人が多い。高等職業訓練促進給付金の受給者の中にも、介護福祉士実務者研修や初任者研修を修了した方が何名かいる。
- ・ 接客業は土日の休みが取りにくいいため、避ける人が多い。
- ・ テレワークを希望するひとり親が多いが、テレワークで働ける仕事というのは、そもそも一定のスキルが条件になっていることが多い。例えば、経理や事務等の仕事の経験があれば、テレワークの仕事で雇用されるチャンスは高まるが、未経験だと難しい。テレワークで何の仕事をするのか、その仕事の経験があるかが、重要である。
- ・ 建築系の企業で、ひとり親の社員がリフォームの営業で高い成績を出しているとのことで、ひとり親がフレキシブルに働ける仕事として、営業の求人を市に持ってきたことがある。
- ・ ひとり親の中にも、両親と同居しているケース、自身や子どもが障害や不登校の問題を抱えているケース等、いろいろなパターンがあり、個々の状況に応じてどのような仕事が向くのかも変わり得る。そのため、「ひとり親に向けた業界」といったものを一律に整理できるのか疑問がある。

(4) ひとり親に理解のある・積極的に雇用する企業が増えていくために、必要と思われること

- ・ ひとり親を支援する行政の制度や就労を支援する団体について、広く認知してもらうことが重要である。ひとり親だから短い時間しか働けないといった誤解もまだ多い中、ひとり親の方の事情はそれぞれ異なり、働きやすい環境等のサポートがあれば、課題を抱えながらもしっかり働ける方がいることを、企業にも知ってもらう必要がある。

3. IT 資格を取得するメリット・課題

- ・ 高等職業訓練促進給付金を活用して取得された IT 資格として多いのは、Microsoft Office Specialist (MOS)、ICT プロフィシエンシー検定 (P 検)、Web デザイン関係の資格等である。これらを取得したひとり親のうち、元々関連する仕事の経験があり、それを補強するために資格を取得した人の場合は、資格がうまく就職等につながっているようである。一方、元々知識がない状態から資格を取得した人の場合は、資格が就労に結びつきにくい傾向がある。
- ・ 就労支援員によると、実際に取得を希望するひとり親は少ないものの、CAD は建設業界で需要があるのではないかとのことだった。実際に、CAD を取得して大手企業に就職した事例もある。ただ、ひとり親の中には、DV 被害等の影響で男性の多い業界で働くことに不安があり、男性が多いイメージの仕事避けようとする人もいるかもしれないため、留意が必要である。
- ・ Web デザイン関係の資格は、元々デザインの仕事等をした経験がなければ、資格を取得しただけですぐに就職等につなげることは難しいと考える。
- ・ IT 資格を取得するだけですぐにテレワークができる、といったイメージを持っているひとり親も少なくない。テレワークでもオフィスワークと同様に、仕事自体をしっかりとる必要があることを、ひとり親に対して伝える必要がある。そもそも初めて働くというひとり親も多いので、まずは、働くことはどういうことなのかを知ってもらうことが大事である。
- ・ 現在、ひとり親サポートよこはまにおいては、IT 関係に特化した求人開拓を行っているわけではないが、把握している求人の中には、IT を活用できる仕事も幾つかある。その内容を見ると、IT の専門職（エンジニア等）より、IT 事務の仕事が多い。IT 事務の求人は比較的見つけやすく、ひとり親とのマッチングもしやすい。他方、IT 専門職は求人開拓も難しい上、スキル等の観点で、マッチするひとり親は少ない。

4. その他

- ・ 本調査で作成する事例集について、現場の参考になると思う。これまでも、IT 資格については、どの資格を取得するとどのような結果につながるのか、イメージが持ちにくいと感じていた。
- ・ 高等職業訓練促進給付金を申請するひとり親の中には、あらかじめ「この資格を取得したい」と明確に決めてから事前相談に来る人も多い。そうしたケースでは、就労支援員から別の資格を提案するのは難しいこともある。
- ・ 例えば、IT を活用する仕事が未経験でありながら、難易度の高い資格取得を希望するひとり親がいたとしても、就労支援員側が IT 資格や IT を活用する仕事について知識が不足していると、「その資格は難しいのではないか」といった助言はしづらい。その結果、修業期間内に資格を取得できないといったことにもなり得る。

以上

(5) 福岡県北九州市

1. 北九州市について

(1) 児童扶養手当受給者数

- ・ 児童扶養手当受給者数は、令和5年3月末時点で8,438名、令和6年8月末時点で8,678名であり、概ね横ばいに推移している。

(2) 高等職業訓練促進給付金の実施状況

- ・ 高等職業訓練促進給付金の対象資格は、一般教育訓練給付の指定講座のリストに掲載されている資格としている。
- ・ 講座修了後のアンケートでは、資格を取得したかどうかという点は設問を設けているが、その後の就職状況は把握していない。

(3) ひとり親家庭の自立応援給付金事業の狙い・背景

- ・ 市のひとり親家庭等実態調査でも、ひとり親は非正規雇用の割合が多く、収入も全国平均より低いことが示されている。この結果を勘案し、高等職業訓練促進給付金に加算する形で、ひとり親家庭の自立応援給付金を設けている。

2. ひとり親の就業実態や必要な支援について

(1) ひとり親の就業の現状及び必要な支援

- ・ ひとり親の相談窓口は、大きく分けて2つある。各区役所の子ども家庭相談コーナーでは、就職に限らず子育て・家庭に関する悩みの相談を受け、母子・父子福祉センターでは、就職・自立に関する相談を受けている。
- ・ 北九州市では5年に1度、ひとり親家庭等実態調査を実施し、施策に反映している。令和3年度の調査では、配布数は母子家庭が3,750世帯、父子家庭が1,250世帯、寡婦が1,000世帯の合計6,000世帯である。この調査では、雇用形態の割合は、父子家庭では74.7%が正社員・正職員である一方、母子家庭では正社員・正職員が50.6%、パート・アルバイトが30.4%であった。母子世帯の月収は、15~20万円未満が31.0%で最も割合が高いが、子育てするには十分な収入とは言えない。この結果から、雇用形態が正規であるか非正規であるかが収入を分けるポイントであると考えている。
- ・ 正社員への転換に向けて、行政ができることは資格取得の支援であると考え。就職に結びつけるためには、企業からの働きかけも必要である。
- ・ 講座の受講に当たっては、金銭的な支援に加え、託児サービス等により受講のハードルを低くすることが重要である。

(2) 各業界におけるひとり親の就業・資格取得の傾向

- ・ ひとり親家庭等実態調査で就業先を聞いたところ、事務、専門的・技術的職業（看護師、保育士等）に続き、サービス業（飲食店、理容・美容店、接客やサービス業従事者等）や、販

売の仕事の割合が高かった。サービス業や販売は資格がなくとも働けるため、選ぶ人が多いと考えられる。

- ・ 正規雇用を目指すには、取得後すぐに就職できる医療・福祉系の資格が有効であると考えている。取得者数を見ても、医療・介護系の資格が多い。未経験の状態から目指す人が多く、准看護師から看護師にステップアップすることで収入の増加を目指すケースも見られる。資格取得と採用が必ずしも結びつかないIT系資格と比較すると、医療・福祉系は資格取得から就職までの道筋が明確である。また、医療分野や介護分野では女性の雇用ニーズが高い。
- ・ 一般事務職に就くケースも多いが、採用に当たっては資格取得よりも一般的なパソコンスキルが必要とされる。MOSのようにベースのスキルがあることを示せる資格は有用である。
- ・ 上記以外では、理学療法士、自動車整備士、美容師の資格を取得する人も見られる。

(3) ひとり親を積極的に雇用する企業が増えていくために必要と思われること

- ・ ひとり親が働きやすい企業には、職種に限らず、柔軟な働き方が可能であることや、ひとり親に理解のあることが求められる。例えば、在宅勤務が前提であれば、感染症等で保育園が休園になった際に、自宅で子どもを見ながら仕事ができる。また、ひとり親への理解がある職場であれば、子どもの発熱時にすぐに迎えに行くことができるだろう。
- ・ ITを活用した仕事で在宅勤務するには、企業に勤めて在宅勤務するケースと、フリーランス（個人事業主等）として自宅で働くケースがある。後者の例としては、Webクリエイターの需要が増えるとよい。ひとり親の雇用について、企業側のメリットを示せると、雇用が広がると考える。
- ・ 首都圏と地方では、可能な働き方や採用ニーズが異なる。北九州市は高齢者が多く、看護師や介護士のニーズが大きい。ひとり親にとっては柔軟に働くことが難しい職種である。ITを活用する仕事の求人は、首都圏より少ないと思われる。
- ・ 母子・父子福祉センターは就労支援の窓口への情報連携までを担当している。市の窓口であるウーマンワークカフェ北九州に、母子・父子福祉センターの支援員を常駐させることで、ひとり親向けの求人情報を連携している。
- ・ 雇用先の開拓については、情報の入手が難しいことが課題である。どこにアクセスすれば求人情報があるかというような情報が分かりやすく示されると、一定の効果があると考えられる。

3. ITを活用した仕事について

(1) ITを活用する仕事で、ひとり親の安定した就業につながると思われるもの

- ・ 安定した就業のためには、雇用条件や柔軟な働き方の可否がポイントとなる。
- ・ Webクリエイター能力認定試験に合格し、正社員で採用された事例がある。その方は、以前はITに関係しない仕事をしていましたが、資格取得後にWeb制作の仕事に就いた。Web制作の仕事に就くために資格を取得するという強い意志を持っており、現在は正社員として週5日、1日8時間働いている。ある程度の収入を得たいのであれば、資格取得は有効であるという声があった。
- ・ 上記は稀なケースであり、多くの場合はIT関係の経験を持つ人が勉強して採用される場合が多い。

(2) 北九州市が行っている IT を活用した仕事への就職支援

①母子・父子福祉センターにおけるパソコン講座

- ・ 北九州市立母子・父子福祉センターでは、ひとり親・寡婦を対象に、Excel、Word、PowerPoint 等、職種を問わず求められるパソコンスキルの講座を開催している。受講者は就職の経験がない人やアルバイト・パートで働いていた人が多く、パソコンのスキルを持っていない人が多い。講座の修了者の就職先は不明であるが、一般企業に就職して一定のパソコン操作ができるスキルを身に付けることを目標にしている。
- ・ 事務職では Excel や Word が利用できることが基本となるため、資格取得により、企業にも最低限の知識を持っていることを示すことができる。
- ・ パソコン講座修了後に高等職業訓練促進給付金を利用するケースはあまり見られない。講座修了者については、母子・父子福祉センターの職員が就労支援機関に情報提供している。

②母子・父子自立支援プログラム策定事業

- ・ 母子・父子福祉センターでは自立支援プログラム策定事業を行っている。キャリアカウンセラーがひとり親の経歴や希望を聞き取り、就労に向けたプログラムを作成している。プログラム策定後のフォローアップは行っていないが、アンケート調査や再度相談に来た人の話から、状況を把握することはある。
- ・ 人手不足対策とひとり親の就労支援のマッチングについて、現場では就労支援機関と連携している。

(3) IT 資格の取得に関する課題

- ・ IT 資格取得から就職への道筋が明確でないことが課題である。資格がないよりは、保有している方が有利ではあるが、就職が約束されるわけではない。一般の企業は、第四次産業革命スキル習得講座や Web デベロッパーの資格と言われても、どのようなスキルを持っているのか分からない。資格の価値を認識している企業とひとり親のマッチングが機能するとよい。
- ・ 高等職業訓練促進給付金は、資格を取得したいという意志を持って利用する人が半数である一方で、経済的サポートを目的として窓口を訪れる人もいる。

4. 本事業の設計について

- ・ 支援側としては、スキルさえあれば雇用できるのか、経験が必要なのかといった、企業のニーズを知りたい。資格の必要性が明確になればよい。窓口で相談に乗る職員にとっても、保育士や看護師であれば分かりやすいが、IT 資格は保有スキルや就職への道筋が分かりにくい。そのため、相談者の希望通りに案内している可能性がある。内容が分かりにくい資格についても、相談対応者向けに案内があるとよい。

以上

(6) 一般社団法人グラミン日本

1. グラミン日本の活動について

- ・ シングルマザーには接客業（ネイル、ヘッドスパ等）をしている人が多く、グラミン日本はそうしたビジネスに対しマイクロファイナンスを行ってきた。しかし、コロナ禍で接客業が難しくなると、派遣切りに遭うケースや、こどもの貧困等の問題が増えていった。そこで2021年にスタートしたのが、地方の生活困窮リスクを抱える女性を対象とした「でじたる女子」プロジェクトである。SAP ジャパン株式会社及び株式会社 MAIA と提携し、生活困窮リスクのある女性（シングルマザーに限らない）を対象として、MAIA の提供するeラーニングでITスキルを身につけてもらった上で、SAP ジャパンの人材情報の管理システムを活用して企業をマッチングする事業を開始した。また、愛媛県や沖縄県等の自治体とも提携し、自治体を通して対象者を募集した。
- ・ 2023年度には、休眠預金等活用制度を活用して、日本シングルマザー支援協会とのコンソーシアムにより、困窮リスクのあるシングルマザーに特化した「シングルマザーのデジタルスキル研修&就労支援」を開始した。現在、全国の計10団体と連携しており、グラミン日本がこれまでに培った就労支援のノウハウやマイクロファイナンスのナレッジを団体に提供することを通じて、地方居住のシングルマザーをサポートしている。各団体はそれぞれ、テレワークにつながるITスキル（経理に生かせるITスキル、不動産の仕事で活用できるITスキル、プログラミング、RPA等）に通じており、それぞれのスキル習得に向けた支援を行っている。
- ・ 「インパクト雇用」という言葉は独り歩きしがちだが、インパクト雇用というのは、どんな社会課題にどんなインパクトをもたらすかが重要となる。経済的インパクトだけでなく、精神的インパクト、こどもへのインパクト、地域へのインパクト等、様々あり得る。グラミン日本のインパクト雇用（正規雇用だけでなく、業務委託、副業も含まれる）においては、生活困窮リスクのある地方居住のシングルマザーについて、経済的自立を達成する（相対的貧困世帯を脱する）ことを目指している。

2. 就職支援のプログラムデザインの考え方

(1) ゴール設定

- ・ ゴールとなる自立の定義（働くことなのか、その中でも正規雇用なのか副業なのか、あるいは今すぐ就職予定はないが将来に備えてITスキルを身につけることなのか）によって、必要な支援は異なる。また、シングルマザーの中でも、経済的に余裕のある層と困窮リスクのある層では、設定すべきゴールや制度設計が異なる。
- ・ 職業訓練やハローワーク等、就職支援に関連する取組は様々あるが、本来目指していることとKPIが必ずしも一致していないと感じている。例えばハローワークのKPIは、継続雇用ができていくかではなく、仕事のマッチングができたかどうか（就職件数等）となっていることが多い。しかし本来は、継続雇用をゴール及びKPIとして設定し、そのためにどのような対象者に対し、どのようなカリキュラムを通じてどのような資格を取得してもらうのか、ゴ

ールから逆算して制度設計する必要がある。

- ・ 支援のKPIは就職自体というより、就職後の給与や生活水準と考えるべきであり、対象者の就職後の状況も捕捉する必要がある。

(2) 対象者のターゲティング

- ・ 対象者の属性（居住地、職歴等）や意向を踏まえることは必要である。例えば沖縄県では、若年で結婚・出産しており、社会人経験がない20代のシングルマザーが多い。他方、都内では、直近の職歴はないものの過去に就労経験があり、今は35歳を超えてこどもも大きくなっているといった人も多い。職歴の有無やブランクの長さ等によっても、身につけるとよいスキルが変わってくる。
- ・ シングルマザーの中で、全く働いたことがない人は少ないと思っており、主に3パターンに分類される。1つ目は、以前は正規職員等で働いていたが、結婚・出産で離職し、直近の職歴にブランクがある人たち。日本では直近の職歴が重視される傾向にあるので、再就職のハードルが高い。また、最近のIT業界のトレンドへのキャッチアップに不安がある。他方で、こどもも大きくなってお金が必要で、かつ自分に投資する時間的余裕が生まれてきている人が多い。2つ目は、パートや派遣等での就労経験があるが、育休・産休等のタイミングで転職をしてきており、企業からするとジョブホッパーで採用しづらいように見えてしまう人たちである。経験職種としては、スペシャリストよりも、総務等のジェネラリストが多く、ITスキルを身につけて長期的に就業したいと考えていることが多い。3つ目は、飲食業・接客業で働いている人たち。IT化で接客業の需要が低下する中、キャリアチェンジを希望している。
- ・ さらに、こうしたシングルマザーが何を目標としているかによっても、プログラムのデザインは変わる。①すぐに就職をしたい人、②長期的に働きたい人、③実家に住んでいる等で経済的には余裕はあるが、将来的には困窮するリスクがあるので勉強しておきたい人等、いろいろいるだろう。③のケースの場合、短期的には支援の効果が現れないことになる。例えば高等職業訓練促進給付金等で、直近の必要性はないがとりあえず資格を取得しておこうという人が利用した場合は、支援の効果は出にくい。

(3) 出口戦略

- ・ 出口戦略を意識する必要がある。市場の動向を分析し、需要の高い仕事やスキルをターゲットにすることが重要となる。AIも台頭する中、今後需要がなくなっていく仕事もある。
- ・ 自治体においても、地域の企業のニーズを踏まえ、そこで求められているスキルについて、シングルマザーに対し習得支援をするのが効果的である。特に、企業と連携してカリキュラムを作るとよい。
- ・ IT業界は未経験者をあまり採用しないという見方は、正しくないだろう。実際には未経験採用は少なくない。何を「IT経験あり」と見なすか、また、「IT」の定義にもいろいろある。例えば、テレワークのツール（オンライン会議システム等）を活用できることを「ITスキル」と呼んでいる場合もある。こうした定義は丁寧に行う必要がある。
- ・ 企業は行政やソーシャルセクターと異なり、福祉的な観点からシングルマザーの雇用をした

いという思いがあっても、事業が継続できなければ成り立たない。自治体がシングルマザー雇用促進に向けて企業開拓をする場合も、シングルマザーだけ特別扱いをして採用してもらうという発想ではなく、基本的には通常の雇用マッチング、特に新卒採用と同じ考え方でアプローチすべきである。

- ・ 企業が採用に当たり最も重視するのは、コミュニケーションやタスク管理等のソフトスキルである。その上で、ITスキルがあればプラスの評価になる。ソフトスキルがないままITスキルだけ持っていても、採用可能性は低い。
- ・ また、新卒採用と同様に、シングルマザーでもインターンシップを経験できる仕組みが必要である。シングルマザーにとっては、企業での就業経験を積むことができる。また、企業にとっては、福祉的な観点で特別に雇うとなるとハードルが高いが、インターンシップを通じて能力の高いシングルマザーに出会えば、純粋に雇用したいと考えるだろう。こうした機会を増やすため、IT未経験のシングルマザーにインターンシップの機会を提供する企業に対し、行政からサポートする仕組みがあるとよい。インターンシップ付きの職業訓練が用意されるとよいのではないか。

(4) その他

- ・ 地方になるほどマルチタスクが求められるIT企業が多く、業務を切り出して未経験者を雇用・育成することが難しい。そうした地域のシングルマザーにITを活用した仕事を用意したいならば、都内のITベンダーの大規模な業務を分解するしかないが、それは地方自治体でできることではないだろう。
- ・ ソフトスキルの他、マインドセットも重要である。シングルマザーの中には自己肯定感が下がっており、それが原因で継続的に就業できないケースも多い。自己肯定感を高めるトレーニングも必要となる。
- ・ 金銭管理が苦手なシングルマザーも多い。経済支援の制度に関する情報も収集できておらず、手早くお金を稼ごうとして金融詐欺に遭ってしまったりもする。金融リテラシーを高める支援も必要である。
- ・ 自治体の中で、企業誘致や企業DXを担当する部署と、ひとり親支援の部署の連携があまりできていないように感じる。他方で、愛媛県では分野横断的な連携が進んでおり、「でじたる女子」のプロジェクトも進めやすかった。

以上

(7) 特定非営利活動法人ウィズワーク・ラボ

1. 団体について

- ・ 特定非営利活動法人ウィズワーク・ラボは、2014年にチルドリン徳島として設立。母親や支援者が集まったのイベント開催や子連れでお喋りができる居場所づくりを進める中で、母親が子育て期に孤立せず、生きがいを持てることが重要という話が出されたことをきっかけに、「ICT ママ」（母親たちがデジタルスキルを学び、チームでテレワークを行うことで報酬を得る仕組み）を始めた。その当ても、再就職はできなくても在宅でなら働きたいという人は多く、第1期の説明会は50人を超える応募があった。
- ・ その後、徳島県や県内自治体からテレワーク関連の事業を受託するようになった。「ICT ママ」で培ったノウハウを、働き方についての相談対応やスキル講座、テレワーカーの養成、就労支援に活かしている。また、かつては、離職して小さなこどもの育児に専念している母親の利用が多かったが、数年前からは男女問わず、高齢者、若者、家族のケアを担っている人、在職中の人の利用も増えている。
- ・ 2024年4月より法人名と代表交代を行い、「働きたい人が働き続けられる社会」の実現をビジョンに掲げ、地方在住者でも市場価値の高いスキルを身に着けるための支援と、企業等でのデジタル化推進等に取り組んでいる。
- ・ 具体的には、キャリア支援（柔軟な働き方をしたい人のキャリア相談、テレワーク支援やICT人材（テレワーカー）育成、クラウドサービスを活用した業務委託、ワークシェアリング支援）、環境整備（自治体との協働による柔軟で多様な働き方の啓発、企業へのスマートワーク導入支援）、働き方に関する調査研究等を実施している。

2. ひとり親等の就業支援の状況について

(1) 『デジタル未来塾～シングルマザー自立応援プロジェクト～』の実施

- ・ 『デジタル未来塾～シングルマザー自立応援プロジェクト～』は、生活に困難を抱えるシングルマザーが、家族とともに豊かで幸せな生活を送れる地域社会を目指す取組である。
- ・ グラミン日本の休眠預金等活用事業（2024年4月～2027年3月）の実行団体に採択された。
- ・ 当法人は、「働き方や仕事を変えたい」という強い意思と意欲のあるシングルマザーに、デジタルスキルやライフスキルの段階的な研修・就労支援・伴走支援を提供すると同時に、地域社会（企業や行政等）に変革への協働を呼びかけ、シングルマザーがデジタルスキルを活用して在宅ワーク（就業・副業・正社員化・起業）をしやすい環境を作ろうとしている。
- ・ 当該プロジェクトの実施に当たり、当法人が有する、10年にわたるデジタル人材育成とワークシェアの経験、企業等へのテレワーク等柔軟な働き方の導入支援のノウハウを生かしつつ、シングルマザーを含む生活困窮者支援に実績があるNPO法人bond place（山梨）と手を組んだ。2団体が協働することで、必要な情報が届かない、頼れる人がいない、学びの時間や場所のミスマッチ、就労機会の不足といった入り口と出口の問題の解決を目指している。

- ・ 最初に、シングルマザーと企業、行政（主にひとり親家庭等支援の担当課や公的専門機関）にそれぞれヒアリングやアンケート調査を行い、地方在住シングルマザーの就業や行政支援の現状やニーズ等を把握し、その結果に基づいて研修・支援カリキュラムを作成した。

【徳島モデル第一期の研修・支援プログラム】

- ・ ライフスキル研修：シングルマザーが知っておきたい法的知識や日常を便利にするコツ等を週2回公式LINEで配信し、キャッチアップしてもらう。
- ・ ビジネスハック研修：eラーニングと集合研修で実施（毎週水曜日に午前・夜に開催）。基礎編は在宅ワーク、業務改善、クラウド会計、構築編からは各自の目指すキャリアモデルに応じたデジタルスキルの習得を目指す。
- ・ 伴走支援：オンラインでつながって自習や質問ができる『もくもく会』（毎週木曜日に昼・夜に開催）や、『ココロの保健室』（グループウェアや電話等で受付）を設け、メンタルやキャリアの相談にそれぞれ専門家と連携して対応する。
- ・ 一方、「就業機会の不足」という出口の問題解決にも取り組んでいる。企業・行政に向けた事業説明会を開催して取組への理解と支援を求めたり、応援ネットワークとして経営者や行政・大学教授を迎え、具体的な協力や意見をもらえる体制を作っている。また、デジタル人材の活用に関心を持つ企業にアプローチし、柔軟な働き方の実現に向けたノウハウ提供や、外部人材（テレワーカー）の力を借りるための業務の切り出し方法等をアドバイスしている。

3. ひとり親と企業・委託業務のマッチングについて

（1）テレワーカーの業務委託元になり得る企業

- ・ IT系企業（Webコンサルティング、行政のCMS会社等）の業務はテレワーカーに外注しやすい。
- ・ 地方では、経営者が業務の外注を想定できていないことが多く、当法人では、あらゆる業種の中小零細企業に業務の切り出し方を整理・提案して、業務委託につなげている。最近では、経営者が抱え込んでいる秘書業務（スケジュール管理、リサーチ業務、プレゼン用の資料作成等）や、農業経営者のオンラインショップの発注管理等の業務について委託につなげた。このような業務に2人以上の相互にサポートできる体制でマッチングしている。
- ・ 経営者も公務員もITを使う業務に手間取り、本来の仕事に時間が取れないほどだと聞く。DXの推進支援でデジタルスキルを持つシングルマザー等に業務を切り出せると想定している。

（2）業務委託型のテレワーカーの収入

- ・ 地方では女性の正社員は年収300万程度が多い。260万円以上払える中小零細企業は多くはない。
- ・ 業務委託の報酬は月収5千円～5万円くらいの幅がある。未経験者の場合はパソコンスキルが必要ない数千円程度の案件の需要が多い。スキルや経験が向上することで月収5万円以上稼ぐ人も出てくる。時間がある人は複数の案件を掛け持ちしている。

(3) 自治体単位でのテレワーカーと企業のマッチングの方策

- ・ 自治体では、中小企業向けの DX 人材の確保等の取組が行われている。このような取組を担う商工労働や産業振興等の団体（商工会議所等）と連携できるとよい。企業に対して、10 時間分の業務を 3 万円で外注しないか等の提案ができれば、養成中のテレワーカーのトレーニングにもなる。企業では以前のように OJT ができておらず、人材の育成や定着に課題があると聞いている。ビジネスプロセスアウトソーシング的なマッチングができるとよいと思う。行政は財源の関係で制度同士の連携は難しいのかもしれないが、その点を企業や NPO で横軸となりつなげられれば良いのではないかと考えている。
- ・ 地域の人材不足解消のためには、ニーズのある企業とスキルアップした人材をマッチングする必要があるが、委託事業者によっては、就職先に偏りができ、広く地域に還元できないこともある。公平に機会を提供できる仕組みづくりが重要である。当法人が徳島県事業で取り組んでいるキャリアマッチングは、期日が決まっている「イベント型」ではなく「通年型」とし、ワーカーも企業もお互いに必要なときに参加できるようにしている。

4. その他、自治体への示唆

(1) 雇用を目指すテレワーカーと企業のマッチング

- ・ （ひとり親のみが対象の事業ではないが）徳島県の事業として、テレワーク講座を修了したテレワーカーと企業のマッチングを通年で実施している。テレワークを目指す方法は 2 種類（業務委託を受けて報酬をもらう自営型テレワーカー、企業に雇用されてのテレワーク）があるが、徳島県は労働雇用政策として企業における雇用推進を目指しているため、当法人では、テレワーク可能な会社と就労希望がある講座修了者をマッチングしている。

(2) 地域やひとり親個人の特徴に応じた就職支援

- ・ ひとり親にも様々な方がおり、企業勤めの経験の有無、経済状況、本人・こどもの年齢等、特徴は様々である。また、地域によって、ひとり親全体の傾向が異なることもある（企業勤めの経験者が多い地域、少ない地域等）。
- ・ 就職支援に当たっては、こうした地域や個人の特徴に応じたプログラムを構築する必要がある。例えば、企業勤めの経験がない人を対象とする場合、まずは未経験者でも就職しやすい職種（事務や軽作業等）を目指しながら、並行して IT の基礎スキルや社会人としての基本的なマナー・スキルを習得するサポートを手厚くし、将来的にデジタル人材として働けるようステップアップする道を整備していく、といったことが考えられる。
- ・ また、地域の産業を考慮し、就職しやすい職種やリモート業務の可能性を探ることも重要と考えている。例えば、農業が盛んな地域では、農家の受発注サポートや広報活動、観光地では接客やガイド業務の多言語対応等がテレワーク（在宅就労）で実施可能な仕事として挙げられる。こうした新たな仕事を創出するには、女性の感性やデジタル技術の知識が活かされる場面が多く、過去に企業勤めの経験がないことは必ずしも大きな障害にはならないのではないだろうか。

5. IT 資格について

- ・ 社会も DX も変化が大きいので、個々の資格やスキルよりも、傾聴力、共感力、問題に気づく力や業務遂行力といった総合力が求められるのではないかと考えている。
- ・ 他方で、一定のスキルがあることを証明するために資格は有用である。しかし、まだ、地方の中小零細企業においては、その資格や業務スキルがどう活かされるのかをイメージできない場合もあるので、自分はこの分野で活躍できる人材だと示すために、過去の成果物やスキルアップの過程等を示せるような準備をしておくことも大事だと思う。
- ・ なお、『デジタル未来塾』では、全員に「一定のセキュリティ知識と対応スキルを持ちながら、即戦力として業務に当たれる人材」になってもらうことを目標にしている。この背景には、中小企業に行った事前調査で、顧客データやビジネスデータを守るために専門的なセキュリティ知識とスキルを持つ人材を求めていることを把握したことがある。
- ・ 専門スキルを使って仕事ができる人であれば、遠隔地の企業等からの雇用や、業務委託・ワークシェアを受けられる可能性があり、シングルマザーであることは障壁ではなくなるのではないかと考えている。

以上

(8) 東京都江戸川区

1. 基本情報

(1) 江戸川区のひとり親支援の組織体制

- 江戸川区では、ひとり親家庭の子育てや、生活から就業についての相談にワンストップで応じる窓口として、本庁舎の2階（子ども家庭部児童家庭課）と人権・男女共同参画推進センター（以下「センター」という。）の2か所に、ひとり親相談室すずらん（以下「すずらん」という。）を設置している。本庁舎・センターともに、総務部人権・男女共同参画推進センター相談啓発係がすずらん、高等職業訓練促進給付金を所管している。他方、子ども家庭部児童家庭課では、児童扶養手当等の手当関係を所管している。

(2) 「ひとり親相談室すずらん」の人員体制、所管業務等

- センターに所属する相談啓発係の職員で、すずらんの担当者は3名いる。また、すずらんは平成28年度から民間企業（株式会社エイジェック）に委託しており、本庁舎に2名、センターに1名の相談員が常駐している。
- すずらんの担当業務（区からの委託業務）は、就業相談、生活相談、生活支援講習会、ひとり親家庭の情報交換事業の4つである。委託先企業は江戸川区以外の自治体でもひとり親相談の業務を受託しており、各相談員は、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を保有している。就業相談においては、キャリアの棚卸し、今後の見通し、労働市場のニーズ把握、業界のマッチング等の専門的なノウハウが必要になるので、専門性を有する企業に依頼する方が効果的との判断から、委託を行っている。
- 児童扶養手当等の支給事務は児童家庭課が行うが、それ以外の就職、資格取得、生活等の相談支援は、相談啓発係やすずらんで対応している。児童家庭課の隣にすずらんがあるので、児童扶養手当等の相談に来たひとり親に対し、児童家庭課の職員から相談員を紹介してもらう。

(3) 就業相談に力を入れている背景

- 区としては、特に就業相談に力を入れている。平成26年に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行され、更に平成27年の「すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト」という政府方針では、自治体の窓口のワンストップ化の推進が掲げられた。これを受け、江戸川区で子どもの貧困やひとり親に関する実態把握を実施したところ、ひとり親の経済状況や就業にまつわる様々な課題が浮き彫りになった。また、当時は、区の窓口で就業相談を受けた後、ハローワークに行ってもらう必要がある等、忙しいひとり親への円滑な相談支援ができていなかった。こうした状況を改善すべく、ひとり親の相談をワンストップで受けとめ、専門的知見を持つキャリアコンサルタントが相談に対応することで、経済的な自立まで伴走可能な体制を整えた。

(4) 高等職業訓練促進給付金について

- ・ 高等職業訓練促進給付金による資格取得の状況については、修業修了後に区から郵送でアンケートを実施しており、回答のあった人の分のみ把握できている。
- ・ IT 資格については、Web クリエイター能力認定試験を取得する人が大半だが、その他にLPi 認定資格、Web デザイン技能検定、MOS もある。
- ・ プログラマーや Web デザイナーは仕事内容がイメージしやすいため、これらの仕事に関連する資格に興味を持つ相談者が多いのだと思われる。また、モノづくりが好き、SNS の活用が得意、画像の加工が得意、といった動機のケースもある。他方、インフラやネットワークのエンジニア等の仕事はイメージがつきにくいようだ。
- ・ 修業者には、区として年に 3 回出席状況の確認を行う。出席の状況によって学習の環境に変化がないか等を本人に確認し、必要に応じて相談を行う。
- ・ 1 年以上にわたり修業する人については、区として 1 年ごとに面談を実施している。また、修業修了後、前述の通りアンケートを実施して、資格取得状況を把握している。

2. ひとり親相談室すずらんにおける相談支援

(1) 相談の流れ

- ・ 相談件数は、実数で年 300~400 件、月 30~40 件程度である。1 回きりの相談となる人もいるが、就業相談の場合は継続的に相談に来てもらっている。相談の多くは離婚や子育てに関するものである。
- ・ 江戸川区では令和 6 年の夏から、高等職業訓練促進給付金の利用を申請する場合は、事前にすずらんでの資格取得及び就業相談を受けることを必須としている。特に令和 3 年度に資格の対象が拡充されてからは、IT 資格に関する相談が増えてきているが、具体的な将来設計がないまま IT 資格を取っても、就労にはつながらない可能性が高い。そこで、キャリアコンサルティングの中で、就労とセットで資格取得の戦略を立てられる仕組みにした。すずらんで相談した結果として、高等職業訓練促進給付金の申請に至らないケースもある。
- ・ ひとり親から資格に関する相談があった場合は、母子・父子自立支援員からすずらんにつないでいる。この他、元々すずらんに資格以外の相談に来ていた人について、すずらんの相談員から資格取得を提案することもある。
- ・ キャリアコンサルティングでは基本的に母子・父子自立支援プログラムを策定しており、資格取得を検討している人についてもプログラムを策定している。

(2) 資格に関する相談支援のポイント

① キャリアやスキルの棚卸

- ・ 相談者が安定した生活を継続できることをゴールと考えており、資格取得についても、安定的な収入につながるかが重要と考えている。
- ・ 初めに、これまでのキャリアやスキルの棚卸しを、時間をかけて行う。年齢、本人の適性、家族環境等を聞き取りつつ、資格取得が就労につながる可能性があるかを考える。自分のキャリアやモチベーション等、相談に来た段階では本人が整理しきれていないことも多い

が、相談員と一緒に棚卸しをする中で、本人の中で整理がついていく。

②修業できる体制の確保

- ・ 資格取得には一定の期間を要するため、家庭環境も大事であり、今の環境で学習を継続的に行えるのかも確認している。相談員からの問いかけにより、「子育てしながらは無理かもしれない」と気づく人もいる。小さなこどもがいて、かつ同居親族もいない場合、保育園に通っていれば延長保育や土曜保育の利用で対応することもあるが、それも難しければ、こどもがもう少し大きくなったタイミングで修業開始することをすすめることもある。
- ・ 資格を取得するまでにどのくらいの学習時間が必要なのかを知った上で、その時間を確保するために準備できることと、できないことの整理を本人に行ってもらおう。こどもがある程度大きい場合は、こどもに修業することを理解してもらい、応援・協力してもらうことも重要である。細かくシミュレーションを行い、体制が確保できるか確認した上で修業を始める必要がある。

③就職を見据えた情報収集

- ・ 資格についての理解が不足していたり、資格を何に生かしたいのか考えられていなかったりする人もいる。そこで、そもそもどのような資格があるのか、どのような仕事につなげていくのかを相談員と一緒に考えることもある。
- ・ IT 業界では 20～30 代前半を採用する傾向があるため、年齢が若く仕事への適性がある人は、IT 資格を取得することで就職できる可能性が高まると考えられる。他方、条件的に就職が難しいと思われる人については、他の仕事をする方が安定した生活につながる場合もあるので、本人が当初 IT 資格を検討していた場合も含め、相談員と一緒に多様な選択肢を検討してもらっている。
- ・ IT を活用した仕事について、雇用側は資格の有無よりも、実践的なスキルの有無を重視している。実際、IT 資格を取得後に就職できたケースでは、資格があるからというより、他のポテンシャルが評価されて採用されたようだ。こうした現実について相談者に伝える際の工夫として、実際の求人をしてできるだけ多く一緒に見てもらい、企業が何を求めているかを理解してもらっている。
- ・ なお、求人検索に当たってはハローワークインターネットサービスを活用している。まずは企業がどのような人材を求めているか把握するため、あまり条件を絞りすぎず（「Web デザイナー」「未経験」「都内」くらいの条件で絞り込む）、多くの求人の中から共通している部分や企業による部分を分析している。
- ・ IT 資格に関する情報収集については、相談員が個別の相談に対応する中で、インターネット上で IT 資格の紹介サイトを調べたり、すずらん主催の資格取得セミナー、厚生労働省の情報提供サイト、相談者が行きたい養成校の HP を見たりして、勉強している。

④職業適性の確認

- ・ IT スキルの習得については、東京しごと財団等で、無料の短期職業訓練コースが実施されていることがある。また、プログラミング体験サイトの中には、オンラインの完全無料コース

を提供しているものもある。IT 資格の取得を考えている人に対しては、まずそうした無料のサービスを利用して見て、自分に向いていると判断してから、高等職業訓練促進給付金を活用して本格的な学習を始めることを提案している。

(3) その他、相談支援で心がけていること

- ・ 初回相談では、相談に来てくれたことに感謝を示しつつ、相談者自身が話したいことを話せるようにしている。何を話せばよいか分からないという人もいる中、まずは自分の思いを安心して話してもらえよう、傾聴することを心がけている。
- ・ 人によって様々な悩みがあり、ひとり親となったばかりの人等は、就労の前にまず生活を立て直す必要がある場合もあり、必ずしも就労のことから相談が始まるわけではない。何に困っているかを把握した上で、その人に合った相談・支援を行っている。
- ・ 生活のことやこどものこと等、様々な相談に応じる中で信頼関係を築き、こまめに連絡を行っている。修業期間中及び修了前には、すずらんの相談員から連絡を取り、近況うかがいを行っている。また、修了後も定期的に連絡し、就労できているかを確認している。

(4) 求人開拓

- ・ すずらんでは、独自に求人の開拓を行っている。相談員がその時々々の相談者のニーズに合いそうな企業を探し、求人申込みを依頼する資料をダイレクトメールで送っている。相談員 1 人当たり月 5 か所の企業に対し、郵送を行っている。IT 企業を探すこともある。
- ・ ニーズに合う企業を探す際は、相談者との会話の中で聞かれたキーワード（職種、地域、週〇日から OK、勤務時間、未経験 OK、細かい作業が好き等）を基に、ハローワークの求人の中から検索を行う。相談者が発した言葉をヒントに探すのがポイントである。
- ・ 求人登録をしてくれた企業に対しては、すずらんの相談員が現地訪問してヒアリングを行い、相談者のニーズと実際にマッチしそうかや、就労環境（こどもの病気等による急な休みが可能か、求人票には残業なしとあっても実際には時間外労働が求められているのか等）を確認している。
- ・ 求人登録をした企業を訪問する際には、下記事項をメリットとして伝達している。
 - ①企業として欲しい人をヒアリングした上で、求職者を紹介するため、求人内容と求職者の適合率が上がる。
 - ②企業と求職者の間にすずらん相談員が間に入り、調整が可能である。
 - ③特定求職者雇用開発助成金の対象となる。
- ・ ひとり親本人からも就職希望があった場合には、企業に当該ひとり親を紹介する。この制度で就職した事例としては、介護、保育、給食調理補助の他、地元の中小企業の事務、営業、総務等の仕事があった。パート雇用のケースが多い。

3. その他

(1) 相談支援以外の取組

- ・ 単独の部署ではできることが限られると思っており、区役所内にあるハローワークと連携している他、区内にある船堀ワークプラザマザーズコーナーと年2回、お互いが実施している取組についての情報交換会を実施している。
- ・ ひとり親は仕事・家事・育児・勉強で忙しく、役所の開庁時間には、役所への電話相談等ができないことが多い。そこで、ホームページ上で24時間、相談予約や求人情報閲覧ができる仕組みを作ったり、メールマガジンによる情報発信を行ったりすることで、利便性を向上させている。
- ・ ホームページ上に、幾つかの質問に答えることで利用可能な支援が確認できるナビゲーションシステムを設けている。

(2) 今後の課題と展望

- ・ IT企業では、年齢の条件(35歳以下)や実績・スキルの条件を設けていることが多いが、すずらんの相談者のボリュームゾーンは35~40歳なので、IT企業への就職はハードルが高い。また、IT系の求人を見ていると、複数の業務に対応すること(Webデザインとマーケティング等)が求められているケースが多く、1つのことしかできない場合、採用で不利になる。このような労働市場の実態を知らずにIT企業への就職を検討している相談者も多いことが大きな課題である。
- ・ 上記の課題への対応として、IT企業とひとり親を集めたセミナー等を実施し、お互いの実情を知ってもらえるとよいと考えている。IT企業から求める人材を説明してもらうとともに、ひとり親から企業への就職相談を行い、その上で資格取得を検討できるとよいのではないか。

以上

第3章 自治体・当事者向け資料

本調査研究の成果物として、以下の2点を、次ページ以降の通り作成した。

- 「IT を活用した仕事や IT 資格に関心のあるひとり親を就労支援する自治体職員の方へ」：
ひとり親への就労支援を行う自治体職員を読み手として想定し、就労に向けた IT 資格取得や、高等職業訓練促進給付金の活用の意義、IT を活用した仕事への就職を支援する際のポイント・留意点等をまとめた資料。自治体向けのパートと、自治体・ひとり親本人向けの共通パート（下の「IT を活用した仕事や IT 資格に関心のあるひとり親の方へ」と同一の内容）の2部構成。
- 「IT を活用した仕事や IT 資格に関心のあるひとり親の方へ」：
ひとり親本人を読み手として想定した資料。IT を活用した仕事の概要や、就職を検討する際の留意点をまとめている他、IT を活用して働いているひとり親の事例も掲載。（上の「IT を活用した仕事や IT 資格に関心のあるひとり親を就労支援する自治体職員の方へ」の自治体・ひとり親本人共通パートの内容を独立させたもの。）

令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業

高等職業訓練促進給付金等事業の効果的な活用の在り方に関する調査研究

ITを活用した仕事やIT資格に関心のある ひとり親を就労支援する 自治体職員の方へ

令和7(2025)年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

目次

はじめに.....	3
第1部 自治体向けパート	5
1. ひとり親支援と高等職業訓練促進給付金	5
2. 制度拡充の意義.....	6
3. IT資格の有用性と留意点.....	7
(1) IT資格の有用性.....	7
(2) 留意点.....	9
4. 自治体による支援のポイント.....	10
(1) ゴール（目標）から逆算する就職相談.....	10
(2) IT資格取得に向けた支援.....	15
(3) 雇用開拓で就職効果を高める	19
第2部 自治体・ひとり親本人共通パート.....	23
1. これだけは知っておきたい3つのポイント.....	23
2. 資格を決める前に、目標を立てる	24
3. ITを活用する仕事の中身を知る	25
(1) そもそも「IT企業」「IT業界」とは	25
(2) IT以外の業界にもある、ITを活用する仕事	26
(3) 人材の需要動向.....	27
(4) 仕事の具体例	28
4. 未経験者の採用可能性と仕事への適性	35
(1) 未経験者でも採用されるのか.....	35
(2) 採用で資格よりも重視されること	36
(3) 地域や年齢によっては就職チャンスが少ない	37
(4) 仕事への適性も重要.....	38

5. 気になるワード「テレワーク」と「フリーランス」	40
(1) テレワークのよくある誤解	40
(2) フリーランスの実際	41
6. 取得する IT 資格を考える	42
(1) IT 資格を取得する意義	42
(2) 就職活動に役立つ IT 資格の例	43
(3) 高等職業訓練促進給付金の対象になる資格	52
(4) 学習体制を確保する	54
7. IT を使って活躍するひとり親の事例	55
参考	68

はじめに

- 高等職業訓練促進給付金等事業は令和 3 年度から IT 資格も対象となり、更に多くのひとり親が、幅広い業種・職種への就職に向けて、資格取得を目指せるようになりました。
- しかし、自治体の福祉の現場では、IT 資格・IT を活用した仕事に関する情報が集約されていない場合が多く、ひとり親から IT 資格を取得したいという相談があった際に、適切な助言をしづらいと感じているところも多いのではないのでしょうか。IT 資格は種類が多く、IT を活用した仕事も多様であるため、実際に IT 業界等で働いた経験がなければイメージがつかみにくいという背景もあると思います。
- また、高等職業訓練促進給付金の利用を希望するひとり親の中には、IT 資格を取得するだけで、就職やキャリアチェンジ、収入増が実現すると期待している方もいるかもしれません。ひとり親の方が必死で学習時間を捻出し、経済的にも何とかやりくりしながら資格を取得したにもかかわらず、後になって資格取得だけでは目標達成が難しいことが分かるような事態は、本人はもちろん、支援に関わった自治体の職員の方としても、避けたいものだと思います。
- 本資料は、上記のような自治体職員の方のお悩みに応えるために作成したもので、大きく 2 つのコンテンツで構成されています。第 1 部は、自治体職員の方向けパートです。主に、高等職業訓練促進給付金の利用に関することなど、ひとり親の就労や職業能力開発に係る相談支援を行う職員の方を対象としています。就労に向けた IT 資格取得や、高等職業訓練促進給付金の活用の意義をまとめるとともに、IT を活用した仕事について、ひとり親の就職を支援する際のポイント・留意点も示しています。
- 第 2 部は、自治体職員の方だけでなくひとり親の方も対象としたパートであり、ひとり親本人向けの冊子「IT を活用した仕事や IT 資格に関心のあるひとり親の方へ」と共通の内容です。IT を活用した仕事の概要や、就職を検討する際の留意点をまとめている他、IT を活用して働いているひとり親の事例も掲載しています。



<注意>

※この資料は、これから初めてITを活用した仕事にチャレンジするひとり親や、そうしたひとり親を支援する自治体職員の方を主な対象としています。なお、この資料は、令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業「高等職業訓練促進給付金等事業の効果的な活用の在り方に関する調査研究」（以下「本調査」という）の成果物として作成しました。

※「IT」とは、インフォメーション・テクノロジー（情報技術）の略で、パソコン、スマートフォン、メール、インターネットなどの技術の総称です。この資料において、「ITを活用した仕事」とは、ITエンジニアのような高度なIT技術を必要とする仕事だけでなく、基礎レベルのIT技術を要する仕事（パソコンの表計算ソフトを使った事務やSNSを活用したマーケティングなど）も含まれます。

※この資料における「ヒアリング調査」とは、本調査の中で実施した、関係者（ひとり親を雇用するIT企業、当事者、有識者等）へのヒアリング調査を指します。

※この資料では就職に役立つIT資格の一部を紹介していますが、講座の受講期間等によっては、高等職業訓練促進給付金の対象にならない場合があります。給付金の対象になるかどうかは、各自治体が個別に判断することになります。

この資料の見方

太字の文章

地の文章のうち、特に重要なポイントは太字及び下線で示しています。



参考データ

既存研究等を基に、参考となる情報（既存の統計データ、文献からの抜粋等）を紹介するコーナーです。



ヒント

ひとり親への就労支援の取組について、自治体職員の方向けのヒントを記載したコーナーです。



コラム

この資料の作成に当たって企業・自治体を実施したヒアリング調査の結果から、自治体職員やひとり親の方の参考となる内容をコラムとして紹介するコーナーです。

ヒアリング調査の結果から

この資料の作成に当たって実施したヒアリング調査で、企業や当事者等から挙げられた声を紹介しています。

用語解説:

ITの専門用語等を分かりやすく解説しています。

ちょこっとポイント:

詳しく知りたい方向けの内容を記載しています。

第 1 部 自治体向けパート

1. ひとり親支援と高等職業訓練促進給付金

- 日本のひとり親は 9 割近くが就労していますが、特に母子家庭は非正規雇用や低賃金の割合が高く、「働いても貧困」と言われる苦しい状況にあります。ひとり親の就労状況を改善するためには、職業訓練を含む就労支援はとても重要です。
- しかし、ひとり親の置かれている状況や抱えている困難は、実際には人によって様々です。必要な支援の内容や量も、個人により異なります。例えば、本人やこどもに病気、障害、不登校などの事情があり、そもそも就労することが非常に難しいケースでは、経済的支援や医療的支援、こどもへの心理カウンセリングや学習支援等の重要性が高くなるでしょう。他方で、既に安定した収入を得られる仕事をしており、自分で親族の助けや民間のサービスを活用して育児と両立できている方は、行政の支援を受ける必要性をあまり感じていないかもしれません。ひとり親への支援メニューは、相談支援の中で個人の置かれている状況やニーズ等を分析した上で、より適切なものを選択していく必要があります。
- 高等職業訓練促進給付金についても、本人の経歴や現在の状況、目指す将来像とそこに至るために必要なステップを整理し、必要なステップに、高い職業能力の獲得（専門性の高い資格の取得）が含まれる場合には、同給付金の活用が効果的と考えられます。
- 逆に、高等職業訓練促進給付金を活用して就職を目指すよりも、他の支援メニューを優先する方が効果的なケースもあると思われます。その場合は、言うまでもないことですが、本人の資格取得の意向を頭ごなしに否定することがないよう留意しつつ、本人が納得感を持って最適な支援メニューを選択できるよう、丁寧な相談支援を行う必要があります。



2. 制度拡充の意義

- 高等職業訓練促進給付金は、ひとり親の就職の際に有利で、かつ生活の安定に資する資格の取得を促進するため、資格取得に向けた修業期間中の生活費を支給することで、生活の負担の軽減を図り、資格取得に取り組みやすくすることを目的としています。
- ところでこの給付金は、令和2年度までは修業期間1年以上の資格のみ（看護師・准看護師、介護福祉士、保育士等の医療・福祉の資格が中心）が対象でした。特に看護師・准看護師は、資格があれば正社員でも年齢や職務経験が不問の求人が多く、かつ平均収入も比較的高いため、資格取得後すぐに安定雇用につながりやすいというメリットがあります。そのため多くの自治体では、高等職業訓練促進給付金による就労支援において、医療・福祉の資格を重視してきたと思います。
- ただ逆に言えば、高等職業訓練促進給付金の仕組みにおいて、安定的な就労の選択肢が医療・福祉の仕事に限定されがちであり、他の仕事内容や働き方を希望する人のニーズに答えきれていなかった部分もあると思います。また、親族からの育児サポートが得られない人や、こどもの人数が多い人などにとっては、修業期間中の生活費として月10万円が支給されるとはいえ、1年以上仕事を休んで修業することは、難しい場合もあるかもしれません。



参考データ

先行研究では、ひとり親（シングルマザー）の就職支援が医療・福祉の仕事に偏重することによる課題として、以下のような指摘がされています。

- ・ 桔川・田間（2023, p.160-161）ⁱは、「だが本来、個々の女性たちの特性と希望、その時の状況にそったキャリア支援が行われるべきである。看護職や介護職など、要するに、これからの日本に必要とされる職種の就業支援は、日本社会中心であって、当事者中心ではない。」と述べています。
- ・ 中園（2021, p.306）ⁱⁱは、「看護師では資格を取得しても夜勤をこなせなければ賃金が上がらないため、親等からの育児援助がなければ経済的自立は難しい。」「必ずしも資格を取るという事が自立につながらないなら、同じ資格を取ったとしても生活資金の稼げる夫がいる妻は仕事を辞めることができるが、シングルマザーはたとえ低賃金であったとしても仕事を辞める事はできない、という状況が生まれかねない。つまり、経済的自立を目指したはずの資格取得によって、シングルマザーが人手不足の厳しい労働条件の福祉職場等に送り込まれる事になりかねない。」とし、就職支援に加えて企業の働き方が変わる必要があることや、資格取得による職種転換だけでなく、同じ仕事を続けながら正社員化等を図るのも重要であることを指摘しています。

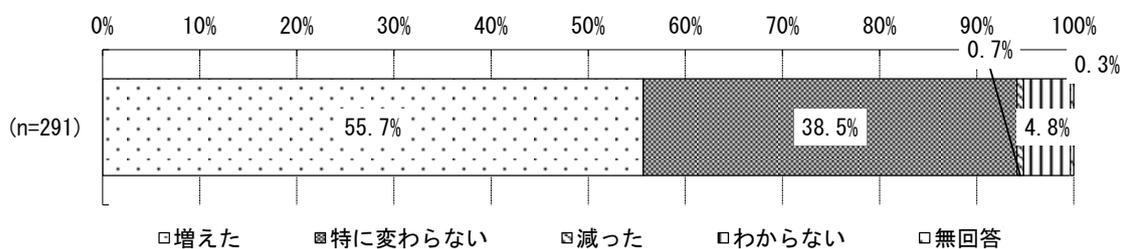
- 令和3年度以降、修業期間6か月以上の資格にも対象が拡充されたことで、6か月～1年間であれば修業が可能な人や、医療・福祉以外の分野で働きたいひとり親にも、制度利用のチャンスが拡大されました。これにより、従前よりも幅広い層のひとり親が、高等職業訓練促進給付金の利用を検討するようになったと思われます。
- 高等職業訓練促進給付金の対象にIT資格が加わったのを機に、ITを活用する仕事に関心を持ったひとり親や、これまでは別の仕事をしていただけ、ITを活用した仕事にキャリアチェンジをしたいと思ったひとり親も少なくないでしょう。一般的に、IT業界の仕事は高収入でテレワークがしやすいといったイメージがあることから、ひとり親の中には、そうした仕事に就くことを想定して資格取得を希望する人も多いと思われます。



参考データ

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（2024）ⁱⁱⁱの調査では、拡充措置を行っている自治体のうち、拡充措置の開始以降、高等職業訓練促進給付金の利用相談が増えたという自治体が55.7%ありました。

< 拡充措置による給付金利用の相談者数の変化（拡充措置を行う自治体） >



（出所）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（2024）p.131，図表4-28

3. IT 資格の有用性と留意点

（1） IT 資格の有用性

- IT 資格は、IT の知識や技術を証明するツールの 1 つとして有用と考えられます。業務未経験者の場合は、基礎レベルの IT 資格の取得を通じて、IT 業界の仕事をする上で最低限のコミュニケーションを取れるだけの力が身につきます。そのため、企業から「仕事上のコミュニケーションができる人」「IT の基礎知識を自ら学習し修得する能力のある人」といった評価を受けやすくなる可能性があります。
- 現在の職場で IT を活用している人の場合も、更にハイレベルな資格や他の職種に関わる資格を取得していくことで、職場での評価の向上やキャリアアップにもつながるでしょう。

- 他方で、ITを活用した仕事では、業務未経験者が初めから高条件（高収入の正社員採用など）で就職することは難しいのが現実です。医療・福祉の資格であれば、資格取得後すぐに正社員で就職できるケースも多いのに対し、IT資格の場合は、すぐには好条件の就職ができない場合が多くあります。
- 例えば、業務未経験の人が高収入のITエンジニアを目指して基礎レベルのIT資格を取得した場合、まずは初歩的なエンジニア業務から始め、経験を積む中で徐々にハイレベルな仕事へとキャリアアップしていく必要があります。つまり、いずれ高収入を得られるようになるとしても、資格を取得してから一定の期間を要するという事です。
- また、ITを活用した仕事では、労働時間だけでなく成果が重視されることが多く、採用に当たっては、成果を出すポテンシャルがあるかどうか（コミュニケーション力や論理的思考力があるかなど）も重要な要素です。資格を持っていても、他の条件がマッチしていなければ、就職に至らないことがあります。



参考データ

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（2024）の調査では、令和3～5年度に高等職業訓練促進給付金で資格を取得したひとり親について、現在の年収等をアンケート調査しました。年収300万円以上の割合を見ると、看護師・准看護師では37.0%（n=492）なのに対し、IT資格では9.1%（n=66）となっており、個人差が大きいことがうかがわれました。回答者全体（882人）の約7割が資格取得から1年未満であり、少なくとも資格取得後すぐに高収入が得られるケースは、IT資格では少なかったことになります。

< 高等職業訓練促進給付金で資格取得した人の現在の年収（資格別） >

職種	300万円以上の割合
全体（n=882）	27.9%
IT関係の資格（n=66）	9.1%
看護師・准看護師（n=492）	37.0%
保育士（n=69）	14.5%
介護福祉士実務者研修（n=52）	11.5%
美容師（n=44）	4.5%
その他の職種（n=159）	25.2%

（出所）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（2024）p.198, 図表4-93

- 他方で、IT 資格を取得して IT を活用した仕事の道に進むことは、医療・福祉の分野とは異なるメリットがあります。例えば看護師資格の場合、一度看護師として就職すれば、仮に後で勤務先を変えることがあっても、基本的には医療機関等で看護の仕事の続けていく人が多いと思います。それに対し、IT を活用した仕事の道に進む人の中には、実績を積む中で、より興味のある職種へのチャレンジ、更にやりがいを感じられる企業への転職など、徐々に自分の望む方向へとキャリアアップしていく人もいます。また、同じ職場にしながら、IT 資格の取得を通じて IT スキルを上げ、それを生かした仕事ぶりで社内評価を高めるなど、やりがいを持って継続的に働いている人もいます。「IT」は職業ではなく、あくまでスキルであるからこそ、本人の意欲や活用の仕方によって、多様な選択肢につながる可能性があると言えます。
- また、当然ながらひとり親の中にも、定型的な業務よりもナレッジワーク(自身の持つ知識を活用して新たな付加価値を生み出す労働)が向いている人や、病気や障害等の理由で体を大きく動かすことが難しいものの、デスクワークなら活躍できる人などもいます。あるいは、パソコンが全く使えないために仕事の選択肢が限られているけれど、パソコンの基本スキルを身につければ応募できる求人が増えるという人もいます。こうしたひとり親にとっては、IT 資格の取得を通じた IT 基礎スキルの習得は、より好条件で自分らしく働くための重要な一歩になるでしょう。

ヒアリング調査の結果から

高等職業訓練促進給付金を利用して IT 資格を取得した G さん（仮名）のエピソードを紹介します。G さんは、自治体の相談窓口で看護師資格の取得をすすめられたこともありました。しかし、ご自身としては医療の仕事に苦手感があるし、子育てをしながら看護学校を卒業する自信がなく、断っていたそうです。そんな中、給付金の対象に IT 資格が加わり、元々パソコンが好きだったので関心を持ち、Web 制作関係の資格を取得しました。残念ながら G さんはまだ資格を生かした就職には至っていないのですが、興味関心や適性は人それぞれであり、IT スキルの習得により道を切り開きたい方もいる、ということが分かる事例です。

(2) 留意点

- IT を活用した仕事は多岐に亘っており、どのようなサービスのどの部分を担いたいかによって、採用時に求められる条件は異なります。また、地域や企業によっても雇用ニーズは違います。
- IT 資格についても、同じ資格が全ての職場で役立ったり、採用に有利になったりするわけではありません。「職場 A では a のスキルの必要性が高いから、a の資格を持っていると役立つ」「職場 B では b のスキルは必要だけれど、a は使わないから、a の資格は重要視されない」といったことがあります。
- そのため、まずは就職先のイメージを決めてから、その就職先に求められる条件を分析し、自分がその条件を満たせるよう戦略を立てる必要があります。IT 資格取得は、あくまでも就職に向けた戦略の一部だと言えます。

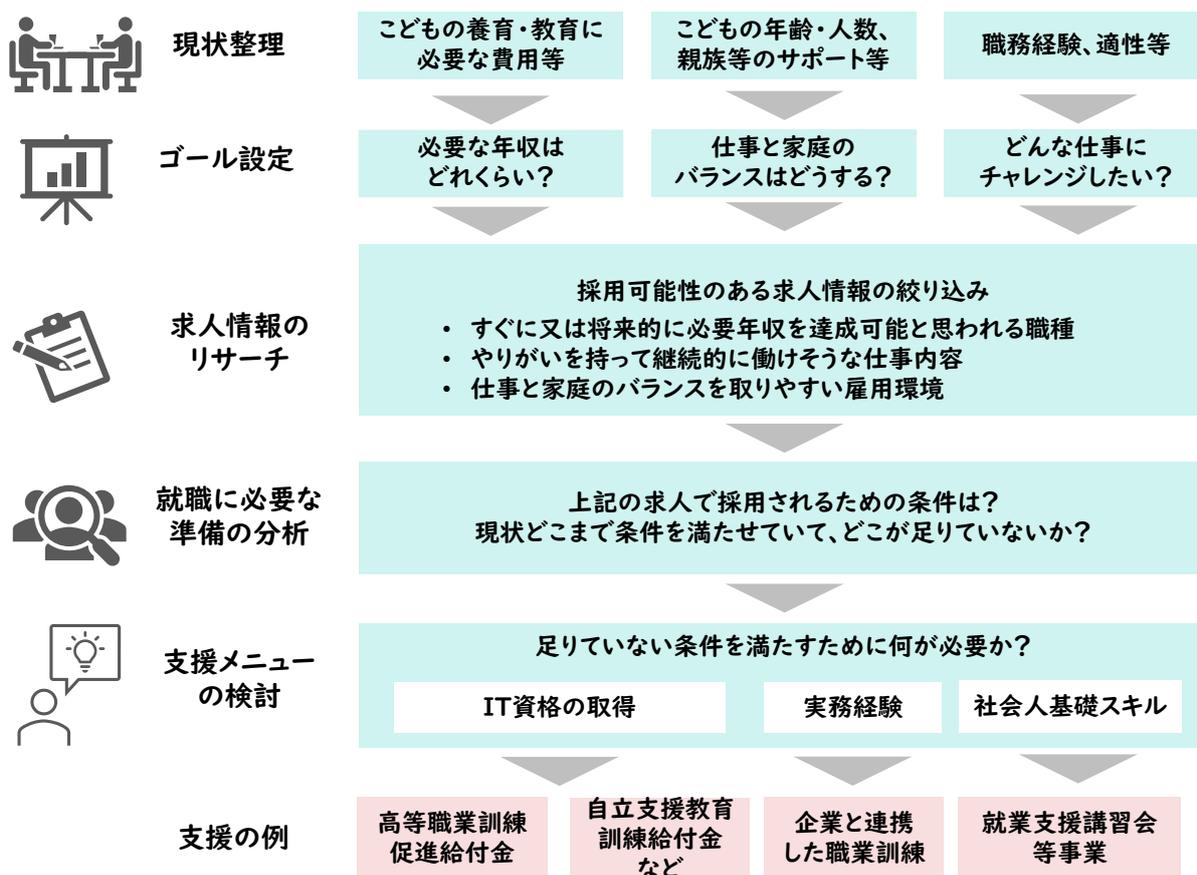
4. 自治体による支援のポイント

(1) ゴール(目標)から逆算する就職相談

① 支援メニューの前に、ゴールを決める

- 高等職業訓練促進給付金の利用相談に対応する際は、取得する資格から積み上げて将来設計をするのではなく、ゴール(目標)から逆算して必要な準備を考えることが大切です。
- ゴールとする年収レベルや仕事と育児のバランスの理想などは、人によって違います。また、ゴールによって目指したい職種や職場環境等は変わるはずであり、そこに到達するために必要な準備も異なってきます。
- ひとり親からIT資格取得に向けた高等職業訓練促進給付金の利用相談があった場合は、まず本人のゴールについて確認してみることが重要と思われます。まだ定まっていない様子の場合は、ゴールを考える作業から相談に応じ、そのゴールに向けて何が必要か一緒に検討するとよいでしょう。

<ゴールから逆算して支援メニューを検討するためのステップ(イメージ)>



② 本人の意向と現実のミスマッチを防ぐ

- ゴールを考えるに当たり、まずは本人の職務経験や適性、家族状況等を丁寧に聞き取り、現状を整理します。例えば、ITを活用した仕事は未経験でも、プログラミングが趣味で自作のゲームを作った経験がある人や、元々勉強が好きで家庭の状況的にも勉強時間が十分確保できる人などは、ITを活用した仕事への就職が実現しやすいと思われます。きちんと戦略を立て、IT資格取得以外も含めたステップをクリアしていけば、ゴールが実際に達成できる可能性が高まります。
- 一方、ITを活用する仕事への転職やIT資格の取得が、今の本人にとってベストな選択ではないと判断される場合もあります。例えば、IT業界では30代前半までの採用が多い中、年齢の高い人の場合、関連業務の実績がない限り、IT業界への就職は難しいと思われます。また、小さな子どもがいる人の場合、親族に子どもを見てもらうか、預かりサービスを利用するかの目途が立つまでの間は、資格取得に向けた修業が難しいかもしれません。
- 勉強時間が取れず修業の途中で挫折したり、資格を取得したのに就職先がなかったりという結果を防ぐため、相談支援の中で本人の意向と現実のミスマッチが見られた場合は、**本人の気持ちに寄り添いながらも、ミスマッチの部分について丁寧に伝えることが必要になります。その際、一方的に情報を提示するのではなく、本人と一緒に客観的な情報を確認していくことがポイントです。**例えば、インターネット上の求人情報を一緒に検索し、募集条件を実際に見てみることで、実際に就職できる可能性がどれくらいあるのか、自分で冷静に判断をすることができず。

③ マインドセット

- ひとり親の中には、自己肯定感が低いことが原因で、例えば未経験の分野や、経験ある仕事よりも少しレベルの高いことに対し、「自分にはできない」と思うことがあります。すると、資格を取得するために勉強したり、新しい仕事を始めたりする際に、こうした心持ちは障壁となるかもしれません。そこで、**ひとり親の就労支援においては、マインドセットをポジティブに変えていくことも重要**となります。



ヒント: 自己肯定感を高める支援

- 民間の支援団体等では、ひとり親の自己肯定感を高めることを目的としたセミナー等を実施していることがあります。例えば、ひとり親が自分のキャリア（仕事だけでなく人生の軌跡）を振り返り、それぞれの経験に意味があったことを認識するとともに、自分が本来持つ強みを把握できるよう促すプログラムがあります。
- 自治体としては、上記のようなセミナーを開催することも1つです。また、普段の相談支援において、助言を一方的に伝えるのではなく傾聴の姿勢を大切にすることや、本人の築いてきたキャリアを肯定的に捉え直せるような対話も重要です。

- また、自治体は、ひとり親本人にとって適切かつ納得感のあるゴールを設定するために、経済的な見通しが立てられるような支援を行うことも考えられます。



ヒント:生涯の資金計画を立てる支援

- ひとり親が自分のゴールを考える際、**自治体で生涯の資金計画作成の支援を行うことも有効**と考えられます。例えば、ファイナンシャルプランナーに家計収支のシミュレーションを作成してもらえる無料相談会の開催などです。
- こどもが成人するまでに必要な費用や、その費用を準備するために必要な収入額をシミュレーションすることで、いつまでにどのくらいの年収レベルを目指すべきかが分かります。目標額や期限が明確になることで、漠然とした将来への不安を抱くよりも、これから取るべき行動（就職など）を認識できますし、就職先の検討にも役立ちます。また、就職してからも意欲的に仕事に取り組むことや、困難を乗り越えながらキャリアアップしていくことにつながると考えられます。

- 支援メニューの検討について、ひとり親の中には、アルバイトなどの経験はあっても、企業勤めの経験のない人や、フルタイムで働いた経験がない人もいます。また、初めて IT を活用した仕事にチャレンジしようとしている人の場合、例えば「テレワークの仕事は片手間にできる」などの誤ったイメージを持っていることもあります。
- そうした方に向けては、例えば母子家庭等就業・自立支援センター事業（就業支援講習会等事業）等を活用し、社会人としての考え方や基本となるスキルを習得できるような支援を行うことも有効です。



ヒント:社会人としての基礎スキルを身につける

- せっかく IT を活用した仕事に就職できたとしても、「働く」ことや「テレワーク」の正しい認識を持たないまま働き始めてしまうと、理想と現実のギャップに直面した際に、仕事を継続することが難しくなるかもしれません。
- そこで、これから IT 企業等へのフルタイム雇用を目指す人に対しては、**社会人の心構えや、仕事の中で直面し得る困難ややりがい、テレワークの現実、仕事をすることによる生活リズムの変化などについて、具体的なイメージが持てるような支援**を行うことが重要と考えられます。具体的には、社会人としての基礎スキルを学ぶことや、実際にテレワークの体験をしてもらうプログラムの開催などが考えられます。
- こうしたプログラムを受講してもらうことにより、就職のミスマッチを防ぎ、ひとり親が長期的に働くことにつながると考えられます。また、プログラムの内容が充実している場合、企業側からも「プログラム受講者＝責任感を持って働ける人」と認識され、採用可能性も高まると考えられます。

江戸川区では、高等職業訓練促進給付金の申請前に必ず、キャリアアカウンセラーの資格を持つ相談員が就労相談を行っています。



コラム：江戸川区の「ひとり親相談室すずらん」と高等職業訓練促進給付金

■ひとり親相談室すずらんとは

- 江戸川区では、ひとり親家庭の多様なニーズに対応するため、子育てや生活に関する内容から就労支援まで、専門の相談員がワンストップで相談に応じる「ひとり親相談室すずらん」（以下「すずらん」という）が、区内2か所に開設されています。

■高等職業訓練促進給付金の利用に当たっての伴走支援

- 高等職業訓練促進給付金の担当は、区の母子・父子自立支援員（江戸川区総務部人権・男女共同参画推進センター）ですが、給付金の利用に当たっては、すずらんと協働した「就職を意識した伴走支援」が行われています。主な支援フローは以下の通りです。

<支援のフロー>

【1】ひとり親本人からの利用相談

- ひとり親本人から、区の窓口（母子・父子自立支援員）に就労や資格取得に関する相談があった場合は、キャリア相談先としてすずらんを紹介。

【2】すずらんによるキャリアコンサルティング（取得資格の見極め・準備）

- すずらんの相談員が、希望者本人の資格取得の裏にある本当の悩みを探ったり、スキルや経験の棚卸しをしたりして、本人のモチベーションやキャリアの方向性を一緒に考える。
- 資格取得の観点では、本人の年齢・適性、家族環境なども踏まえて、資格取得に向けた学習の環境整備が可能か、資格取得が就労につながるかを確認する。資格の理解が不足している人や、IT資格で何をしたいかが具体化できていない人については、資格の内容、今後の方向性について一緒に検討していく。

▼▼▼ 資格取得前の助言・検討のポイント ▼▼▼

【求人情報を一緒に確認して就職を意識】 就職を見据えた資格取得になるように、実際の求人情報でどのようなスキルが求められているか等を一緒に確認。ハローワークのWebサイトで、本人が希望する職種、就労条件（正社員、週●日勤務等）、こだわりの条件等で検索して見せることで、本人にとってのリアル感が上がる。

【簡単に学習してみて資格への適性を判断】 プログラミングやWebデザインについては、短期・無料で利用できる講座や学習サイトがある。本人の状況に応じて、資格取得前に、実際に取り組んでみて適性を判断してはどうかと助言する。

【学習と子育ての両立に向けた環境整備】 学習時間の見込みを立て、「できること」「できないこと」を自分の中で整理してもらった上で、学習と子育ての両立に必要な体制（延長保育の利用、親族からのサポート、こどもの協力等）を作る。

【3】取得する資格の決定、給付金の受給開始

- 取得する資格が決定したら、すずらんが母子・父子自立支援プログラムを策定し、高等職業訓練促進給付金等の支給申請の手続きを進める。
- 修業中は、区が年1回の面談で現在の状況を確認する。また、年に3回、出席状況の確認を行う。出席の状況によって学習の環境に変化がないかなどを本人に確認し、必要に応じて相談対応を行う。
- すずらんの相談員は、随時、本人からの相談に対応する形で伴走する。

【4】受給終了後の状況確認、必要に応じた就労支援

- 受給期間が終了したら、区が、資格取得や就労の状況を郵送アンケートで確認。すずらんの相談員から電話等で近況確認をすることもある。
- 就職を希望する場合は、必要に応じて、すずらんが本人と企業のマッチングをサポートする。

▼▼▼ (参考) ひとり親を採用する企業開拓の取組 ▼▼▼

すずらんの業務として、相談員がひとり親家庭のニーズに合う企業の開拓を実施。具体的な進め方は、①ハローワークの求人から相談者のニーズに合う企業を検索、②ひとり親の雇用に関する資料を送付、③反応があった企業を訪問して具体的に相談。訪問しての相談時には、求人情報には出てこない、職場の人間関係やハード面、企業が実際に求めている働き方(残業や土日勤務の要望)などを確認している。

- すずらんで、資格取得をゴールとするのではなく、「自立・安定的な生活を送ること」というゴールから逆算して、「就職」「就職のために必要な資格」を考えるサポートが行われています。その方法は、**給付金の利用前に、「相談員が本人と一緒に、本人の自覚していなかった思いやスキルを整理し、今後の働き方について考える」というものです。**相談員と一緒に求人情報を見たり、向き不向きや今の状況を話し合ったりする中で、本人自らが自分の適性や状況、将来の方向性について気づき、納得して、資格取得の可否を判断できるようになるようです。
- なお、相談員としては、様々な方向性を検討し、子育ての状況等で資格取得が難しければ、取得の先送りを提案することもあります。他方で、年齢が採用に影響するIT関係の職種については、20~30代で適性がある人に対して、早期に資格取得できるよう、支援体制の構築のサポートも行われています。

ちょっとポイント:

すずらんの特徴は、**相談員全員が、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有していること**です。江戸川区では、経済的自立において特に重要である就労相談に力を入れており、キャリアの棚卸し、労働市場のニーズ、業界のマッチングなど専門的な支援が必要と考えて、**就労支援の専門性がある民間事業者**に委託をしています。

(2) IT 資格取得に向けた支援

- この項では、「ゴールから逆算した支援メニューの検討」の結果として、ひとり親が IT 資格の取得を目指すこととなった場合に、自治体としてどんなサポートができるのか、考えてみます。

① 養成講座の受講費、修業中の生活費の支援

- 養成講座の受講費や修業中の生活費を支援する場合には、高等職業訓練促進給付金の他、自立支援教育訓練給付金や、雇用保険の被保険者等であれば教育訓練給付金を利用できる可能性があります。IT 資格の中には受講期間が 6 か月未満の場合など、高等職業訓練促進給付金の対象とならないものもありますので、その場合は他の給付金の利用を検討します。
- また、受講期間 6 か月以上の IT 資格取得を希望しているものの、難易度等の観点で取得に至れるか不安がある場合は、まず一般教育訓練給付金等を利用して基礎レベルの IT 資格を取得し、更にハイレベルな IT 資格取得を希望する場合に高等職業訓練促進給付金を利用していただくという方法もあります。高等職業訓練促進給付金は生涯に一度しか利用できない制度のため、利用のタイミングは戦略的に検討した方がよいでしょう。

② 学習体制の確保

- 修業期間中は子育てや仕事もある中で学習を行いますので、修業開始前と比べて、時間的・体力的・精神的にハードな生活となることが予想されます。そこで相談の現場においては、**修業期間中の生活(学習内容、確保が必要な学習時間、1日のスケジュール等)について具体的に整理し、どのような体制があれば修業が可能となるのか、本人と一緒に検討することが必要です。**修業に向けた体制づくりについて、具体的には、延長保育や土曜保育の利用(保育所を利用している場合)、一時預かり事業やファミリー・サポート・センター事業の利用、親族へのサポート依頼等の方法が考えられます。
- 検討の結果、万全な体制で学習を始める方もいれば、修業開始を延期する方もいると思いますが、本人が後悔のない時間・お金の使い方をするために、こうした事前の検討は欠かせないものです。

③ 精神的なサポート

- その他に、本人が修業期間中のモチベーションを維持できるよう、以下のような精神的なサポートを行うことも効果的です。特に高等職業訓練促進給付金の場合、6 か月以上の長期間にわたり学習を続けますので、資格取得のためモチベーションの維持は重要な要素です。



ヒント: 修業期間中のモチベーションの維持

- IT 資格の修業期間は 6 か月など比較的短いものも多いとはいえ、子育てや仕事をしながら学習するひとり親にとっては、学習時間の捻出は容易ではなく、特に学習内容を難しいと感じている場合は、途中で諦めそうになることも多いと思います。
- そこで、修業期間中に自治体の職員から時々励ましの声をかける、他のひとり親で資格取得に向けて学習している人と交流する機会(ピアサポート)を設ける、といった工夫ができれば、最後までやり遂げられる人が増えると考えられます。
- 他にも、高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得した先輩のひとり親(資格を生かして活躍している方だけでなく、逆に資格をうまく生かせなかった経験を持つ方も含む)の話聞く機会を設けるのも、現在修業中のひとり親が学習や就職活動を進める上で役立ちます。



参考データ

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社(2024)の調査では、高等職業訓練促進給付金を活用して資格(IT 資格に限らない)を取得した人に制度利用の感想を尋ねたところ、自治体の担当職員から励ましてもらったことで最後まで頑張れたという声が複数ありました。

< 制度を利用した感想・要望・意見(自治体職員への感謝に関する一部を抜粋) >

- ・ 利用前の案内から資格取得後まで、職員の方々の温かい声かけやアドバイス、傾聴の姿勢に本当に助けていただきました。3年間頑張れたのは、応援していただけたおかげです。有難うございました。
- ・ 給付金制度のおかげで生活費に大きな心配をすることなく、看護師を目指して学業に励むことができました。ただ毎月 1 回期日までに書類を提出に市役所へ出向かなければならないのは授業や実習の関係で難しいなど感じることもありました。しかし、相談員の方に毎月お会いし話をすることで、励まして頂いたり気にかけて頂き頑張ることもできたと思います。
- ・ 担当職員さんに、毎月の出席確認連絡時、励まして頂いた事で励みになりました。
- ・ 高等職業訓練促進給付金制度がなければ 看護学校に通う事は不可能でした。年に数回、電話で現状確認がありましたが その際も、ご担当者の方が丁寧に対応くださり、労いの言葉をかけて下さいました。看護学校での実習は、子育てとの両立は厳しいものがあり何度もくじけそうになりましたが、この制度と温かいお言葉に励まされ、なんとか資格取得して、今やりがいをもって仕事をさせていただいております。とても感謝しています。

(出所) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社(2024) p.184-185, 図表 4-85

④ 高等職業訓練促進給付金制度の周知

- なお、そもそも高等職業訓練促進給付金という制度自体があまり知られていないと、本来制度の利用により高い就業効果が見込まれるひとり親の方が、早期に制度を利用できないために就職等のチャンスを逃してしまう恐れがあります。対象者に対し制度を積極的に周知することも、自治体の重要な役割と考えられます。



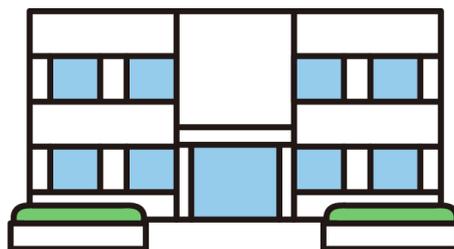
参考データ

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（2024）の調査では、高等職業訓練促進給付金を活用して資格（IT 資格に限らない）を取得した人に制度利用の感想を尋ねたところ、制度の周知がもっと必要という意見がありました。

<制度を利用した感想・要望・意見（制度の周知に関する意見を一部抜粋）>

- ・ 制度に助けられた。しかし、相談先の自治体の職員に教えていただければ、制度にたどり着く事は出来なかったと思う。知らずに、学校や資格取得は、経済的に困難で、達成出来なかったと。ひとり親は、生活に追われ、情報難民の方々もいるのではないかと。そういう方々に、この制度が周知できる事が大事だと感じた。
- ・ 学校に通い始め 1 年経った頃、学校のシングルマザーの友達にこの制度がある事を聞き急いで申請しに行きました。友達に聞かなければずっと知らないままだったので毎年の児童扶養手当申請の手続きの際等にこういう制度がある事を軽く案内してもらえたら有難いなと思いました。この制度自体は素晴らしい制度だと感じました。ありがとうございました。
- ・ ひとり親にとって素晴らしい制度だと思うが、認知度が低く行政の担当者に勧められなければ知らずに学校に通っていたため、その他のひとり親支援も含め、公表して欲しい。
- ・ この制度は大変ありがたく、生活費になったのでありがたかったです。もっと早く利用したかったので、必要な人に情報が届くようになってほしいと思いました。

（出所）三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（2024）p.189, 図表 4-85



⑤ IT 資格についての情報収集

- ひとり親から IT 資格の取得について相談があった際は、前述の通り、ゴールから逆算して支援メニューの検討を行うことが必要です。検討の結果、本人が希望する資格とは別の資格の取得を提案する場合もあるでしょうし、資格取得自体の見送りを提案する場合もあると思います。こうした判断をするに当たり、自治体は IT 資格の学習内容や有用性について、基本的な情報を把握しておく必要があります。
- DX 化や AI 技術の進歩など、IT を活用する仕事のトレンドは日々変化しており、それに伴い、就職に役立つ資格も変化していきます。 有用な資格をタイムリーに把握するためには、IT のトレンドに詳しい庁内の他部署や地域の IT 企業等から、定期的に情報提供を受けることも 1 つでしょう。

⑥ 資格取得後のアフターフォロー

- 最後に、無事に資格を取得し、就職を果たしたひとり親に対して、アフターフォローを行うことも重要です。



ヒント：就職後のアフターフォロー

- 多くの自治体では、高等職業訓練促進給付金の利用者について、資格の取得状況や就職状況の確認はしていても、就職できた人がその後も就業継続できているか、困りごとはないかといったことのフォローまでは及んでいないと思います。
- しかし実際、就職はできたが仕事や環境に慣れず、働き続けることに不安を持っている人も多くいます。IT を活用した仕事の多くはナレッジワーク（自身の持つ知識を活用して新たな付加価値を生み出す労働）ですが、その経験がないひとり親の場合、働き始めてから発想や働き方の転換を迫られ、戸惑うことがあります。
- また、IT を活用した仕事をする場合に限らず、自身の過去の経験の影響により、自己肯定感や自信が低下しがちなひとり親も少なくありません。仕事の悩みで心身に不調が生じ、休職・退職につながるといったこともあります。
- 悩みを 1 人で抱えこまないためにも、自治体から就職後も定期的に状況を確認し、困りごとがある場合は相談支援を行ったり、必要な支援につなげたりすることも重要です。 また、自治体で雇用開拓を行っているなど、ひとり親の雇用先との関係性ができている場合は、雇用先に対しあらかじめ、ひとり親の社員へのメンタルサポート等の重要性を伝えておくことも効果的と思われます。

(3) 雇用開拓で就職効果を高める

- IT を活用する仕事の雇用ニーズは、地域によって大きく異なります。例えば、Web デザイナーを目指して Web デザインの資格を取得しても、その地域に Web デザイナーの求人がなければ、せっかく習得したスキルを生かせる仕事が見つからないということになりかねません。
- そこで、高等職業訓練促進給付金の就職効果を高めるためには、自治体においてあらかじめ、その地域でひとり親を雇用する意向・ポテンシャルのある企業を把握し、また、その企業で求められている職種、当該職種に必要なスキルを整理することが必要です。これらの情報を基に、高等職業訓練促進給付金の利用を希望するひとり親の相談対応に当たり、目指す就職先や、資格取得も含めた就職準備を一緒に考えると効果的でしょう。
- なお、ひとり親の職歴や年齢等によって、就職に当たり身につけるとよいスキルは異なってきます。例えば、若くして結婚・出産し、まだ社会人経験がない人の場合は、社会人としての基礎スキルの習得支援を手厚く行う必要があるかもしれません。他方で、直近の職歴はないものの過去に企業勤めの経験がある人の場合は、IT の実践スキル習得支援にフォーカスしてよいかもしれません。



ヒント：出口戦略のある就職支援

- 高等職業訓練促進給付金を活用した就職支援においては、出口戦略を考えることが非常に重要です。
- IT を活用する仕事にもトレンドがあり、世界的な技術革新（例えば AI の台頭など）により、成長業界や需要のある職種は日々刻々と変化していきます。そのため、常に市場の動向を分析し、特に需要の高い仕事、今後需要が伸びていくと思われる仕事にターゲットを当てた就職支援を行う必要があります。
- 参考までですが、今後も需要の高まりが見込まれ、かつ業務未経験者でもチャレンジしやすい仕事として、ヒアリング調査で意見が多かったのは、行政・企業の DX 化と関連する仕事や、デジタルマーケティング、ICT 支援員などでした。
- また、地域の採用ニーズは、地域にどんな企業があるかによって変わります。大都市圏でニーズの高い職種が、地方でも同様にニーズが高いとは限りませんので、あらかじめリサーチしておく必要があります。

ヒアリング調査の結果から

前出 (p.9) の G さんですが、晴れて IT 資格を取得したものの、地元の企業は実務経験 3 年以上が要件のところばかりで、未経験の G さんにはチャンスがない状況だそうです。G さんの意見として、実務経験を求める企業が多いことを踏まえ、給与をもらいながら実績を積める訓練コースがあるとよい、とのことでした。



ヒント:企業と連携した職業訓練プログラム

- 出口戦略を立てることから更に一歩進んで、地域の採用ニーズに合った人材育成を行い、育成プログラムを修了したひとり親と企業のマッチングを行うことができれば、就職の可能性が一段と高まります。
- 具体的には、地域で採用ニーズのある職種やその職種に就くために必要なスキルを確認し、そのスキルを養成する職業訓練プログラムを実施します。例えば、高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得しつつ、実践の場として地域の企業による有償インターンシップ等に参加してもらうという方法があります（なお、企業に有償インターンシップを実施してもらう際、自治体から補助を行うことも考えられます）。
- プログラムの期間中、ひとり親は収入を確保しながら職業訓練に集中し、座学・実践両面でスキルアップをすることができますし、IT 資格だけでなくインターンシップの実績（実務経験）も備えることで、当該企業などに採用される可能性が高まります。また、企業側としてはインターンシップを通じて人材を発掘することができますので、企業・ひとり親の双方にメリットがあると言えます。

ヒアリング調査の結果から

- ・ ひとり親を雇用する IT 企業等に対し、採用時に重視するポイントを尋ねたところ、「正社員としての就業経験」という回答がありました。正社員としての就業経験は、タスク管理能力やコミュニケーション力など、企業で働く上で最低限求められる力があることをアピールする材料の一つなのだと思います。
- ・ 他方、正社員としての就業経験がない人の場合、タスク管理能力やコミュニケーション力等があるのか、企業側は判断が難しく、採用を見送る可能性も高くなります。しかし、インターンシップへの参加を通じて、これらの能力を企業側にアピールすることができれば、正社員としての就業経験の有無にかかわらず、採用可能性が高まると考えられます。

- 上記のような職業訓練プログラムは、企業や、民間のひとり親支援団体等が主体となって実施している場合があります。自治体としては、そうした取組を把握するとともに、協力可能な部分について連携を行うことが考えられます。自治体からのバックアップがあることでプログラムの信用度や期待が高まり、企業やひとり親が参加しやすくなります。

ヒアリング調査の結果から

- ・ 民間のひとり親支援団体へのヒアリングでは、企業への営業や当事者への接触の際、団体のみで行うよりも、自治体からの紹介を通じて行う方が、受け入れてもらえる可能性が高まるとの声がありました。

ひとり親が活躍できる可能性の高い仕事を調査・分析した上で、ひとり親を対象としたリスクリングや業務委託を行っています。



コラム：コンサルティング会社におけるひとり親支援の取組 (クラウドカンパニー株式会社)

■会社の概要

- クラウドカンパニー株式会社は、コンサルティング事業を柱として、経営者の課題解決を支援しています。また、シングルマザーに特化した支援を含む社会課題解決事業に特化した株式会社10.0（ジュッテンゼロ）を分社化し、リスクリングや業務委託などの支援を行っています。

■ひとり親（シングルマザー）支援の取組

- 一般社団法人日本シングルマザー支援協会と協力し、シングルマザー向けリスクリング講座を運営しています。講座では、企業のニーズに対して人材が足りておらず、かつ未経験者でもスキルを獲得しやすい職種を養成しています。具体的には、ICT支援員の資格取得やWebライティング、デジタルマーケティング、営業のスキル向上を目指す講座を開講してきました。ただ、半年～1年の講座のみで一人前になることは難しいため、講座修了者に対してもOJTによるサポートを続けています。
- また、シングルマザーの方への業務委託や、シングルマザーが就労継続する上でのハードルを解消するため、シングルマザー同士が交流できるコミュニティを運営しています。さらに、キャリアの目標から逆算して今何をすべきか考えるということを重視し、メンタリングにも力を入れており、社外への転職後もチャットやオンライン面談で、フォローを継続しています。

■企業のニーズとひとり親雇用の可能性

- 2024年に、主にIT系のベンチャー企業・成長企業を対象として、デジタルマーケティング業務の内製化ニーズやシングルマザーの採用ニーズに関するアンケート調査を行いました。その結果、企業文化への適性やスキルがある場合、シングルマザーの採用可能性が見えてきました。特に企業の内製化ニーズが見られた業務は、SNS発信の投稿、デジタル広告運用、Webライティングです。一方で、シングルマザー採用に当たっての課題としては、業務に対する習熟度や該当業務の経験、勤務時間が上位に挙がりました。
- デジタルマーケティングは、働く時間・場所などの柔軟性が高いため、ひとり親が就業を継続しやすいと考えています。また、カスタマーサクセスも、テレワークが可能で、難易度の高い専門知識は求められないため、未経験のひとり親に向いていると言えるでしょう。採用時には、ITパスポート試験レベルの知識や営業スキル、顧客の課題を把握する能力が求められます。
- 今後は学校におけるICT支援員の任用を広げていきたいと考えています。未経験者でもスキルを習得しやすく、こどもと同じように週末が休日であるため、ひとり親にとって働きやすい仕事だと思っています。

ひとり親を対象として、「中抜け OK」「異動なし」のリモートワーク雇用を行っている事例です。地域でひとり親に理解のある企業が増えれば、こうした働き方が可能な求人も増えていくかもしれませんね。



コラム：学校法人におけるひとり親の積極採用（学校法人角川ドワンゴ学園）

■法人の概要

- 学校法人角川ドワンゴ学園は通信制の高等学校（N 高等学校等）、プログレッシブスクール（N 中等部）、学習塾（N 塾）、プログラミング教室（N Code Labo）を運営しています。

■ひとり親対象のリモートワーク雇用制度

- 2019 年より、主にひとり親を対象としたリモートワーク雇用制度を導入しています。完全テレワークで働くことができ、全国で約 50 名（2024 年 11 月時点）が働いています。雇用形態は契約社員で、週 5 日・1 日 8 時間勤務、年収は 300 万円超です。
- リモートワーク雇用制度では、フレックスタイム制を適用し、コアタイム以外の時間帯であれば中抜け可能としています。中抜けした時間は、同月内であれば清算できるため、こどもの急な発熱等があっても、その都度年次有給休暇を取得する必要がありません。また、ひとり親が孤立せずに就労定着できるよう、社内の交流の場として「ママチャンネル」というグループチャットを用意しています。
- 制度利用者は生徒の進路指導や学習計画作成補助、担任連絡補助など、教職員の負担軽減と生徒のフォロー体制強化に係る業務を担っています。小論文の添削経験がある人や面接トレーニングのスキルを持つ人などもあり、生徒の進学や就職活動のサポートなど担当業務の幅が広がっています。

用語解説：

「フレックスタイム制」とは、一定の清算期間について決められた総労働時間の範囲内で、労働者自身が始業・終業時間を決められる制度です。コアタイム（必ず働かなければいけない時間帯）が設定されている場合もあります。

■制度利用者の人材育成・キャリア

- 業務ツールに関する社内研修や、詳細な業務マニュアルを整備していますが、仕事に慣れるまではテレワークで業務を覚えるのはかえって厳しい面もあるため、採用時にはフルタイムでの勤務経験や仕事への向き合い方をしっかり確認しています。
- また、人材育成の一環として、教員免許取得のための費用を年間 15 万円、最大 4 年間保証する制度が設けられています。教育実習期間中の給与も 100%保証しています。これまで制度を利用して「情報」の教員免許を取得したひとり親は、正社員になり情報システム系の部署に異動して勤務しています。
- 正社員登用制度も設けられており、上司からの推薦又は手挙げ（基本的な PC 等能力試験あり）により正社員になることができます。正社員は異動・転勤の可能性や業務上必要な場合は出社が求められるため、こどもが成長してから正社員になるケースが多いです。

■採用で重視している IT スキル

- パソコンの基礎スキルとして、採用時にタイピングテストを行っています。また、業務では Microsoft Office（Excel、Word、PowerPoint）や Google Workspace 等を利用しています。Microsoft Office Specialist 等の資格は必須としていませんが、例えば Excel の関数が使えると業務の幅が広がるため、採用時に評価されるでしょう。

第2部 自治体・ひとり親本人共通パート

1. これだけは知っておきたい3つのポイント

1 資格を取ることからではなく、まずは目標や就職先を検討する

p. 24~34, 37

ITを活用する仕事では、どの職種であっても、特定の資格を取らなければITを活用した仕事ができないわけではなく、また逆に、特定の資格を取れば必ず関連の仕事に就職できるわけでもありません。

そもそも一口に「ITを活用する仕事」と言っても、その内容や雇用条件等は様々です。そして、仕事によって採用時に求められるスキル内容やレベルは異なり、就職に有利なIT資格も異なってきます。

そのため、資格を先に決めるのではなく、まずはゴール設定をして、ゴール達成に必要な準備について検討し、その中でどのIT資格を取得するかを考える必要があります。

お住まいの地域や年齢など、状況によっては就職先が見つかりにくい場合があります。あらかじめ、お住まいの地域にITを活用した仕事の求人があるか、採用条件(職歴、年齢など)を満たせそうか、といったことを確認しておくのがおすすめです。

2 未経験者の採用可能性について

p. 35~36

基礎的なITスキルで対応できる仕事であれば、関連業務の実績がなくても、コミュニケーションスキルなど他に求められる条件を満たせば、採用される可能性は十分にあります。

雇用側はIT資格の有無で採用を決めるわけではありません。業務遂行力、コミュニケーション力、論理的思考力などのスキルが最も重要であり、その上でIT資格を持っていればプラスの評価となります。

3 資格取得に向けた修業環境を整える

p. 54

修業期間中は子育てや仕事もある中で学習を行いますので、修業開始前と比べて、時間的・体力的・精神的にハードな生活となることが予想されます。

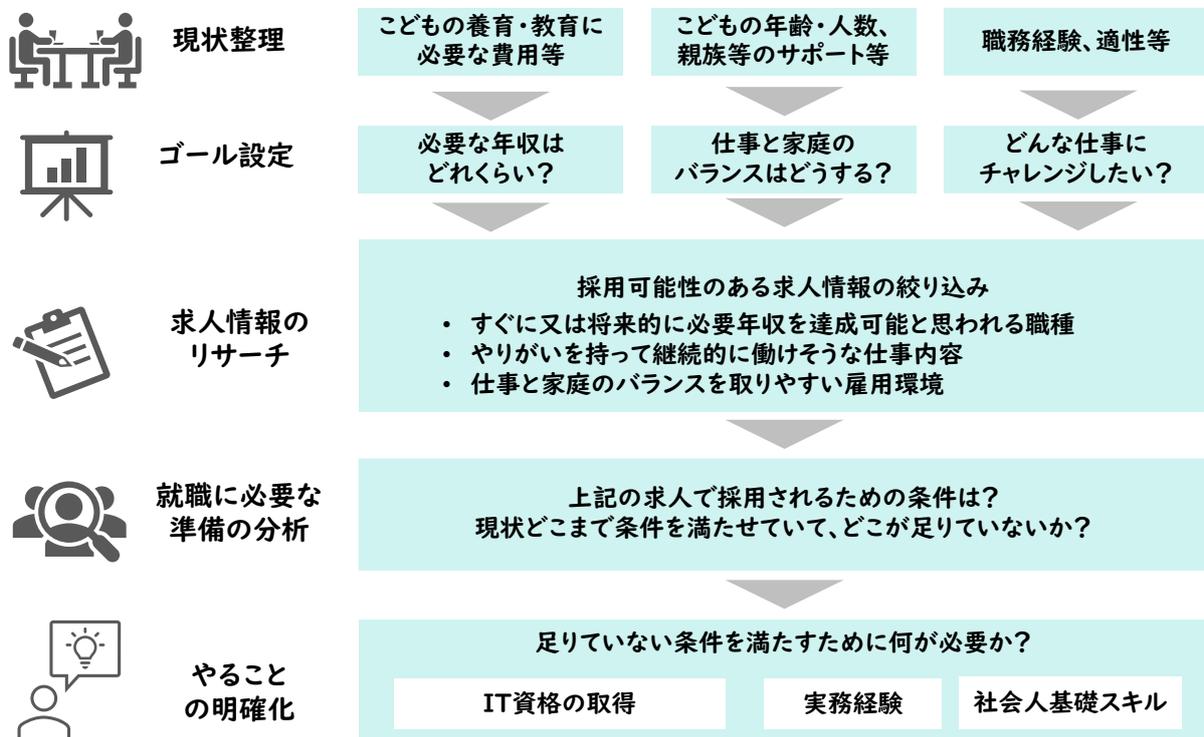
資格取得に向けた修業を決める前に、まずは学習する内容や難易度、資格取得までに必要な学習時間を把握し、その学習時間を確保する場合の1日のスケジュールを書き出してみることをおすすめします。そして、そのスケジュールでの生活を成り立たせるために、どのような体制を整える必要があるか、考えてみましょう。

2. 資格を決める前に、目標を立てる

- この資料を手にとられた方は、今現在、IT 資格の取得を検討されているのだと思います。IT 資格に関心がある理由は人それぞれと思いますが、「IT を活用する仕事をしたいくて、そのためには資格が必要だと思うから」という方も多いのではないのでしょうか。
- しかし実は、IT 資格を取得するだけで、IT を活用する仕事に就職できるわけではないのです。そもそも一口に「IT を活用する仕事」と言っても、その内容や雇用条件等は本当に様々です。そして、仕事によって採用時に求められるスキル内容やレベルは異なり、そうすると、就職に有利な IT 資格も異なってきます。

つまり、資格を先に決めるのではなく、まずはゴール設定をして、ゴール達成に必要な準備を分析し、その中でどの IT 資格を取得するかを考える必要があります（下図のイメージです）。皆さんは是非、このことを始めに意識してみてください。

<ゴールから逆算して支援メニューを検討するためのステップ(イメージ)>



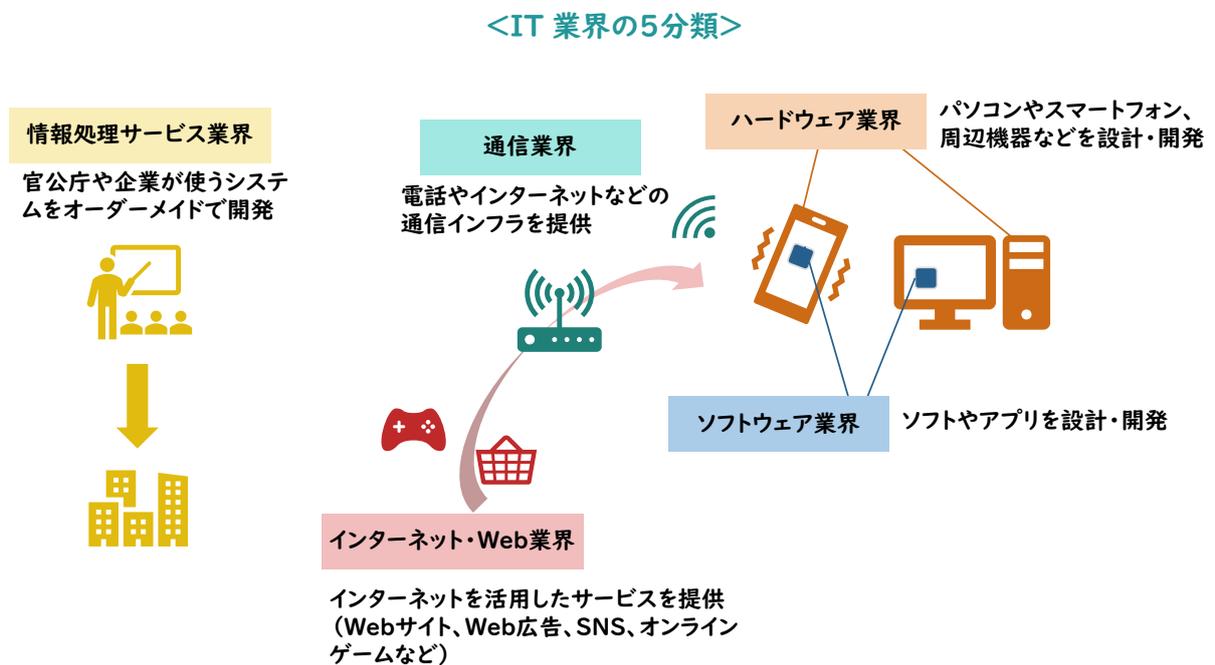
- そうは言っても、現状整理やゴール設定、必要な準備の分析など、自分ひとりでは難しく感じる方も多いと思います。その場合は、自治体のひとり親相談窓口やハローワーク、民間のひとり親支援団体などに一度相談してみると、まだ自分で整理しきれていない目標や思い、強み、これから何をすればよいか、見えてくると思います。

3. IT を活用する仕事の中身を知る

- あなたが「IT を活用してどんな仕事にチャレンジしたいのか」を考える際、まずは「IT 企業」や「IT 業界」といった言葉の意味や、仕事内容の例を知りたくなると思います。この章では、IT を活用する仕事について、用語や具体例などの基礎知識をまとめています。

(1) そもそも「IT 企業」「IT 業界」とは

- IT企業は、情報技術を活用した商品（サービス）を生産・提供している企業のことです。また、IT業界は、そうした企業の集まりのことです。扱う商品は企業によっていろいろですし、その商品を作るのに必要な仕事の種類も様々あります。
- IT 業界の仕事は多岐に亘りますが、一般的には下図の5つに分類されます。



(2) IT 以外の業界にもある、IT を活用する仕事

- IT を活用する仕事があるのは、IT 業界だけではありません。近年は製造業や建築業などあらゆる業界で「DX（デジタルトランスフォーメーション）」が進められており、IT の活用が求められる業務が多くあります。
- 例えば一般事務の仕事でも、これまで紙で管理していた記録をデータ化するなど、IT を活用した業務見直しが進んでいます。このため、パソコンの文書作成ソフトや表計算ソフト（例：Word、Excel）をはじめとする IT の知識・技術を身に付けておくと、採用で有利になったり、仕事の幅が広がったりすることがあります。
- また、学校のデジタル学習を支援する ICT 支援員などは、業界としては IT ではありませんが、IT の知識・技術が必要とされる仕事です。

用語解説：

「DX」とは、デジタル技術を活用してビジネスを変革することです。AI等の技術で新しいサービスを提供することや、データを活用して社内の業務を効率化することなど、幅広い意味で使われます。

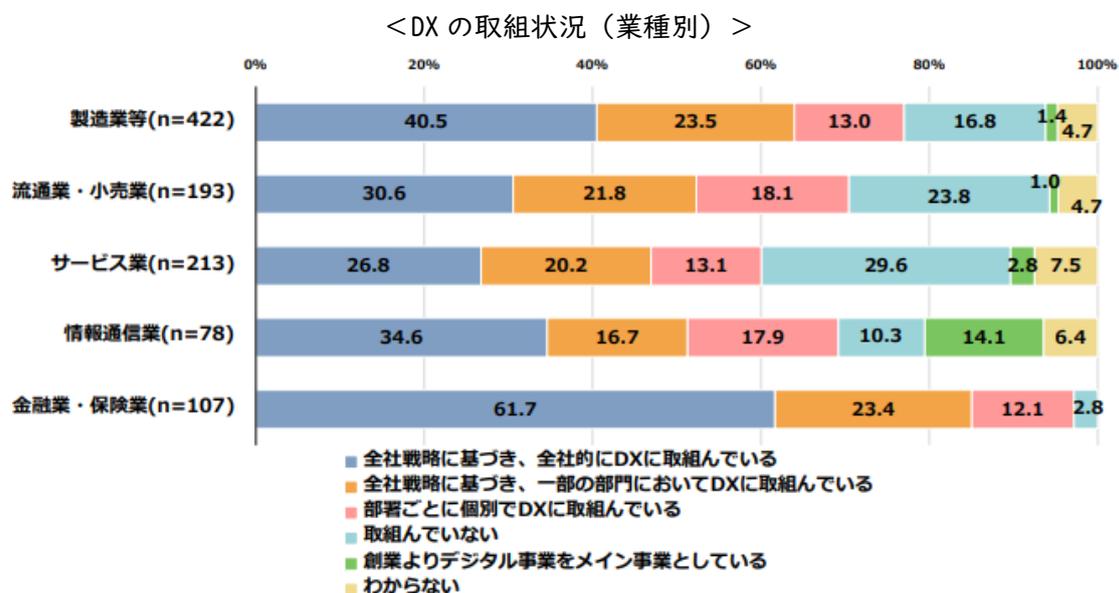


参考データ

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「DX 動向 2024」（p.2、図表 1-1）によると、DX に取り組んでいる企業の割合（※）は 2023 年度で 73.7%（n=1,013）となっています。

※「全社戦略に基づき、全社的に DX に取り組んでいる」「全社戦略に基づき、一部の部門で DX に取り組んでいる」「部署ごとに個別で DX に取り組んでいる」の合計

また、DX の取組状況は業種によって差はあるものの、情報通信業（IT）に限らず、どの業種でも 6～10 割程度の企業が DX を進めていることが分かります（下図）。



（出所）IPA「DX 動向 2024」^{iv}p.3, 図表 1-3

(3) 人材の需要動向

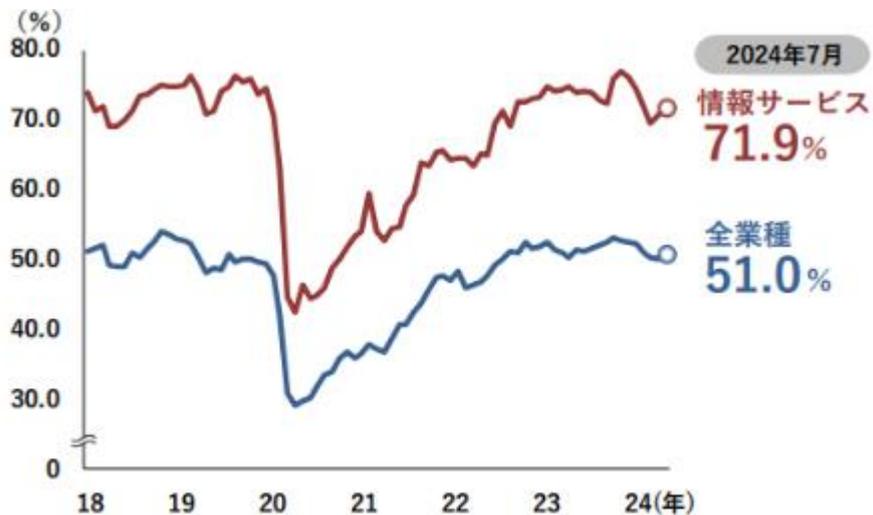
- ITを活用する仕事は、今後も高い需要が続く見込みです。初めてITを活用する仕事に就職する方でも、特に若いうちから実績やスキルをしっかりと積んでいくことができれば、長く活躍できる可能性が高いと思われます。



参考データ

帝国データバンクによると、情報サービス業の正社員の人手不足割合は、2024年7月時点で71.9%であり、業種の中で最も割合が高くなっています。また、今後も需要の拡大に伴い人手不足が長引くと見られています。

<情報サービス業の人手不足割合 月次推移（正社員）>



(出所) 帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査 (2024年7月)」『TDB Economic Online』¹⁾

(4) 仕事の具体例

① IT 業界の職種

- IT を活用した具体的な仕事について、まず、IT 業界の職種から説明をします。(1) で IT 業界の 5 分類を説明しましたが、各業界（ハードウェア業界、ソフトウェア業界、通信業界、インターネット・Web 業界、情報処理サービス業界）の中でも、様々な職種があります。
- IT 業界の仕事の工程（流れ）は一般的に、企画立案・プロジェクト管理、営業、設計・構築、運用・保守に分けられ、工程ごとに異なる職種が関わっています。下の図で例を示します。

用語解説:

「職種」は個人が担う仕事の種類のことで、これに対し「業種」（「情報通信業」等）は企業が行う事業の種類です。

用語解説:

「工程」とは、作業を進める順序やステップのことです。

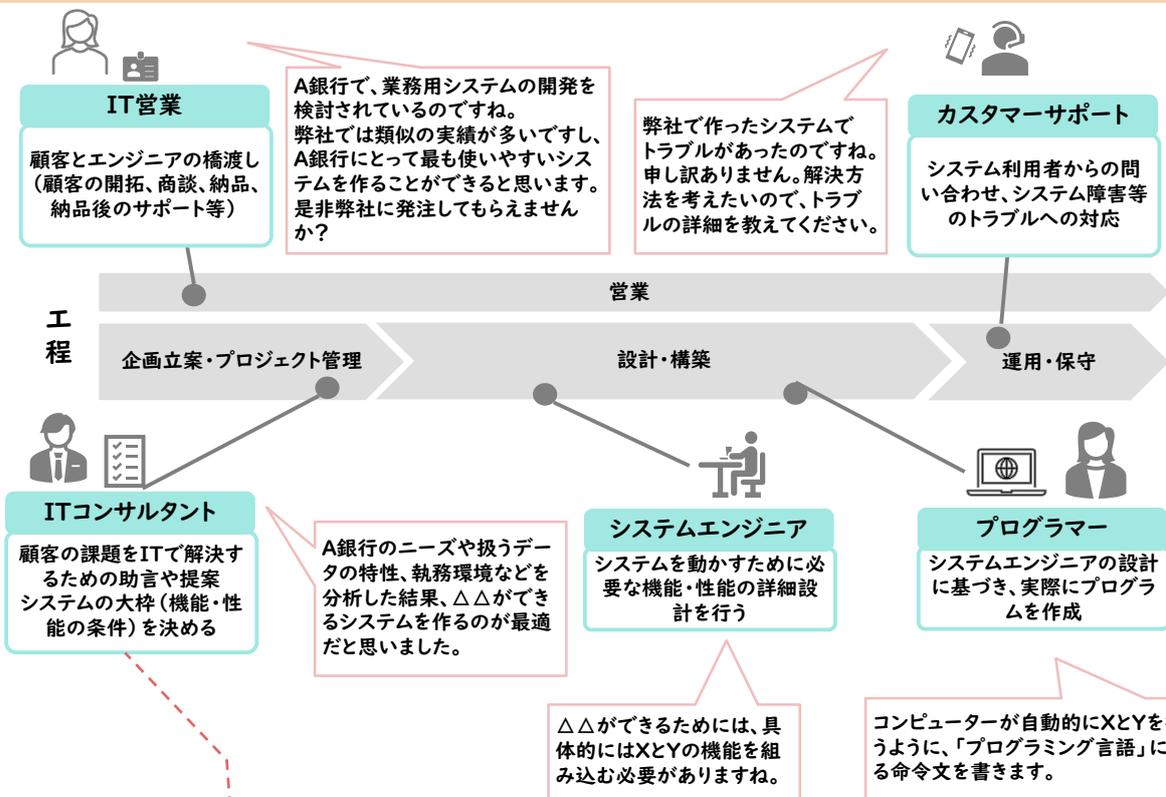
<工程ごとの職種(例1)>

凡例: 職種 業務内容 例 のシチュエーションにおける業務の具体的イメージ

企業向け業務用システム開発のケース

例

顧客であるA銀行から、業務で使うシステムの開発を依頼された。A銀行で扱うデータの特性、A銀行独自の執務環境などを考慮し、A銀行にとって最も使いやすいシステムを作ることに。



ちょっとポイント:

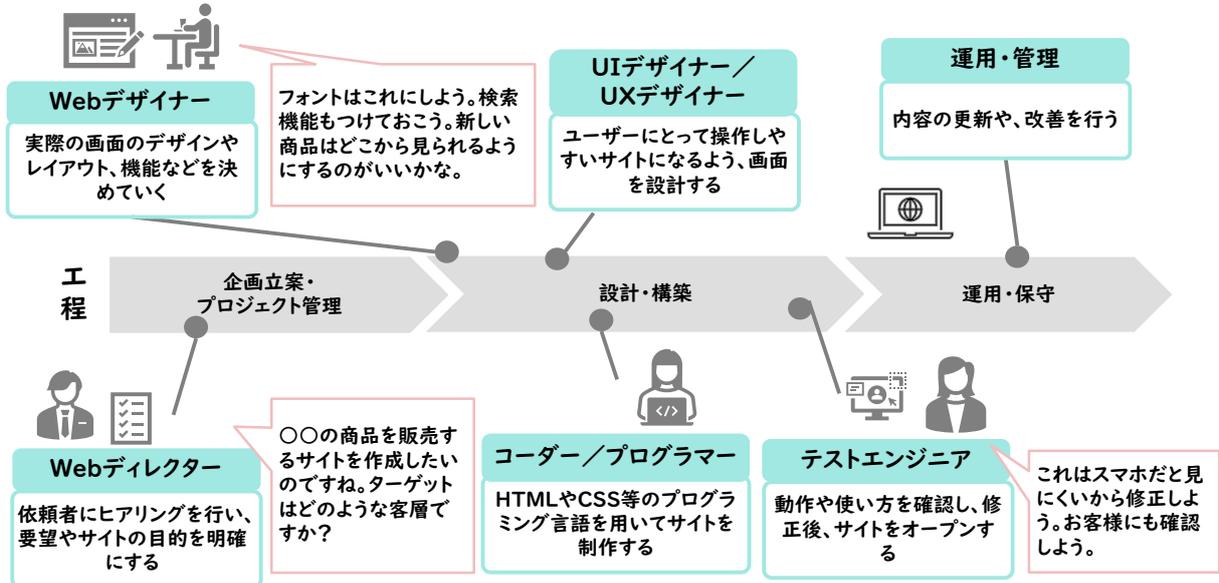
各 IT 職種の仕事範囲は、各企業が業務の実態に合わせ、少しずつ異なるものを設定しています。上図のシステム開発のケースで言えば、図のように IT コンサルタントとシステムエンジニアが分業している企業もあれば、システムエンジニアが企画立案・プロジェクト管理から担っている企業もあります。求人票上の職種名だけで判断せず、各企業に実際の仕事内容を確認する必要があります。

<工程ごとの職種(例2)>

凡例: 職種 業務内容 例 のシチュエーションにおける業務の具体的なイメージ

商品販売のためのWebサイトを制作するケース

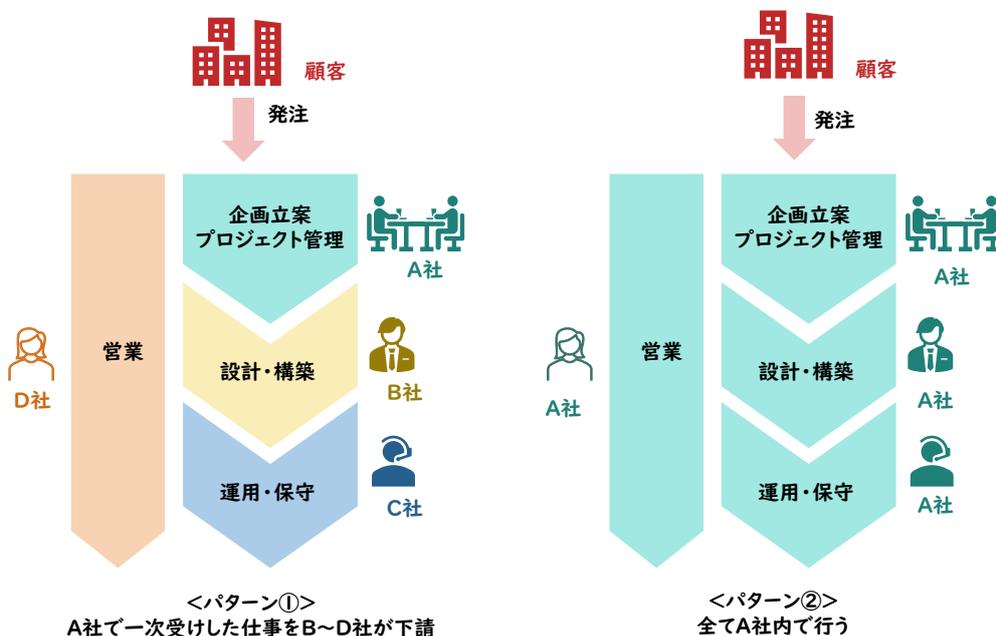
例 顧客企業から、自社商品のオンラインショップのサイト制作を依頼された。大規模なWebサイトであるため、社内でチームを組んで作成することに。



※上記の例では様々な職種で役割分担を行っていますが、実際には、Webデザイナーだけで全ての工程をカバーする場合も多くあります。

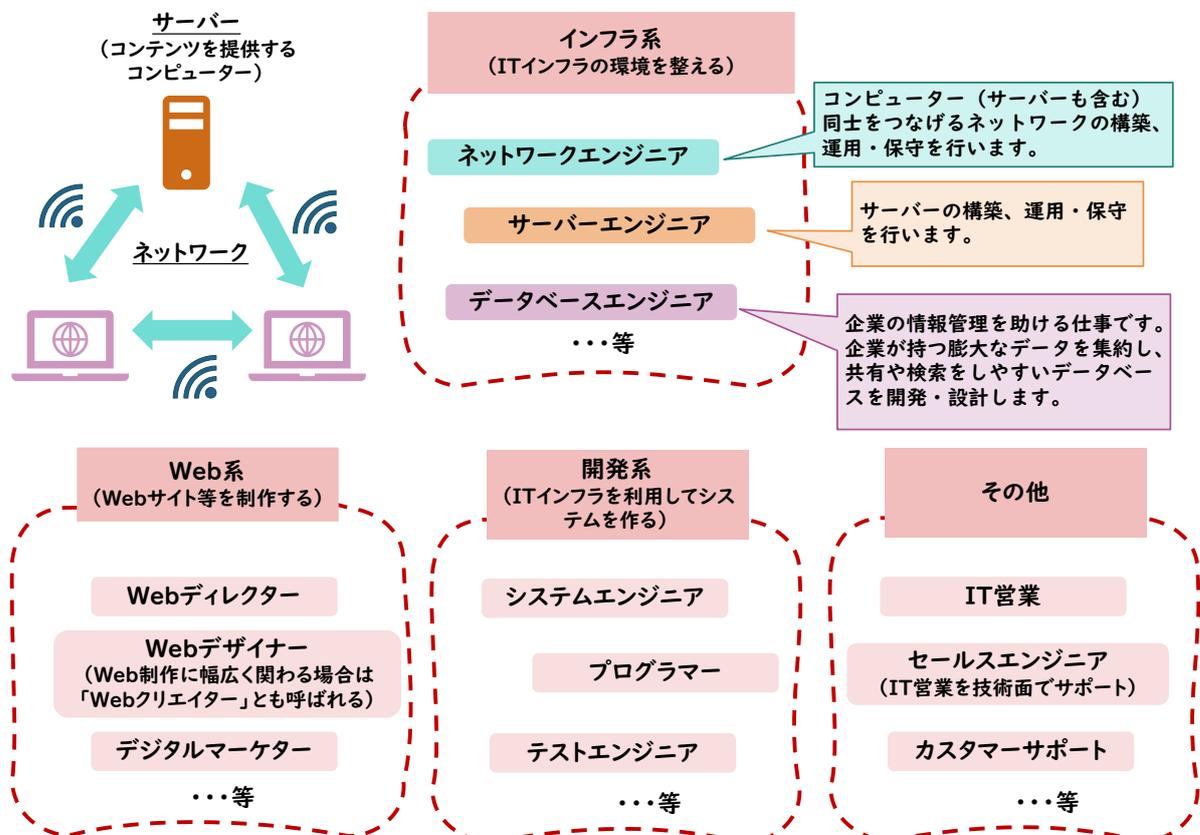
- なお、1つのプロジェクトに必要な仕事について、1つの会社で一括して行っていることもあれば、複数の企業（システムエンジニアの会社、カスタマーサポートの会社等）がチームとして行っていることもあります。

<IT業界の構造(例)>



- ここまでの説明で、IT 業界の職種の具体例を見ていくと、生み出す商品の種類（企業向け業務用システム、Web サイト等）が個々の企業によって様々あることをお分かりいただけたかと思えます。ただ、いろいろなパターンがあるとはいえ、ある程度カテゴリ分けした方が理解しやすいため、大まかな職種の分類を下図に示しておきます。（中でも「インフラ系」の職種は聞きなれない言葉が多いと思うので、詳しくに解説しています。）

<IT 業界の職種の大きな分類>



※実際には、1人で2つ以上の役割を担う場合も多くあります。

- では、IT 業界の職種の中で、業務未経験から目指しやすいものとしては、何があるでしょうか。次ページ以降にいくつかの例をまとめましたので、参考に見てみてください。中でもデジタル marketer や IT 営業、カスタマーサポートは、ヒアリング調査でも、基礎レベルの IT スキルがあれば業務未経験からでも始めやすい職種として挙げられていました。
- なお、同じ職種でも、企業によって担当する仕事内容は大きく異なることにご留意ください。また、次ページ以降で触れている IT 資格は、高等職業訓練促進給付金の対象にならない場合もありますので、ご注意ください（給付金の対象かどうかは、お住まいの自治体に御確認ください）。
- その他の職種については、厚生労働省の職業情報提供サイト「job tag」（<https://shigoto.mhlw.go.jp/User>）で調べてみるのもおすすめです。「job tag」では、IT 業界以外も含めた様々な職種について、仕事内容や平均収入等の情報がまとめられています。

Web デザイナー、Web クリエイター

■業務内容

Web デザイナー、Web クリエイターは、Web サイトを制作する職種です。依頼者の意図をくみ取って、使いやすさも考えながらデザインし、プログラミング言語を使って Web サイトを作ります。Web サイトの公開後も、より使いやすくなるように更新していきます。

ちょこっとポイント:

Web デザイナーは依頼者の要望に沿って設計をすることが基本ですが、ユーザー目線で使いやすい画面をデザインする「UI デザイナー」や、サービスを使うことで得られる心地よさや満足感などの体験をデザインする「UX デザイナー」という職種もあります。

■未経験での採用可能性

HTML や CSS などのプログラミング言語や、Illustrator のようなデザインツールの使い方を学ぶことに加え、自分で制作したサイトやデザインをまとめたポートフォリオを作っておくと、実務経験がない場合でも、実践的なスキルがあることをアピールできます。

■市場ニーズの動向

EC サイト（ネットショップなど）やインターネット広告など、Web デザインの需要自体は増加していくでしょう。ただ、最近は AI やデザインツールの普及により、初心者でも Web デザインが可能となり、仕事を獲得できない Web デザイナーも増えています。他方で、アクセシビリティ対応や AI 活用サイトなど、新しい知識や高度な技術を持つ Web デザイナーは、今後も求められていくと思われます。

デジタルマーケター

■業務内容

インターネットを活用したマーケティングの戦略を立てる仕事です。顧客の要望を基に、Web サイトや SNS などを活用した効果的な商品販売促進の方法を考え、実行します。

■未経験での採用可能性

未経験者も可とする求人も多くあります。エントリーレベルの仕事で実務経験を積みながら、関連の資格（ウェブ解析士、マーケティング・ビジネス実務検定、Google アナリティクス個人認定資格等）を取得することで、更なるキャリアアップを目指せます。

■市場ニーズの動向

電通「2023 年日本の広告費」によると、2023 年の広告費 73,167 億円のうち、インターネット広告費は 45.5% を占め、新聞・雑誌・ラジオ・テレビの広告費を大きく上回っています。インターネット広告費は過去 10 年で 3 倍に伸びており、今後もデジタルマーケティングの仕事の需要は高まっていくと思われます。

プログラマー

■業務内容

プログラマーは、システムエンジニア（システムの設計・開発・運用の全体を管理する職種）の行った設計を基に、プログラム言語を用いてシステムやソフトウェアを開発する職種です。プログラムのバグ（システムの不具合の原因）の発見、修正等も重要な仕事です。

■未経験での採用可能性

年数をかけて専門的スキルを習得していく前提のため、未経験の場合は20～30代の採用を中心とする企業が少なくないようです。

未経験の場合は、プログラミングの知識を習得することが採用に有利に働きます。プログラミング言語は多岐に亘るため、どのような製品の開発を行う企業に就職したいかを踏まえ、学習する言語を選択しましょう。

■市場ニーズの動向

AI 技術の進歩により、プログラマーやシステムエンジニアの需要が減っているとも言われます。

しかし、例えば IT インフラを扱う仕事では、顧客とコミュニケーションを取りながら継続的に課題分析や改善策の検討を行う必要があるなど、AI よりも人間に期待される役割が大きいです。特に、プログラマーからシステムエンジニアにキャリアアップすることで、活躍の場が広がっていくことが期待されます。

ちょこっとポイント:

プログラマーの経験を積んでから、上流工程の職種であるシステムエンジニアにキャリアアップする方が多いようです。システムエンジニアは、顧客からの要望を基にシステムを設計し、プログラマーと協力しながらシステム開発、テスト等を行います。プログラミング等の IT 知識の他、顧客や開発チームとのコミュニケーションや開発をマネジメントする力など、プログラマーよりもハイレベルなスキルが求められ、年収等も高くなることが多いです。



IT 営業

■業務内容

IT 営業は IT 技術の専門性を生かした営業を行います。顧客から課題や方針を聞き取り、自社が提供している商品（IT 機器や IT サービス、システム等）を顧客先に販売します。

■未経験での採用可能性

資格は必須とされておらず、IT 業界の中では未経験者が挑戦しやすい職種であると言われています。

一般的な営業職と同様、顧客が抱えている課題を的確に把握・分析し、解決方策を提案することが求められるため、コミュニケーション力、課題分析力、さらに顧客にサービスや提案をわかりやすく説明する説明力等が求められます。もちろん IT 関連の知識や営業の経験があれば、採用可能性はより高まるでしょう。

■市場ニーズの動向

IT 業界全体の傾向と同様、IT 営業についても、スキルを持つ人材の高い需要が続いていくと思われます。

カスタマーサポート

■業務内容

カスタマーサポートは、商品に関する顧客からの問い合わせに対して、電話、メール、チャット、訪問等でサポートを行う職種です。基本的な製品の使用サポートから、システムのトラブルシューティングまで、対応内容は多岐に亘ります。

■未経験での採用可能性

特別な資格等は必要とされないことが多く、IT を活用する仕事の登竜門として、未経験者でもチャレンジしやすい職種です。システムや IT 機器を対象とするため、IT 関連の知識やパソコンの基本操作スキルを身に付けておくことがよいでしょう。また、顧客との対話が中心になるので、コミュニケーション力があれば活躍しやすいと思われます。

ちょこっとポイント:

商品を導入した顧客に対し、継続的なサポートをすることを通じて、サービスの継続利用や新規利用につなげていく仕事を「カスタマーサクセス」ともいいます。
また、カスタマーサポートの中でも、商品の利用中に発生したトラブル等に対応する窓口を「ヘルプデスク」と言います。

■市場ニーズの動向

AI の進化によりサポートの自動対応が進む可能性が指摘されていますが、多くの企業で IT は活用されており、カスタマーサポートの需要は高い状況が続いています。

IT の基礎知識やスキルを習得することで、より専門性の高いサポート対応で活躍する人、プログラマーやシステムエンジニアにキャリアアップする人がいます。

② IT 以外の業界で、IT を活用する仕事

- IT 以外の業界で基礎レベルの IT スキルを必要とする職種としては、以下で紹介する ICT 支援員の他、一般事務等の仕事もあります。

ICT 支援員

ちょこっとポイント:

自治体に直接雇用されるケースと、自治体の委託を受けた民間企業に雇用されるケースがあります。

■業務内容

学校における教員の ICT 活用（例えば、授業、校務、教員研修等の場面）をサポートすることにより、ICT を活用した授業等を教員がスムーズに行うための支援を行う職種です。具体的な業務内容としては、授業支援（教員・児童生徒の操作支援、機器の準備、障害トラブル対応等）や、校内での研修実施、環境整備（メンテナンス、ソフトウェア更新等）、校務支援（ホームページ作成支援等）等が挙げられます。

勤務時間帯や長期休暇の時期など、こどもと生活リズムが合う点で、働きやすい仕事です。

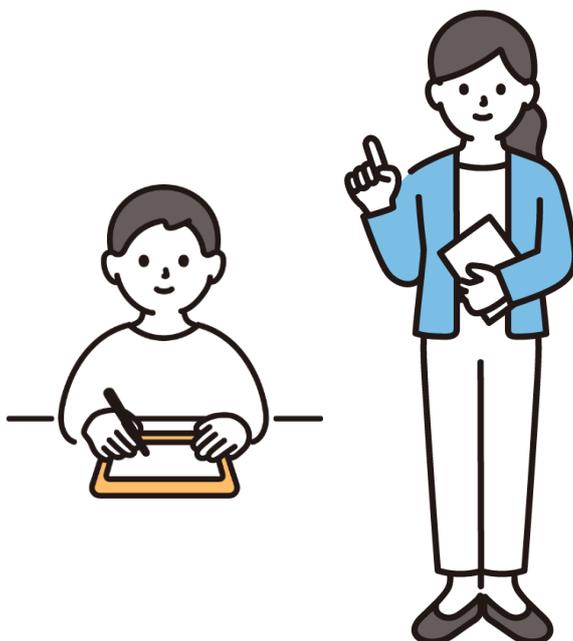
■未経験での採用可能性

資格は必須とされていませんが、業務ごとに必要なスキルレベルが「基本レベル」「応用レベル」の2段階に分けて定められており、少なくとも「基本レベル」のスキルが求められます。

技術系職種や教員経験者が採用されるケースが多いので、未経験者の場合は、採用可能性を高めるため、ICT 支援員に必要な知識やスキルがあることを証明する「ICT 支援員認定試験」を受けることも1つでしょう。

■市場ニーズの動向

文部科学省が定めた「教育の ICT 化に向けた環境整備計画」では、ICT 支援員を4校に1人配置することを目標としていますが、令和5年度末時点では4.5校に1人と、計画にはとどいておらず^{vi}、今後も採用数は増加していくと見られます。



4. 未経験者の採用可能性と仕事への適性

(1) 未経験者でも採用されるのか

- IT を活用した仕事では、業務未経験の場合、初めから高条件で就職することは難しいのが現実です。
- IT を活用した仕事は幅広く、高度な専門知識と豊富な実務経験を必要とする仕事（例：ソフトウェアの会社で開発の全体設計を担う場合など）もあれば、基礎的な IT スキルだけで始められる仕事（例：ソフトウェアの会社で商品のテストを行う仕事や、顧客の興味や行動に合ったコンテンツを SNS 配信するデジタルマーケティング、表計算ソフトを操作する一般事務等の仕事）もあります。
- 基礎的な IT スキルで対応できる仕事であれば、関連業務の実績がなくても、コミュニケーションスキルなど他に求められる条件を満たせば、採用される可能性は十分にあります。
- 他方、高度な IT スキルを必要とする仕事をしたい場合は、いきなりその仕事への就職を目指すのは現実的ではありません。いずれその仕事に就くことを念頭に、初級の仕事から始めて、下積みの時期を経てレベルアップしていく必要があります（例：将来的にはソフトウェア開発の全体設計を担うシステムエンジニアになることを目指して、比較的難易度の低いプログラマーから始める）。
- また、Web デザイナーを目指す方については、自分で制作したサイトやデザインをまとめたポートフォリオを作っておくことで、実践的なスキルがあることを証明できるため、業務未経験でも採用で有利になる場合があります（「7.IT を使って活躍するひとり親の事例」も参照）。

(2) 採用で資格よりも重視されること

- ITを活用した仕事では、労働時間だけでなく成果が重視されることが多くあります。そのため、採用に当たっては資格の有無よりも、実績や、成果を出すポテンシャル（業務遂行力、コミュニケーション力、論理的思考力など）があるかどうかが問われます。
- 雇用側にとっては、業務遂行力、コミュニケーション力、論理的思考力などのスキルが最も重要であり、その上で IT 資格を持っていればプラスの評価となります。逆に、上記のようなスキルが足りないとみなされた場合、資格を持っていても採用されない可能性が高くなります。
- なお、実績については、ITを活用した仕事の実績がなくても、例えば、特定の企業で一定期間、フルタイムの正社員として働いた経験がある場合は、それをアピールすることで、「企業で働くことに慣れている人」という評価を受けられる場合があります。

ヒアリング調査の結果から

ひとり親を支援する民間団体やひとり親を雇用するIT企業等に、採用で重視されるスキルを尋ねました。その結果から、以下のようなポイントを整理しました。

■業務を遂行する力

- ・ まずは、どんな仕事にも共通することですが、責任感を持って最後まで仕事をやり遂げる力が重要です。
- ・ また、ITを活用した仕事では、複数のタスクを同時並行で行うことが多くありますので、自分でやるべきことを洗い出し、優先順位を考え、スケジュールを守って仕事を進める力（タスク管理力）が求められます。

■コミュニケーション力

- ・ どんな企業であっても、社内や顧客とやりとりしながら仕事を進める上で、コミュニケーション力（相手の話を傾聴する力や、共感する力、伝える力など）は必須のスキルです。
- ・ また、IT業界では形の見えないもの（ネットワークやソフトウェアなど）を商品としています。商品について顧客に説明したり、社内で打合せをしたりする際は、専門的な内容や抽象的な概念であっても、的確な言葉でわかりやすく表現しなければ、お互いの認識を合わせることができません。つまり、説明力、プレゼン力が重要です。

■論理的思考力

- ・ 特にIT業界の場合、顧客の要望に対応するシステムの構築や、システムに問題がある場合の改善作業を行うために、論理的思考力（全体像を見ながら問題を分析し、解決策を筋道立てて考える力）が重要となります。

(3) 地域や年齢によっては就職チャンスが少ない

- お住まいの地域など、状況によっては就職先が見つかりにくい場合があります。ITを活用した仕事への就職を考えている方は、あらかじめ、お住まいの地域にITを活用した仕事の求人があるか、採用条件(職歴など)を満たせそうか、といったことを確認しておくのがおすすめです。
- 地域によっては、ITを活用した仕事の求人自体が少ないこともあります。



参考データ

前出のIPA「DX 動向 2024」でも、従業員規模が小さい企業ほど、DXに取り組んでいる割合が低いというデータがあります(※)。つまり、小規模な企業が中心の地域では、ITを活用した仕事の求人も少ないことが予想されます。

※2023年度にDXに取り組む企業の割合は、従業員規模が「1,001人以上」の企業では96.6%(n=266)なのに対し、「100人以下」の企業では44.7%(n=336)となっている(IPA「DX 動向2024」p.2、図表1-2)。

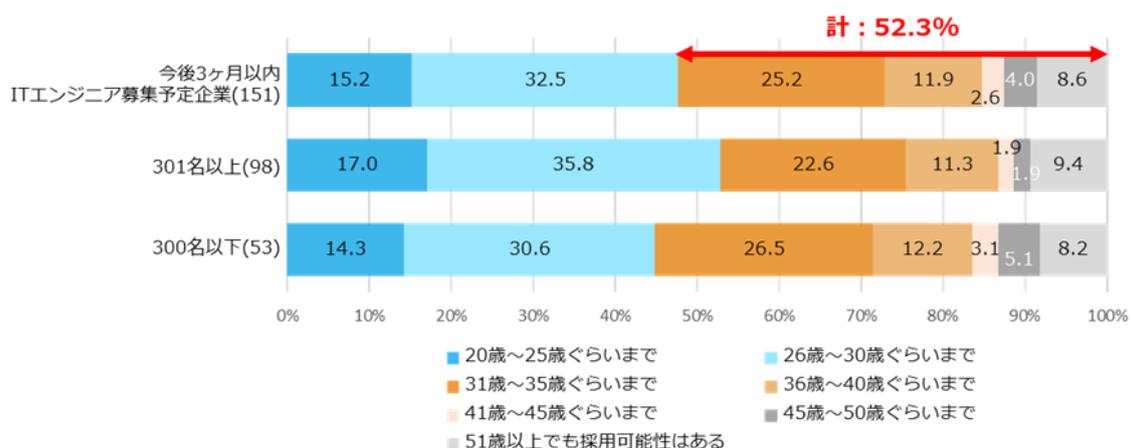
- 特に専門性の高い職種では、未経験者の場合、就職してから時間をかけてキャリアアップしていく想定のため、20~30代を中心に採用をしている企業も少なくないようです。



参考データ

マイナビ「中途採用・転職活動定点調査」によると、3か月以内に「ITエンジニア」を募集予定の企業に対し、開発未経験の応募者の採用可能性を尋ねたところ、半数以上は30代以上でも採用可能性ありと回答しました。ただ、30代前半に比べると、30代後半以降は割合が低くなっています。

<応募者が開発未経験の場合、何歳までなら採用の可能性はあるか>



(出所) マイナビ中途採用・転職活動定点調査(2023年6月)^{vii}, 図7

(4) 仕事への適性も重要

- どんな仕事でも同様ですが、自分の適性によっては「仕事が合わない」こともあります。せっかく IT を活用する仕事に就職しても、自分が合わないと感じる仕事では、働き続けることがストレスになるかもしれません。
- IT を活用する仕事の中にも、とりわけ論理的思考が求められる仕事や、特に対人コミュニケーションスキルが重視される仕事など、様々なものがあります。関心のある仕事の内容をよく調べ、スキルやパーソナリティの面で自分に合いそうか、想像しながら就職先を検討してみてください。
- 自分のスキルやパーソナリティを整理できていないという方は、適職診断を受けてみるのも1つの方法です。適職診断は、オンラインで無料公開されているものも多くあり、IT 業界の職種に特化したものもあれば、様々な分野の仕事の中から適職を判断してくれるものもあります。



参考データ

厚生労働省の職業情報提供サイト (job tag) では、仕事に対する興味・価値観、能力面の特徴から適職を探索する自己診断ツールが公開されています (IT 業界に特化したツールではありません)。自分のスキルやパーソナリティを確認する参考にしてみてください。

※職業情報提供サイト (job tag) 『自己診断ツール』

<https://shigoto.mhlw.go.jp/Search/Top>



参考データ

IT 業界の採用活動では、プログラマーなど IT 業界の仕事に向いているかを判断するため、業界特有の適性検査を行う場合が多くあります。例えば、主要な適性検査の1つである「CAB」 (日本エス・エイチ・エル株式会社の提供するコンピュータ職適性検査) では、指定された命令を実行すると図形がどう変化するのかを尋ねる問題など、プログラミングに必要なスキルを測る問題が出題されます。適性検査の出題例を確認すれば、自分の適性を判断する参考になるかもしれません。

iRup では、独自の研修スキームで未経験者を IT エンジニアとして育成しており、ひとり親の社員も活躍しています。



コラム: IT 企業における IT エンジニアの育成 (株式会社 iRup)

■会社の概要、特徴

- 株式会社 iRup (以下「iRup」という) はエンジニア派遣、エンジニアの育成、システム開発などを行う会社です。2021 年創業で、従業員は約 100 人です。
- iRup の特徴のひとつは、経験者だけでなく未経験者も採用し、即戦力の IT エンジニアとして育成していることです。会社として未経験者向けのカリキュラムを用意しており、内定者は入社までの間にこのカリキュラムを各自修了し、IT エンジニアとして最低限必要なスキル (コミュニケーション力、問題解決力等) を身につけます。入社後の 1~2 年間は、先輩社員の案件に参画しながら実践スキルを磨きます。慣れてきたら、自分で案件のマネジメントを行うなど、主体的に仕事を進めていくようになります。

■ひとり親の社員について

- 上記のような育成体制の下、未経験から入社し、システムの運用・保守兼プログラマーの仕事で活躍しているひとり親の社員もいます。オフィスへの出社を基本とするなど、雇用条件等で他の社員と異なることはありません。ただ、チームメンバーに対してひとり親であることや、こどもの病気等で急に休む場合がある等も説明した上で案件に参画しており、周囲の理解を得ながら柔軟に有給休暇の取得等を行えています。

■雇用条件、働き方

- iRup で未経験者を多く採用しているのは、運用・保守の職種です。採用後半年間は契約社員ですが、勤怠等に問題がなければ、その後正社員に切り替わります。年収は 300 万円前後からスタートします。
- 正社員の平均残業時間は月 10 時間前後です。ただし、仕事内容や時期によっては残業が多くなることがあります。特にリリース (新しい商品を発表すること) の時期は忙しくなりがちです。また、運用・保守の仕事は、夜間に問い合わせが発生する案件の場合、夜型の勤務になることがあります。
- 大半の社員がオフィスに出社しています。テレワークでは、特に新規採用者の場合、分からないことがあっても聞きづらい等、コミュニケーションや仕事の効率でデメリットも多くあります。実績を数年積みめば、テレワークに移行してもスムーズに仕事ができるかもしれません。

用語解説:

Amazon Web Services が提供するクラウドサービスに関する知識やスキルを認定する資格です。

■IT 資格に関するアドバイス

- IT エンジニアとして働くには、ある程度の基礎知識を身につけた段階で実践に移り、実績を積みながらキャリアアップしていくことが重要です。ただ、採用段階で IT 資格があればベターです。Excel 関数が使えることは最低限必要ですが、VBA や、インフラ系のエンジニアを目指すなら LPI 認定資格、CCNA、AWS 認定資格などがあるとよいでしょう。

5. 気になるワード「テレワーク」と「フリーランス」

(1) テレワークのよくある誤解

- ITを活用した仕事であっても、必ずテレワークができるわけではありません。職場によって、完全テレワーク（全くオフィスに出社せず、在宅など自分の好きな場所で仕事をしてよい）を認めている場合もありますが、毎日又は定期的にオフィスに出社することを求めている場合もあります。

用語解説：

「テレワーク」は、在宅勤務の他、サテライトオフィス・シェアオフィス、モバイル勤務（ホテルや新幹線・電車等、移動中の場所で仕事すること）も含まれます。



参考データ

2023年4月の内閣府「第6回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、全国のテレワーク実施率は3割、東京23区で5割となっており、地域により差があることが分かります。また、業種によっても差があり、情報通信業（IT）では7割となっています。

なお、上記の「テレワーク実施率」のうち、完全なテレワークを認めているケースの割合はかなり低いと思われます。例えば、マイナビ「ライフキャリア実態調査 2024年版」でも、正社員でリモートワーク（テレワーク）をする人のうち、完全リモートワーク（週5日以上在宅勤務をしている人）は2割弱（n=792）にとどまっています（東郷2024）^{viii}。

- 「テレワーク＝楽な仕事」というイメージを持っている方もいるかもしれませんが、それは誤解です。テレワークでは、オフィスに出社して行う仕事と同様に、勤務時間中はパソコンに向かって仕事をしている必要があり、オフィスで仕事をする場合と同様の量と質の成果を出すことが求められます。
- テレワークでは1人きりの環境で仕事ができるため、他の職員との直接のやりとりが少なく、人間関係のストレスが少ないと感じる人もいます。ただし、それは裏を返せば、自分で仕事の進行を管理し、仕事に必要なスキルも自分で身に付けていかなければならないなど、自律性が求められるということでもあります。
- 過度な期待を持ったままテレワークを始めてしまうと、「こんなはずではなかった」と思う場面に多く直面し、仕事を続けることが難しくなってしまうかもしれません。テレワークを希望する場合は、上記のことをしっかり認識しておくことが重要です。

(2) フリーランスの実際

- ITを活用した仕事を目指す方の中には、フリーランスに関心のある方もいるのではないかと思います。フリーランスと言えば、好きな時間に好きな場所で仕事ができる、といったポジティブなイメージが強いかもしれませんが。しかし実際には、フリーランスにもデメリットがありますし、フリーランスになったもののうまくいかないケースも存在します。
- 「フリーランス」とは、企業等の組織には所属せず（企業等と雇用契約を結ばず）、個人で仕事を請け負う働き方のことです。単発の仕事について、企業等との間で業務委託等の契約を結び、その仕事が終わったら契約終了となります。
- フリーランスの強みは、時間や場所の制約を受けず、柔軟な働き方が可能な点です。また、単発の仕事一つ一つについて契約を行うので、やりたい仕事を主体的に選びやすいのもメリットです。スキルの高い人であれば、組織に所属して仕事をするよりも、高い収入を目指すことができます。
- しかし、上記のようなメリットを享受するには、高いスキルを持った人材であることが前提条件となります。当然ながら、業務を委託したいと考える顧客がいなければ、仕事の依頼は来ません。また、一つ契約ができたとしても、その案件が終われば契約は終了し、次の契約があるまで収入はゼロになります。
- 一般的には、まず企業等の組織に所属して（正規雇用等の雇用契約を結んで働いて）、キャリアや人脈を築いてから、フリーランスに転向するケースが多いようです。未経験から Web デザインやプログラミングの仕事にチャレンジしようとしている方については、まずは企業に所属して経験を積んでいく方が、いずれフリーランスに転向するとしても、成功するチャンスが大きくなると思われます。



参考データ

一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会「フリーランス白書 2024」^{ix)}によると、フリーランス・パラレルワーカーの回答者 1,242 人について、直近 1 年間の仕事獲得経路で最も多いのは「人脈（知人の紹介含む）」(61.6%)、次いで「過去・現在の取引先」(58.9%)となっています（重複回答あり）。また、最も収入が得られる仕事獲得経路は、「過去・現在の取引先」(32.7%)、「人脈」(27.9%)の順に多く、合計で全体の 6 割となっています。フリーランスとして仕事を獲得していく上では、実績や人的ネットワークが重要であることが分かります。

用語解説：

「パラレルワーカー」とは、複数の仕事を持ちながら働く人のことで、雇用契約をしている人も含まれます。

6. 取得する IT 資格を考える

(1) IT 資格を取得する意義

- IT を活用する仕事では、どの職種であっても、特定の資格を取らなければ IT 関係を活用した仕事ができないわけではなく、また逆に、特定の資格を取れば必ず関連の仕事に就職できるわけでもありません。基礎的な IT スキルだけで始められる仕事であっても同様です。
- 他方で、**IT 資格は、IT の知識や技術を証明するツールの 1 つとして有用です**。業務未経験者の場合は、基礎レベルの IT 資格の取得を通じて、IT 業界の仕事をする上で最低限のコミュニケーションを取れるだけの力が身につきます。そのため、企業から「仕事上のコミュニケーションができる人」「IT の基礎知識を自ら学習し修得する能力のある人」といった評価を受けやすくなることがあります。
- また、既に IT 企業等で活躍している人については、(今の職場で資格が昇格・昇給等の要件になっている場合は) IT 資格の取得が昇格・昇給につながったり、仕事の幅を広げたり、職場での評価を高めるといった効果も期待できます。



参考データ

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 (2024) の調査で、高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得した人からは、同じ職場にしながら仕事の幅が広がった、能力が向上した、給与が上がった、職場で評価が高まったといった声がありました。

<資格を取得したことによる就業状況の変化(IT 資格取得者の回答のみ抜粋)>

仕事の幅が広がった
<ul style="list-style-type: none">・ 仕事内容にデータ活用を利用する業務が増えた。レベルアップできた。・ これまで提供していたサービスに加えて、ウェブデザインの知識もふまえてサービス提供をできるようになりました。・ 任される仕事が増えた。自分に自信がついた。
能力が向上した
<ul style="list-style-type: none">・ 新しいシステムやパソコン周りの動作確認などが以前より容易になった。・ PC 操作が早くできるようになった。・ 作業効率があがった。
給与アップにつながった
<ul style="list-style-type: none">・ 給料が上がった。・ 仕事でできる事が増え、能力給が上がった。
職場で評価が高まった
<ul style="list-style-type: none">・ 職場で意見を重宝されるようになった。

(注) 複数のカテゴリに当てはまるものについては、主なもの 1 つに掲載した。

(出所) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 (2024) p.167, 図表 4-71

- ただし、「IT」は職業ではなく、あくまでスキルです。そのため、IT資格を取得しただけでは、すぐには好条件の就職ができない場合も多いのが現実です。また、地域や年齢などによっては、求人自体が見つかりにくいこともあります。特に、ITを活用した仕事が未経験の方については、まずはITを活用する仕事の内容や就職に当たり求められることを理解し、自分がどんな仕事を目指し、そのためにどんな準備をすればよいのか、戦略を立てることが重要です。
- なお、「IT」はあくまでスキルであるからこそ、本人の意欲や活用の仕方によって、多様な選択肢につながる可能性があります。時間単価の労働よりもナレッジワーク（自身の持つ知識を活用して新たな付加価値を生み出す労働）が向いている人や、病気や障害等の理由で体を大きく動かすことが難しいものの、デスクワークなら活躍できる人、パソコンの基本スキルを身につければ応募できる求人が増えるという人もいます。そうした方にとっては、自分らしく継続的に働いていく上で、ITを活用したキャリアにチャレンジすることは価値があるものと思われる。

(2) 就職活動に役立つ IT 資格の例

- 初心者でもチャレンジしやすい基礎レベルの IT 資格で、国の給付金制度（高等職業訓練促進給付金や教育訓練給付金など）の対象となる可能性のあるものについて、いくつか紹介したいと思います。（なお、実際に給付金の対象になるかどうかは、お住まいの自治体に確認が必要です。）
- まず、IT 資格の難易度を判断する際、1つの目安となるのが「IT スキル標準（ITSS）」です。初心者の場合、難易度に関して言えば、ITSS レベル1相当の資格からチャレンジするケースが多いと思われます。なお、基礎レベルの資格の中には、ITSS の枠組みではレベルが割り振られていないものもあります。



参考データ

IT スキル標準（ITSS）は、情報サービス産業における各職種・専門分野について、評価の基準となるレベルの設定、必要なスキルの定義、キャリアマップの提示をすることで、必要な実務能力を体系化した共通枠組みです。平成 14 年 12 月に経済産業省により策定されましたが、現在は独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が改訂版を策定・公表しています。

ITSS では、個人の経験と実績の達成度指標で評価する 7 段階のレベルを設定しています。高等職業訓練促進給付金では、修業期間が 6 か月以上であれば、ITSS のどのレベルの資格も対象になり得ますが、一般的にはレベル 1~3（比較的初級レベルのもの）に相当する資格を目指すケースが多いと思われます。

レベル 1 は仕事上のコミュニケーションに必要な基礎知識があるレベル、レベル 2 は指示に従ってマニュアル化された業務を行えるレベル、レベル 3 は独力でマニュアル化された業務を行えるレベルとされています（IPA 2012）*。

- まず、職種を問わず必要な IT の基礎知識や、パソコンの基本スキルを証明する資格を紹介します。

IT パスポート試験

国家資格

情報処理技術者試験（国家試験）の 1 つ。IT に関する全般的な基礎知識を測定する試験として、採用や社員教育に活用している企業も多い。

■学習内容

AI、ビッグデータ、IoT、経営、プロジェクトマネジメントなど、IT に関する総合的知識

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等）ができる

■学習時間の目安

(※1)
70 時間

(※2)

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)

IT の領域に関わる人全般（事務職、営業職等を含む）

ITSS 該当なし

※1：学習時間の目安は、教育訓練給付制度の Web サイト^{xi}に掲載されている各講座の「訓練時間」を参考に記載した。以下同様。

※2：ITSS レベルについては、特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会「各スキル標準と認定試験・資格の関係（ISV Map Ver12.4）」に基づく。以下同様。

基本情報技術者試験

国家資格

情報処理技術者試験（国家資格）の 1 つで、IT エンジニアに必要とされる基礎知識・技能を測る試験。基礎レベルの資格だが、IT パスポート試験よりも難易度が高いとされる。

■学習内容

IT を活用したサービスやシステム等を作る際に必要とされる基本的な知識・技能

■学習に必要な前提知識等

IT についての基礎的な理解がある方が取り組みやすい。

■学習時間の目安

70 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)

プログラマー、システムエンジニア、インフラエンジニア等

ITSS レベル 2

MOS (Microsoft Office Specialist)

民間資格

Microsoft 社が認定する、同社製品 (Word, Excel, PowerPoint, Access, Outlook) の知識・操作スキルを客観的に証明する資格。各製品についてバージョンごとに試験科目が設定されており、Word 及び Excel については、一般レベルと上級レベル (エキスパート) が用意されている。

■ 学習内容

Microsoft Office 製品による資料作成やデータ分析等の知識・操作スキル

■ 学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作 (起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等) ができる

■ 学習時間の目安

60-80 時間
/ 1 科目

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種 (例)

事務、経理、総務等、Microsoft Office を用いるあらゆる職種

ITSS 該当なし

VBA エキスパート

民間資格

Microsoft Office 製品に搭載されているマクロ (操作を自動化する機能) と、VBA (Excel 等の Microsoft Office 製品で使われる、マクロを作るためのプログラミング言語) のスキルを証明する資格。Excel と Access のそれぞれについて、ベーシックとスタンダードの 2 レベルが用意されている。

■ 学習内容

Excel あるいは Access について、VBA を使ってマクロを作成・読解するスキル

■ 学習に必要な前提知識等

Excel の基本操作 (データ入力、書式設定、四則演算、データの保存等) ができる

■ 学習時間の目安

60 時間

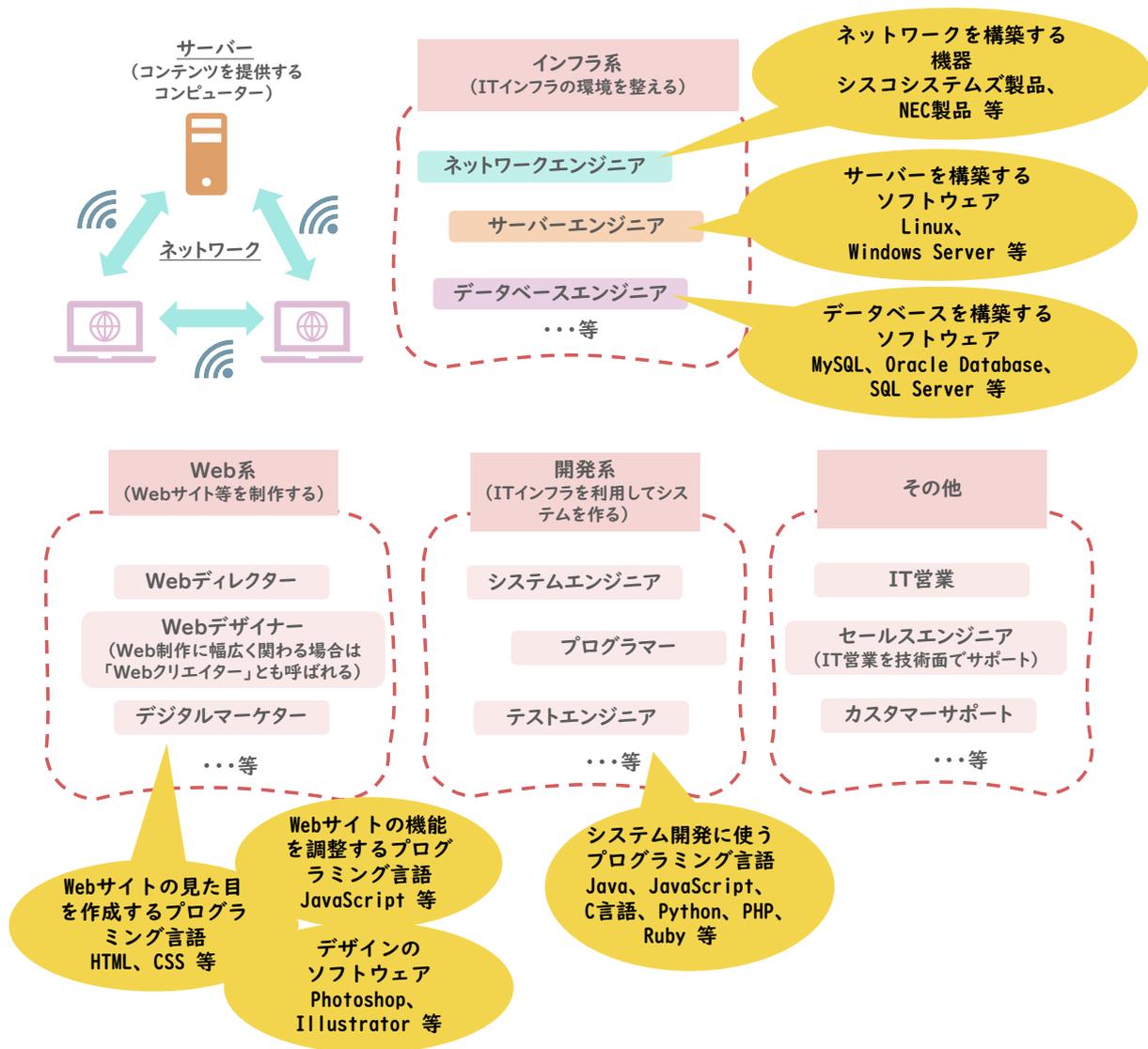
★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種 (例)

総務・人事・経理職、営業・マーケティング職、製造管理職等

ITSS 該当なし

- 次に、特定のコードやソフトウェアに関する基礎資格を紹介します。
- あわせて、前出の図<IT 業界の職種の大まかな分類>を下地に、各 IT 職種がよく使用するコードやソフトウェアの例をまとめましたので、これも参考にしながら各資格の情報を確認してください。

<IT 業界の職種の大まかな分類及びよく使用するコード、ソフトウェア>



Webクリエイター能力認定試験

民間資格

Webサイトの制作に必要な、HTML（Webサイトの構造を作るプログラミング言語）やCSS（Webサイトのデザインやレイアウトを作るプログラミング言語）等のスキルを証明する資格。スタンダード、エキスパートの2段階のレベルがある。

■学習内容

Webサイト制作のデザイン能力、プログラミング言語（HTML、CSS）を使ってコードを書く能力

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等）ができる

■学習時間の目安
60時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

Webクリエイター、Webデザイナー、Webディレクター等

ITSS 該当なし

HTML5 プロフェッショナル認定試験レベル1

民間資格

HTML5（Webサイトを作るための言語）を活用してWebサイトやアプリケーションを作るために必要な知識やスキルを認定する資格。レベル1とレベル2があり、レベル1ではWebコンテンツ制作の基礎の実力を測る。

■学習内容

Webの基礎、CSSやHTMLによるコードの書き方、多様なデバイスへの対応、API（※）の知識

■学習に必要な前提知識等

Web制作やプログラミングの経験がある

■学習時間の目安
40時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

Webデザイナー、プログラマー、コーダー、アプリケーション開発者等

ITSS レベル2

※ API：ソフトウェアやアプリケーションの機能を連携する仕組み

Photoshop クリエイター能力認定試験

民間資格

Photoshop（アドビ社の画像編集ツール）の活用能力を測定する試験。

■学習内容

画像編集技術に関する知識、Photoshop を使ってコンテンツを制作する能力

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等）ができる

■学習時間の目安
50 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

グラフィックデザイナー、WEB デザイナー、WEB ディレクター等

ITSS 該当なし

Illustrator クリエイター能力認定試験

民間資格

Illustrator（アドビ社のデザインツール）の活用能力を測定する試験。

■学習内容

文書をデザインする技術に関する知識、Illustrator を使ってコンテンツを制作する能力

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等）ができる

■学習時間の目安
50 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

グラフィックデザイナー、WEB デザイナー、WEB ディレクター等

ITSS 該当なし

- 次の LPIC-1、OCJP Silver SE、CCNA は、インフラエンジニア、クラウドエンジニア、システムエンジニア等の仕事をしていく上では有用な資格です。ただし、ネットワーク、クラウド、プログラミングの基本知識がない場合、学習の難易度が高くなります。未経験から IT エンジニアを志望する方は、基礎レベルの仕事から始めて、実務経験を積みながらこれらの資格を取得し、キャリアアップを目指していくという方法もあります。

LPIC-1

民間資格

LPI (Linux Professional Institute) 認定資格の 1 つで、Linux (サーバーを構築するソフトウェアの 1 つ) を扱う知識やスキルを認定する試験。なお、LPIC-1 よりもハイレベルな試験として LPIC-2、LPIC-3 もある。

■ 学習内容

Linux のインストール方法・基本操作の知識や、システム構築・管理の能力

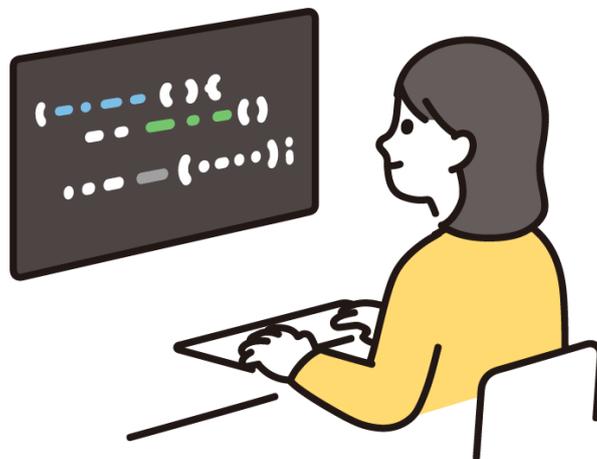
■ 学習に必要な前提知識等

IT 全般の基本知識があること。ネットワーク、クラウドの基本知識がある方が学習しやすい

■ 学習時間の目安
60 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)
インフラエンジニア、クラウドエンジニア等

ITSS レベル 1



OCJP (Oracle Certified Java Programmer) Silver SE

民間資格

オラクル認定資格（オラクル社製品に関する専門知識を証明する資格）の1つで、Java（システム開発に使うプログラミング言語）に関する知識・スキルを認定する資格。Bronze、Silver、Goldの3レベルがあり、最も難易度が高いのはGold。Silverは、開発初心者向けの学習内容となっている。

■学習内容

Javaを利用したアプリケーション開発に必要とされる、基本的なプログラミング知識

■学習に必要な前提知識等

プログラミングの基本知識を有すること

■学習時間

の目安
60時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)

プログラマー、システムエンジニア等

ITSSレベル1

CCNA (Cisco Certified Network Associate)

民間資格

シスコ技術者認定資格（シスコシステムズ社製品を扱う技術・知識を証明する資格）の1つで、ネットワークエンジニア（快適な通信環境を作るため、コンピューターネットワークの構築・保守・管理を行うエンジニア）の入門資格。

■学習内容

ネットワークの基礎、IPサービス（通信の仕組み、通信方式の設定）、セキュリティ、ネットワーク管理の自動化等の知識

■学習に必要な前提知識等

IT全般の基本知識があること。シスコシステムズ社の製品に関する知識を問われるため、製品を使った経験がある方が学習しやすい

■学習時間

の目安
60時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)

ネットワークエンジニア、カスタマーサポート等

ITSSレベル2

奥進システムは、システム開発や HP 制作を行う会社で、障害のある社員やひとり親の社員が在宅ワークで活躍しています。



コラム：システム開発会社における誰もが働きやすい環境づくり (有限会社奥進システム)

■会社の概要

- 有限会社奥進システムは従業員 10 名の小さな会社で、主に中小企業向けのシステム開発とホームページの制作・保守を行っています。顧客の悩みや課題に寄り添い、各社の業務に密着した、オーダーメイド型のシステム開発を特徴としています。
- 誰にとっても働きやすい社会を目指し、子育てや体力的・精神的な事情で出社が困難な社員に対して、在宅勤務を活用した働き方を積極的に推進しています。そうした取組が評価され、障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度や、テレワークの表彰など、官公庁や自治体から様々な認定・表彰を受けています。

■「在宅勤務」「残業ゼロ」など、働きやすい環境づくり

- 2000 年の設立当時から、身体障害のある社員やひとり親の社員が週 1～2 日、在宅勤務制度を活用していました。新型コロナウイルス感染症が拡大した 2020 年以降は、ほぼ全社員が在宅勤務をしており、出社頻度は週 2 日程度となっています。働きやすい環境づくりとして「残業ゼロ」にも取り組んでいます。

■システム開発、ホームページ制作、営業の概要と求められるスキル

- システム開発の仕事は、末端のプログラマーから上流の設計の仕事まで幅広い業務があります。ただ、いきなり設計を担当することは少なく、まずはプログラマーになるための訓練を行い、そこからキャリアアップしていくことが多いです。プログラムにはバグ（不具合、間違い）がつきものなので、それを 1 つ 1 つ直していく忍耐力も求められます。
- ホームページ制作は、コードを書いてからブラウザで確認すれば、どんなページができたか見ることができます。システム開発はコードを書いてもそれがどのように動くのか、すぐには確認できないため、この点は大きく異なると言えます。
- 営業は顧客と会社（技術）の橋渡し役として、コミュニケーション力が求められます。さらにレベルが上がると顧客に提案を行うことや、自社システムで開発可能か見極める力なども必要になるため、IT の知識・経験を一定有していることが望ましいでしょう。
- ホームページ制作は未経験者でも比較的早く活躍できるようになるのに対し、システムとその営業の場合は、企業の現場で経験を積むことが重要です。ひとり親の方等がシステム開発への就職を目指す場合は、職業訓練でシステム開発の実績を作っておくことも考えられます。
- 入社に際しては、当社の場合、基本的には Excel と PowerPoint が使えれば大丈夫ですが、それ以外に基礎レベルの IT 資格（IT パスポート試験や、ホームページ制作であれば Photoshop、Illustrator 等の資格）があればスキルの証明になることがあります。

(3) 高等職業訓練促進給付金の対象になる資格

- 高等職業訓練促進給付金は、ひとり親の方が就職に向けて必要な資格を取得する場合に、資格の養成訓練受講期間（修業期間）の生活費として給付金を支給する制度です。
- 対象となるのは、資格取得に向けた講座のうち、6か月以上の期間で組まれているもので、かつ自治体が就職につながるとして指定をしているものです。同じ資格であっても、養成校によって講座期間は異なりますし、指定の判断も自治体により異なりますので、養成校及び自治体に確認が必要です。

<高等職業訓練促進給付金の概要>

制度の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修業期間中、月額 10 万円（住民税課税世帯は月額 70,500 円）の生活費が支給される。 ・ 訓練を受けている期間の最後の 1 年間は支給額が 4 万円増額される。 ・ 訓練修了後、5 万円を支給（住民税課税世帯は 25,000 円）
対象資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職を容易にするために必要な資格として自治体が定めるもので、養成機関において 6 か月以上修業するもの。（具体例は下の「参考データ」参照）
制度の対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養成機関での修業を開始した日以後・修業を修了した日において、次の要件を満たすひとり親。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童扶養手当の支給を受けている者と同等の所得水準(※)にある。 ※所得制限水準を超過した場合であっても、1年に限り引き続き対象者とする (2) 対象資格を取得するため、養成機関において 6 か月以上のカリキュラムを修業し、対象資格の取得が見込まれる者等。 (3) 就業又は育児と修業の両立が困難であると認められる者。



参考データ

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（2024）の調査では、自治体が高等職業訓練促進給付金の対象に指定している IT 資格・講座の例として以下のようなものがありました。

- Microsoft Office Specialist (MOS)
- 基本情報技術者試験
- Web 制作やデザイン制作関係の資格・講座（Web クリエイター能力認定試験、Illustrator クリエイター能力認定試験、Photoshop クリエイター能力認定試験 等）
- ベンダー資格(※)（LPI 認定資格、シスコ技術者認定資格 等）
- IoT 関連資格・講座（IoT エンジニアの資格等）
- 第四次産業革命スキル習得講座（AI エンジニア育成の講座等）

※ベンダー資格とは、IT 関連の製品を製造・販売する企業（ベンダー）が、製品を扱うスキルを認証する資格のことです。

- なお、高等職業訓練促進給付金の他にも、資格取得を支援する給付金制度がいくつかあります。高等職業訓練促進給付金の対象とならない資格でも、他の給付金制度の対象となっている場合があります。
- また、**高等職業訓練促進給付金は生涯に一度しか利用ができない制度です**。例えば、試しに基礎レベルの IT 資格を取得し、IT の勉強が自分に向いていればハイレベルな IT 資格も取得したいと考えている場合は、まずは他の給付金制度を活用して基礎レベルの IT 資格を取得し、ハイレベルな IT 資格を取得する際に高等職業訓練促進給付金を活用するという方法もあります。

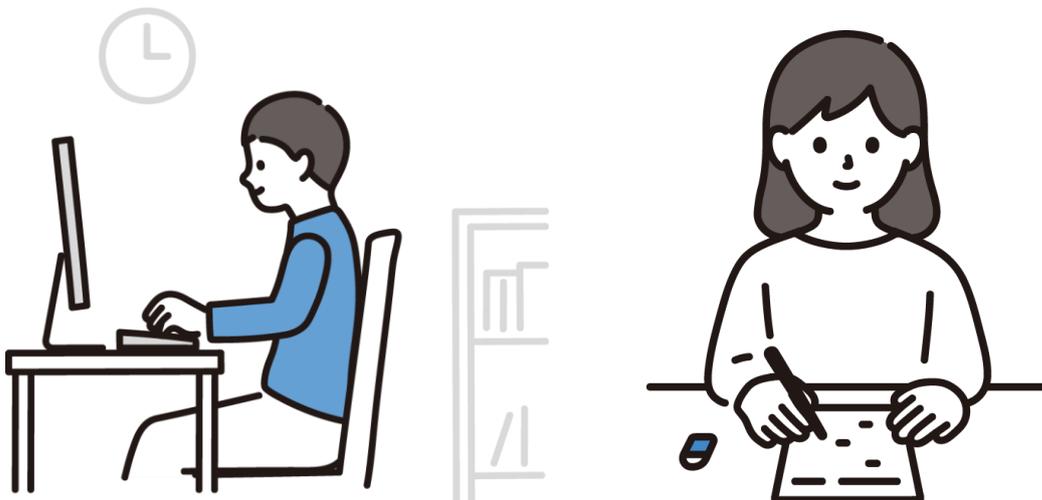
＜資格取得を支援するその他の給付金制度（主な例）＞

	自立支援教育訓練給付金	教育訓練給付金（※）		
		一般教育訓練給付金	特定一般教育訓練給付金	専門実践教育訓練給付金
概要	ひとり親が教育訓練給付金の指定講座等を修了した場合に、その経費の 60%を支給 また、専門実践教育訓練給付の対象となる講座を受講し、修了後 1 年以内に資格取得し、就職等した場合にはその経費の 85%を支給	厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を修了した場合に、その費用の 20%を支給	厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を修了した場合に、その費用の 40%を支給 また、資格取得し、1 年以内に雇用された場合、受講費用の 10%を追加支給	厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を受講する場合に、6 か月ごとに、経費の 50%を支給 また、資格取得し、1 年以内に雇用された場合、受講費用の 20%を追加支給 さらに、賃金が受講開始前より 5%上昇した場合、受講費用の 10%を追加支給
対象資格	一般教育訓練給付、特定一般教育訓練給付、専門実践教育訓練給付の対象講座 など	右記以外で雇用の安定・就職の促進に資する教育訓練	特に労働者の速やかな再就職及び早期のキャリア形成に資する教育訓練	特に労働者の中長期的キャリア形成に資する教育訓練
備考	高等職業訓練促進給付金との併用も可能			

※教育訓練給付金の対象者は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者または被保険者です。自分に受給資格があるかどうか、ハローワークに確認が必要です。

(4) 学習体制を確保する

- 修業期間中は子育てや仕事もある中で学習を行いますので、修業開始前と比べて、時間的・体力的・精神的にハードな生活となることが予想されます。思い切って養成講座に申込みをしたけれど、仕事や育児に日々疲れている中、勉強時間が確保できずに挫折してしまうとなれば、せっかくかけたお金や時間が無駄になり、後悔してしまうかもしれません。
- 資格取得に向けた修業を決める前に、まずは学習する内容や難易度、資格取得までに必要な学習時間を把握し、その学習時間を確保する場合の 1 日のスケジュールを書き出してみることをおすすめします。そして、そのスケジュールでの生活を成り立たせるために、どのような体制を整える必要があるか、考えてみましょう。
- 例えば、小さなお子さんを育てている場合、養成校の授業を受けている間や、土日等に自習をする間、保育所等の預かりサービスを利用するか、親族からの育児サポートを受けられることが前提になると思います。また、仕事を持っている方の場合は、学習時間を確保するため仕事のシフトを調整してもらうなど、職場の理解を得る必要が生じるかもしれません。
- 学習を行うために必要な環境を整備し、万全な体制で学習を始めることができれば、目標とする資格を取得できる可能性が高まります。また、もしも今すぐには環境を整えることが難しい場合は、例えば 1 年後に修業を開始できるように 1 年かけて準備を行うなど、別の可能性を検討してみてください。



7. IT を使って活躍するひとり親の事例

- 最後に、IT を活用した仕事で活躍しているひとり親 6 名の事例を御紹介します。
- うち 5 名 (A~E さん) は、最近、高等職業訓練促進給付金を利用して IT 資格を取得し、現在はその資格を生かしてお仕事をされている方です。
- もう 1 名 (F さん) は、10 年ほど前に業務未経験から Web デザインの勉強をして IT 業界に入り、現在は UX デザイナーとして活躍されている方です。高等職業訓練促進給付金の利用はないケースですが、IT 業界で長期的にキャリアを築かれている事例として参考になると思います。

<ヒアリングに御協力いただいたひとり親のリスト>

本資料内での仮名	年代	こどもの人数等	高等職業訓練促進給付金を活用して取得した資格	左の資格の取得時期	現在の仕事	雇用形態
A さん	40 代	高校生 2 人	Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート	令和 4 年度	コールセンター	非正社員
B さん	30 代	未就学児 2 人	Web クリエイター能力認定試験 エキスパート	令和 6 年度	UI/UX デザイナー	正社員
C さん	20 代	小学生 1 人	VBA エキスパート (Excel VBA Standard)	令和 6 年度	製造業の業務改善	正社員
D さん	30 代	未就学児 1 人	Web クリエイター能力認定試験スタンダード	令和 4 年度	IT 企業の人材開発部	正社員
E さん	50 代	高校生を含む複数	Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート	令和 5 年度	教育関係の事務職	期間業務社員
F さん	30 代	大学生と高校生	※高等職業訓練促進給付金の利用なし	—	UX デザイナー	正社員

コールセンターでシステム開発補助に携わる A さん

プロフィール

コールセンターに勤務。現在 40 代で、高校 3 年生と高校 1 年生のこどもがいる。ひとり親になった後、子育てと両立しやすい仕事を探し、現在の勤務先に就職。高等職業訓練促進給付金を利用して Microsoft Office Specialist 2019 エキスパートを取得。

これまでのキャリア

コールセンターに入社し、オペレーター業務（電話対応）に従事。

現在の勤務先で役職を上げるには枠が少なく、難しいと思っていたため、転職のために資格取得を検討。

Word や Excel の基本操作を習得するため、高等職業訓練促進給付金を利用して講座を受講し、Microsoft Office Specialist 2019 エキスパートの資格を取得。

勤務先の上司（マネージャー）との定期面談において資格取得を伝えたところ、その努力を評価され、上の役職を打診される。

役職が上がり、コールセンターの新人指導・研修の担当や、オペレーターが対応する画面を改良するシステム開発補助に従事。

こどもが病気のときなどに代替できる、融通が利きやすい仕事としてコールセンターを選びました。

マネージャーに資格取得のために勉強していることを話したことがきっかけとなり、新しい仕事も任せてもらえるようになりました。

現在の仕事について

<仕事内容>

コールセンターのオペレーター社員として、新人指導・研修、オペレーターが対応する際の画面の改良などの業務に従事。電話回線が混み合っている際は、オペレーター業務（電話対応）に一部当たることもある。

<働き方など>

非正社員。現在、週 5 日勤務で残業は 1 か月に 1 回程度。入社当時は週 4 日勤務で残業もなかったが、役職が上がったタイミングで会社から週 5 日勤務を打診された。

役職が上がったことで時給がアップし、手当も出るようになりました。ゆくゆくは正社員を目指したいです。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名/取得時期

Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート/令和4年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

現在の勤務先で役職を上げることは難しいと考え、転職のために働きながら資格を取得することにした。元々ITやパソコンに触れた経験はあったが、Word、Excelによる資料作成等は難しかったため、パソコンの基本操作を習得しようと考えた。

修業中の状況

資格の勉強をしていた頃は週4日勤務であったため、週に2日、仕事がない日にパソコン講座に通った。仕事をしながらではあったが、講座の先生は教え方が上手で、大人になってから学ぶのはこんなにも楽しいのかと感じた。当時中学生と高校生だったこども達も家事を手伝ってくれ、特に両立が大変だと思うこともなかった。

資格を取得して良かったこと

講座を受けて資格取得に挑戦し、成し遂げたという気持ちが自分の自信につながったということが大きく、資格を取得して良かったと感じている。また、資格取得がきっかけとなって勤務先で新しい仕事も任せてもらえるようになったり、自分のできることが増えていったりすることも嬉しかった。何年も同じ仕事をするより、自身が成長できる方が仕事もやりがいがある。資格取得のために学んだ知識は業務で直接活用できているわけではないが、パソコンの操作方法・考え方などは参考になっている。

今後の意向・取り組みたいことなど

まだまだ力量不足ではあるが、システム開発の補助から、今後は開発の担当として業務を担いたい。また、現在の雇用形態は非正社員のため、正社員を目指したい。

ITを活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

こどものためにお金をかけるだけでなく、親自身が自分を磨いていくことも大事だと思います。こども2人も資格取得を応援してくれましたが、親が頑張る姿を見せることは、こどもに対しても良い影響があると思います。

UI/UX デザイナーとして画面構築に携わる B さん

プロフィール

IT 企業に勤める UI/UX デザイナー。現在 30 代で、保育所に通うこどもが 2 人いる。ひとり親になった後、高等職業訓練促進給付金を利用して Web クリエイター能力認定試験エキスパートを取得。未経験から IT 業界へ転職した。

これまでのキャリア

大学でプロダクトデザインを専攻。卒業後はデザインから離れ、飲食業の企業に就職。パソコンの基本操作はできたが、職場ではパソコンを使用したことがなかった。

出産後に短時間勤務をしていた中、ひとり親になる。前職ではこどもが発熱した際に代替りのスタッフを見つける必要があり、急な休暇取得が難しかった。育児のため夜間に働くことができず、給与面も厳しいため、転職しようとする。

在宅勤務可能かつ大学で学んだデザインの知識を生かせる仕事を探していたところ、Web デザイナーについて知る。

高等職業訓練促進給付金等を利用して講座を受講し、Web クリエイター能力認定試験エキスパートを取得。

中長期的なキャリアも考えた上で、UI/UX デザイナーとして転職。現在 1 年目。

保育所が休みである祝日も有給休暇を取得する必要があり、仕事と育児の両立が難しい状況でした。

これからも現在の会社でキャリアを築いていきたいと思っています。まずはチームの一員として、自分の意見を出せるようになりたいです。

現在の仕事について

<仕事内容>

システム開発の画面の UI をデザインしている。構造担当、デザイン担当等で構成されるプロジェクトチームの一員として働いている。

<働き方など>

正社員。在宅勤務やフレックスタイム制を利用し、週 5 日フルタイムで勤務している。入社日数は決まっておらず、柔軟な働き方が可能。早朝からの勤務や、中抜けを利用して、こどもの通院の付添いや見守りを行うことができる。

柔軟な働き方が可能な会社に転職できたことで、仕事と育児の両立がかなえられています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名/取得時期

Web クリエイター能力認定試験 エキスパート/令和6年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

在宅勤務が可能で、デザインに携わることができる転職先を調べていた中で、Web デザイナーという職種を知った。また、パソコンスクールのカウンセリングや自治体職員との面談で、様々な給付金について情報提供を受けたことで、給付金を活用して資格を取得することにした。

修業中の状況

講座は本来1年間のカリキュラムであったが、早く転職をしたいという思いから速めのペースで履修を進め、9か月で受講を完了。その後1か月の自主勉強を経て、資格を取得した。修業期間中は週5日の仕事を週4日に変更し、1日を勉強に充てていた。

資格を取得して良かったこと

資格の取得を通じて、Web サイトの構築に使われる言語 (HTML、CSS、JavaScript) など、仕事において前提とされる知識を学ぶことができた。転職後は、講座で学んだ知識をベースとしながら、実務で求められる技術を勉強している。

IT を活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

将来なりたい姿や中長期的なキャリアについて考えた上で、それがかなう仕事を選択することが重要だと思います。その際、職種名だけで判断しないこともポイントです。例えばWeb デザイナーの中には、静的画面 (いつも同じ内容が表示される画面) を作る人と、動的画面 (閲覧する人や時間などによって表示される内容が変わる画面) を作る人がいます。どのような仕事があるのか、その仕事のキャリアステップはどんなものかを調べ、自分のゴール像に合った仕事を選んでみてください。

製造業で IT による業務効率化に奮闘する C さん

プロフィール

自動車製造工場に勤める事務職として、生産管理の業務に従事している。高校卒業後、現在の会社に入社し、出産後も就業を継続。現在 20 代で、小学生のこどもがいる。高等職業訓練促進給付金を利用して、VBA エキスパート (Excel VBA Standard) の資格を取得。

これまでのキャリア

高校卒業後、現在の勤務先に就職。入社後は事務職として生産管理の業務に従事。20 歳で出産し、育児休業を約 1 年半取得して復職。

ひとり親になった後、社内の生産管理システムの開発プロジェクトに主担当として参画。同プロジェクトに参画していた社外のシステムエンジニアの方からパソコンの基礎を学び、IT を活用した業務改善に関心を持つ。

IT スキル向上のため、社内で受講できる 1 日研修などに参加するものの、実践的なスキル習得には至らないと物足りなさを感じる。

市から案内のあった高等職業訓練促進給付金を利用して講座を受講し、VBA エキスパート (Excel VBA Standard) の資格を取得。

マクロを使って職場の業務改善に取り組む。周囲の社員が抱える困りごとや改善要望に応じてマクロを作成し、よりよい業務の流れを検討。

当時は配偶者の両親と同居しており、子育てのサポートがありました。

当時は注文書をパソコンに手入力していましたが、ミスの原因になるためやめたいと思っていました。

「マクロ」とは、業務における一連の動作を自動化するプログラムです。

現在の仕事について

<仕事内容>

自動車のプラスチック部品の製造工場で、生産管理の業務に携わっている。毎月顧客から届く大量の注文書について、データ入力・チェックを行い、生産現場の稼働計画を作成するなどの事務作業が中心。

<働き方など>

正社員。月曜～金曜の週 5 日、8 時～17 時のフルタイム勤務。テレワークは全社的に未導入。

自身の母、祖父母と同居しており、こどもの世話などは日常的なサポートを受けています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名/取得時期

VBA エキスパート (Excel VBA Standard) / 令和 6 年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

IT を活用して業務改善に取り組むため、必要なスキルを身につけたいと考えていたところ、市役所から高等職業訓練促進給付金のチラシが自宅に届き、給付金を活用して資格を取得することにした。

修業中の状況

自宅から 40 分程度のスクールに通学することも検討したが、往復の移動時間(受講時間と合わせて 1 回 3 時間程度)を考えると負担が大きかったため、オンライン受講とした。週 3 回、19~20 時に勉強するという生活をほぼ 7 か月間続け、資格を取得。当初はオンラインで学習を継続できるか不安だったが、毎回講師が変わり教え方が上手な先生がいたり、特定の知識に詳しい先生がいたり、楽しんで受講することができた。

資格を取得して良かったこと

マクロを活用して職場の業務効率化・簡素化に役立てることができている。かつては手書きの業務プロセスをデジタル化することに抵抗のある社員もいたが、社内も顧客もデジタル化に対応せざるを得ない環境になってきた。資格を取得し、IT 関連の業務に力を入れてきたため、周囲から頼ってもらえる場面が増えたと感じる。

今後の意向・取り組みたいことなど

今後は Illustrator や Photoshop など学び、展示会に出展する際のブースデザインやチラシ作成なども手掛けてみたい。これまで誰もやらなかった新しいことに挑戦する人、一番手を担える人材でいたいと思っている。

IT を活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

資格を取得したことで、自分の努力が周囲の方に認められ、自信につながりました。最初は無理かもしれないと思っても、1 つのことが達成できると、他のことにも挑戦してみようという気持ちが湧いてきます。「資格を取得する」と決めて勇気を出せば、何らか次につながる良い変化が起きると思います。

IT 企業のエンジニア→人事関係部署で活躍する D さん

プロフィール

IT 企業の人事関係部署で、社員の管理・サポートを行う。現在 30 代で、保育所に通うこどもがいる。医療系の仕事に従事していたが、子育ての両立等を考えて、高等職業訓練促進給付金を利用して Web クリエイター能力認定試験スタンダードを取得。IT 業界へ転職した。

これまでのキャリア

コロナ禍に医療系の業務に従事していたが、体力面で時短勤務でないと子育てが難しいこと、こどもへの感染リスク等を考慮して、転職を決意。

高等職業訓練促進給付金等を利用して講座を受講し、Web クリエイター能力認定試験スタンダードを取得。

システムソリューションの事業を行う IT 企業に転職。入社後 1 年間は、エンジニアとして顧客企業で常駐勤務を行う。

エンジニア業務は勤務時間が長く、子育ての両立が難しかったため、上司に相談。企業内で勤務できる人事関係部署に異動。

現在は、人事関係部署で、エンジニアの経験を生かしながら、顧客企業に常駐勤務している社員の管理やメンタルケア等を担当している。

転職先の選定では、様々な経験が積めること、ホームページが魅力的なこと、育成のカリキュラムがあること等も考慮しました。

エンジニア時代はこどもとの時間が取れなかったため、会社に相談してテレワークもできる部署に異動しました。

現在の仕事について

<仕事内容>

常駐勤務を行う社員は会社の目が届かないところで仕事をしているので、社員の勤務状況等をオンライン又は対面で確認し、社員が働きやすい環境整備やサポートに取り組む。社員との対話や新入社員のサポートでは、エンジニアとしての勤務経験や IT 知識が生かされている。

<働き方など>

正社員。週 5 日勤務で、出社とリモートは半々。年収は約 330 万円。テレワークで朝が少しゆっくりできるようになり、こどもの表情が明るくなり、よく話すようになった。

用語解説:

「常駐勤務」とは、顧客企業のオフィスに出勤して働くことです。

こどものお迎えと夕食は、近隣に住む親族に協力してもらいながら両立しています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名／取得時期

Web クリエイター能力認定試験スタンダード／令和4年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

資格取得を目指すタイミングでは、Web デザイナー志望だったので、この資格が有利だろうと思いで取得した。

修業中の状況

ものづくりが好きのため、修業時の講義は楽しんで取り組めた。給付金を受ける前に独学で勉強していた時は苦戦していたが、体系化されたカリキュラムで学習できたことが良かった。なお、受講中は実家に住み、育児のサポートを受けていた。そうでなければ学習に遅れを取っていたように思う。実家のサポートもあったので、6か月のコースを4か月で修了し、5か月目からはポートフォリオ作成、6か月目は就職活動、というスケジュールを立てて実行した。

資格を取得して良かったこと

エンジニアとしての初めての常駐先が、資格取得で学んだコードを使っていたため、スムーズに対応できた。その他の常駐先でも応用したコードの使用が多く、IT 関係の業務の登竜門として資格を取得して良かったと感じた。また、ホームページ作成と機器の画面作成は全く別物のように見えていたが、同じ「画面作成」であり、Web 系の資格は応用が利いた。想像よりも選択肢は広いように感じている。

通常の未経験者採用は、半年間のカリキュラムを修了した人からエンジニアとして客先に常駐するシステムになっている。この半年は給与が低く抑えられるが、資格があることで、経験者採用となり、転職後すぐに常駐で正社員として勤務できた。

IT を活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

資格取得をするか悩んでいる人もいますが、悩むよりもまずやってみた方が後悔はないです。

また、知識をアウトプットした経験(制作経験)は、就職や実際の勤務でも役に立ちます。修学期間中には自主的にポートフォリオ作成に取り組むことをおすすめします！

50代で資格取得し、教育関係の事務職として活躍する E さん

プロフィール

学校のサテライト施設で事務職として勤めつつ、高校生を含む複数名の子どもを育てる。50代でひとり親になった後、これまでのキャリアを生かした転職を目指し、高等職業訓練促進給付金を利用して Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート (Excel) を取得。

これまでのキャリア

就職氷河期で就職先を選ぶことが難しい環境にあった中、最初に入社して配属になったのが経理だった。自分にあっていたのでそのまま経理・総務関係に従事していた。

シングルマザーになり、生活を支える立場となる。これまでのキャリアを生かして、経理や総務などの事務職での年収アップを目指して転職を志す。

資格取得後の転職活動では就職時期の見通しが立たないため、高等職業訓練促進給付金の受給期間で就職できるように計画を立てる。事務職を念頭に、Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート (Excel) を学びつつ、並行して転職活動にも取り組む。

修業中に転職先が決定。転職後も勉強を続けて、資格取得に至る。

学校のサテライト施設で事務職として働く。資格取得で得られたスキルで効率的に業務を行えている。

ITの知識が全くないわけでもないのに、両立してでもやってやるという気持ちでした。

IT資格＝プログラミングのイメージでしたが、Excelの資格があるとわかり、チャレンジしました。

歳を重ねたらICT支援員になることも考え中です。

現在の仕事について

<仕事内容>

学校のサテライト施設で、事務、経理等を担当。支払や予算の管理、施設管理、学生対応など多岐の業務に携わる。経理のシステムが企業のように確立されていないため、Excelで予算管理を実施している。

<働き方など>

期間業務社員。週5日、フルタイム勤務。残業は平均的には10時間以内。

最近はExcelのグラフを活用した資料作成などにも取り組むことが増えています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名／取得時期

Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート (Excel) ／令和5年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

経理や総務などの事務への転職先を見越して資格を取得した。50代で生活を支える必要がある状況で、未経験業務への挑戦はリスクがあるように感じ、これまでの職歴の延長線上にある業務を想定して資格を選んだ。なお、自治体の担当者から、IT資格について教えてもらったときは気が進まなかったが、Excelのコースについて情報提供を受け、自身でも情報収集する中で、これまで勉強する機会はなかったので給付金を利用してチャレンジしてみようと思うことができた。

修業中に大変だったこと

講座について、模試や一部のカリキュラムを自分のペースで繰り返し学習したいと思うことがあった。スクールを選ぶ際は、通いやすい環境や自分の希望する学習方法とマッチするか(自主学习か動画学習か、予約方法や補習の状況など)等の観点で、いくつか見て選ぶことが重要だと思う。

資格を取得して良かったこと

資格を取得したことで、自分にそんな力があつたのかと自信につながった。スクールには同じように勉強している色々な年代の人がいて、モチベーションもアップした。資格の勉強を通じて、それまでの業務で使用したことがなかったExcelの詳細な機能を知ることができ、自身の業務効率が上がったように感じる。また、資料作りが楽しく、今まで避けていた作業も難しくないと感じるようになった。

ITを活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

20~30代は「これから勉強すればいい」と言われても、50代では「何もできないのか」と言われることがあります。資格取得はスキルの証明になり、意味があることだと思います！

高等職業訓練促進給付金は自立した生活に向けて、就業で必要なスキルを身につけることができるので、難しいそうと敬遠せず、チャレンジしてほしいです。

UX デザイナーとして DX 支援で活躍する F さん

プロフィール

DX 支援の会社に勤める UX デザイナー。現在 30 代で、大学生と高校生のこどもがいる。20 代でひとり親になった後、未経験から IT 業界へ。また、高等学校卒業程度認定試験に合格。高等職業訓練促進給付金の利用経験なし。

これまでのキャリア

10 数年前にひとり親になってすぐ、自費で Web デザインの学校に半年通い、Web の総合的なスキルを身につけた。

Web マーケティングの会社で、アルバイトとして SEO（検索エンジン最適化）などを担当。その後、同じ会社内の Web 制作の部署に異動し、ホームページ等のグラフィックのデザインを 4 年ほど担当。

フリーランスで Web デザインの仕事を 1~2 年続けた。また、フードコーディネーターの仕事を兼業。

Web デザイナーから UX デザイナーに方向転換し、Web マーケティングの会社に就職。インターネットバンキングの機能や使い勝手のデザインを担当。

DX 支援の会社に転職し、現在 2 年目。

当時は実家住まいで、両親から学費や子育てのサポートがありました。

自分にとって、よりやりがいや面白みを感じる仕事を考え、キャリアチェンジしました。

現在の仕事について

<仕事内容>

UX デザイナーとして、顧客（企業）が新規事業を考える際のユーザーリサーチ、ニーズの抽出、企画立案等の支援をしている。例えば、顧客がアプリケーションを開発又はリニューアルする場合、まずアプリケーションを使うのはどんなユーザーなのか、どのように使うのかを調査・分析する。その結果を基に、ユーザーが使いやすいサービス設計や全体のデザインを提案。

<働き方など>

正社員。週に数回入社（フルリモートも可）。残業もあるが働き方に無理はない。副業で大学の非常勤講師もしている。

企画やニーズ調査からデザイン設計まで、自分でアイデアを考えて実行できるのが、この仕事の魅力です。

年収について、UX 領域では、未経験でも 400 万円、シニアレベル以上では 1000 万円という人も多いです。

こぼれ話

UXの道に進む場合、具体的にどのような仕事をしていくことになるのでしょうか。

Fさんの場合は、今の職場に採用されるまでに、以下のような業務実績を積んでいました。このような実績があるので即戦力として採用され、年収800万円からのスタートとなりました。

- Webデザインの基本業務（グラフィック、コーディング等）
- ユーザー調査（定性リサーチ）、マーケティング
- プロジェクトの計画立案、クライアントと交渉しながらのリサーチ実施
- インフォメーションアーキテクト（IA）、ユーザーインターフェース（UI）の設計

用語解説：

「ユーザー調査」では、ユーザーのニーズや意見を把握し、商品開発等に生かします。アンケート等による方法「定量リサーチ」、インタビュー等による方法を「定性リサーチ」と言います。

用語解説：

「IA」は、ユーザーに分かりやすい・探しやすいように情報を整理することです。

用語解説：

「UI」は、ユーザーがWebサービスやアプリケーションを使う際に操作する画面やボタン等のことです。

ITを活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

元々はITやデザインのバックグラウンドがなく、最初にWebデザインの道を選んだのにも、強い理由があったわけではありません。でも、今振り返ると、ITを活用した仕事はこの先も需要が高いですし、この道を選択して正解だったと思います。

参考

■ソフトウェアの商品名称について

Access、Excel、Outlook、PowerPoint、Windows Server	米国 Microsoft Corporation（マイクロソフト社）の米国およびその他の国における登録商標又は商標です。
Illustrator、Photoshop	Adobe Incorporated（アドビ社）の商標です。
Linux	Linus Torvalds 氏の登録商標又は商標です。
Microsoft Office	米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
MySQL、Oracle Database	Oracle Corporation、その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
Word	この資料では、Microsoft Word（米国 Microsoft Corporation の商品名称）を指します。

- ⁱ 桔川純子・田間泰子（2023）「起業はシングルマザーをエンパワーする！」神原文子・田間泰子編著『ひとり親のエンパワメントを支援する ◎日韓の現状と課題』白澤社
- ⁱⁱ 中園桐代（2021）「シングルマザーの貧困はなぜ解消されないのか：「働いても貧困」の現実と支援の課題」勁草書房
- ⁱⁱⁱ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（2024）「ひとり親家庭等への支援に関する調査研究」令和 5 年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業，https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2024/04/koukai_240426_02_08.pdf（2025 年 3 月 31 日閲覧）
- ^{iv} IPA「DX 動向 2024」，<https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/eid2eo0000002cs5-att/dx-trend-2024.pdf>（2025 年 3 月 10 日閲覧）
- ^v 帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査（2024 年 7 月）」『TDB Economic Online』，<https://www.tdb.co.jp/>（2025 年 3 月 24 日閲覧）
- ^{vi} 文部科学省「令和 5 年度 ICT 支援員（情報通信技術支援員）の配置状況」
- ^{vii} マイナビ中途採用・転職活動定点調査(2023 年 6 月)，https://career-research.mynavi.jp/research/20230731_55685/（2025 年 3 月 10 日閲覧）
- ^{viii} 東郷こずえ（2024）「日本におけるリモートワークの現状、メリットとデメリットについて」マイナビキャリアリサーチ Lab，https://career-research.mynavi.jp/column/20240802_83756/（2025 年 3 月 10 日閲覧）
- ^{ix} 一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会「フリーランス白書 2024」，<https://blog.freelance-jp.org/wp-content/uploads/2024/03/whitepaperFreelanceSurvey2024.pdf>（2025 年 3 月 3 日閲覧）
- ^x 独立行政法人情報処理推進機構（2012）IT 人材育成本部 IT スキル標準センター『IT スキル標準はやわかり』
- ^{xi} 教育訓練給付制度 厚生労働大臣指定教育訓練講座，<https://www.kyufu.mhlw.go.jp/kensaku/>（2024 年 9 月 10 日閲覧）

令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業

高等職業訓練促進給付金等事業の効果的な活用の在り方に関する調査研究

ITを活用した仕事やIT資格に 関心のあるひとり親の方へ

令和7(2025)年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

目次

1. これだけは知っておきたい3つのポイント	3
2. 資格を決める前に、目標を立てる	4
3. ITを活用する仕事の中身を知る	5
(1) そもそも「IT企業」「IT業界」とは	5
(2) IT以外の業界にもある、ITを活用する仕事	6
(3) 人材の需要動向	7
(4) 仕事の具体例	8
4. 未経験者の採用可能性と仕事への適性	15
(1) 未経験者でも採用されるのか	15
(2) 採用で資格よりも重視されること	16
(3) 地域や年齢によっては就職チャンスが少ない	17
(4) 仕事への適性も重要	18
5. 気になるワード「テレワーク」と「フリーランス」	20
(1) テレワークのよくある誤解	20
(2) フリーランスの実際	21
6. 取得するIT資格を考える	22
(1) IT資格を取得する意義	22
(2) 就職活動に役立つIT資格の例	23
(3) 高等職業訓練促進給付金の対象になる資格	32
(4) 学習体制を確保する	34
7. ITを使って活躍するひとり親の事例	35
参考	48

<注意>

※この資料は、これから初めてITを活用した仕事にチャレンジするひとり親の方を主な対象としています。なお、この資料は、令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業「高等職業訓練促進給付金等事業の効果的な活用の在り方に関する調査研究」（以下「本調査」という）の成果物として作成しました。

※「IT」とは、インフォメーション・テクノロジー（情報技術）の略で、パソコン、スマートフォン、メール、インターネットなどの技術の総称です。この資料において、「ITを活用した仕事」とは、ITエンジニアのような高度なIT技術を必要とする仕事だけでなく、基礎レベルのIT技術を要する仕事（パソコンの表計算ソフトを使った事務やSNSを活用したマーケティングなど）も含まれます。

※この資料における「ヒアリング調査」とは、本調査の中で実施した、関係者（ひとり親を雇用するIT企業、当事者、有識者等）へのヒアリング調査を指します。

※この資料では就職に役立つIT資格の一部を紹介していますが、講座の受講期間等によっては、高等職業訓練促進給付金の対象にならない場合があります。給付金の対象になるかどうかは、各自治体が個別に判断することになります。

この資料の見方

太字の文章

地の文章のうち、特に重要なポイントは太字及び下線で示しています。



参考データ

既存研究等を基に、参考となる情報（既存の統計データ、文献からの抜粋等）を紹介するコーナーです。



コラム

この資料の作成に当たって企業に実施したヒアリング調査の結果から、ひとり親の方の参考となる内容をコラムとして紹介するコーナーです。

ヒアリング調査の結果から

この資料の作成に当たって実施したヒアリング調査で、企業や当事者等から挙げられた声を紹介しています。

用語解説:

ITの専門用語等を分かりやすく解説しています。

ちょこっとポイント:

詳しく知りたい方向けの内容を記載しています。

1. これだけは知っておきたい 3 つのポイント

1 資格を取ることからではなく、まずは目標や就職先を検討する

p. 4~14, 17

ITを活用する仕事では、どの職種であっても、特定の資格を取らなければITを活用した仕事ができないわけではなく、また逆に、特定の資格を取れば必ず関連の仕事に就職できるわけでもありません。

そもそも一口に「ITを活用する仕事」と言っても、その内容や雇用条件等は様々です。そして、仕事によって採用時に求められるスキル内容やレベルは異なり、就職に有利なIT資格も異なってきます。

そのため、資格を先に決めるのではなく、まずはゴール設定をして、ゴール達成に必要な準備について検討し、その中でどのIT資格を取得するかを考える必要があります。

お住まいの地域や年齢など、状況によっては就職先が見つかりにくい場合があります。あらかじめ、お住まいの地域にITを活用した仕事の求人があるか、採用条件(職歴、年齢など)を満たせそうか、といったことを確認しておくのがおすすめです。

2 未経験者の採用可能性について

p. 15~16

基礎的なITスキルで対応できる仕事であれば、関連業務の実績がなくても、コミュニケーションスキルなど他に求められる条件を満たせば、採用される可能性は十分にあります。

雇用側はIT資格の有無で採用を決めるわけではありません。業務遂行力、コミュニケーション力、論理的思考力などのスキルが最も重要であり、その上でIT資格を持っていればプラスの評価となります。

3 資格取得に向けた修業環境を整える

p. 34

修業期間中は子育てや仕事もある中で学習を行いますので、修業開始前と比べて、時間的・体力的・精神的にハードな生活となることが予想されます。

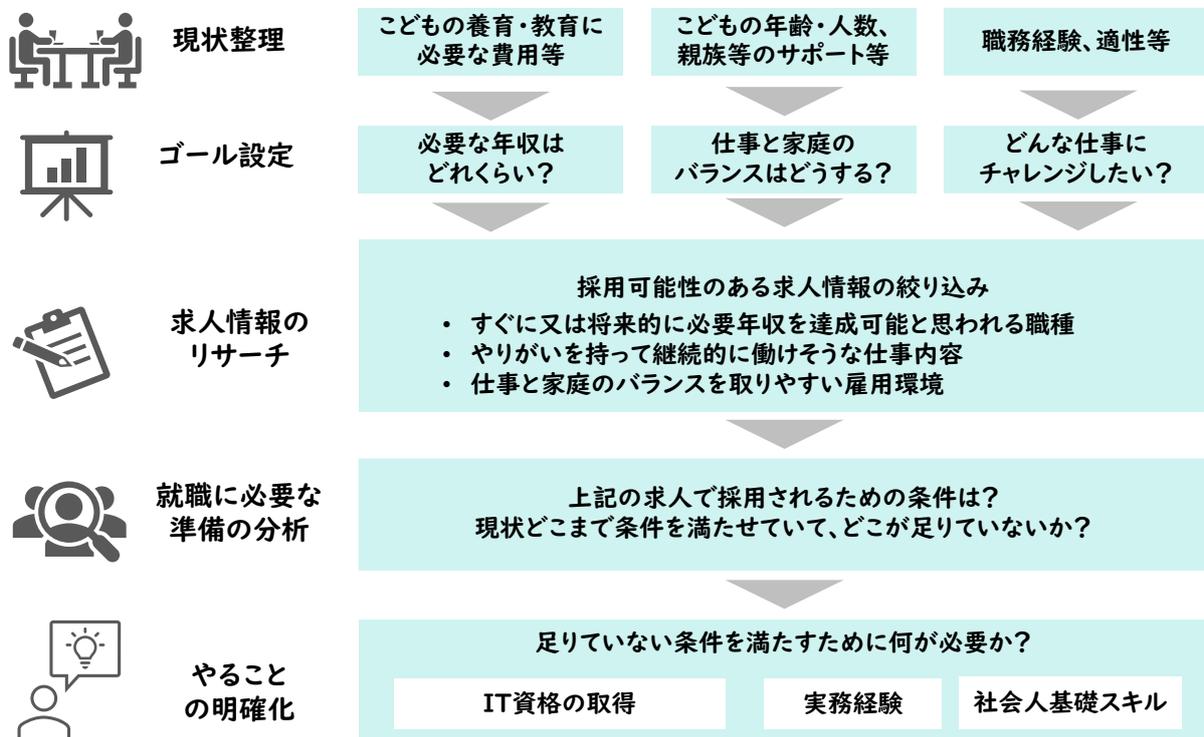
資格取得に向けた修業を決める前に、まずは学習する内容や難易度、資格取得までに必要な学習時間を把握し、その学習時間を確保する場合の1日のスケジュールを書き出してみることをおすすめします。そして、そのスケジュールでの生活を成り立たせるために、どのような体制を整える必要があるか、考えてみましょう。

2. 資格を決める前に、目標を立てる

- この資料を手にとられた方は、今現在、IT 資格の取得を検討されているのだと思います。IT 資格に関心がある理由は人それぞれと思いますが、「IT を活用する仕事をしたいくて、そのためには資格が必要だと思うから」という方も多いのではないのでしょうか。
- しかし実は、IT 資格を取得するだけで、IT を活用する仕事に就職できるわけではないのです。そもそも一口に「IT を活用する仕事」と言っても、その内容や雇用条件等は本当に様々です。そして、仕事によって採用時に求められるスキル内容やレベルは異なり、そうすると、就職に有利な IT 資格も異なってきます。

つまり、資格を先に決めるのではなく、まずはゴール設定をして、ゴール達成に必要な準備を分析し、その中でどの IT 資格を取得するかを考える必要があります（下図のイメージです）。皆さんは是非、このことを始めに意識してみてください。

<ゴールから逆算して支援メニューを検討するためのステップ(イメージ)>



- そうは言っても、現状整理やゴール設定、必要な準備の分析など、自分ひとりでは難しく感じる方も多いと思います。その場合は、自治体のひとり親相談窓口やハローワーク、民間のひとり親支援団体などに一度相談してみると、まだ自分で整理しきれていない目標や思い、強み、これから何をすればよいか、見えてくると思います。

3. IT を活用する仕事の中身を知る

- あなたが「IT を活用してどんな仕事にチャレンジしたいのか」を考える際、まずは「IT 企業」や「IT 業界」といった言葉の意味や、仕事内容の例を知りたくなると思います。この章では、IT を活用する仕事について、用語や具体例などの基礎知識をまとめています。

(1) そもそも「IT 企業」「IT 業界」とは

- IT企業は、情報技術を活用した商品（サービス）を生産・提供している企業のことです。また、IT業界は、そうした企業の集まりのことです。扱う商品は企業によっていろいろですし、その商品を作るのに必要な仕事の種類も様々あります。
- IT 業界の仕事は多岐に亘りますが、一般的には下図の5つに分類されます。

<IT 業界の5分類>



(2) IT 以外の業界にもある、IT を活用する仕事

- IT を活用する仕事があるのは、IT 業界だけではありません。近年は製造業や建築業などあらゆる業界で「DX（デジタルトランスフォーメーション）」が進められており、IT の活用が求められる業務が多くあります。
- 例えば一般事務の仕事でも、これまで紙で管理していた記録をデータ化するなど、IT を活用した業務見直しが進んでいます。このため、パソコンの文書作成ソフトや表計算ソフト（例：Word、Excel）をはじめとする IT の知識・技術を身に付けておくと、採用で有利になったり、仕事の幅が広がったりすることがあります。
- また、学校のデジタル学習を支援する ICT 支援員などは、業界としては IT ではありませんが、IT の知識・技術が必要とされる仕事です。

用語解説：

「DX」とは、デジタル技術を活用してビジネスを変革することです。AI 等の技術で新しいサービスを提供することや、データを活用して社内の業務を効率化することなど、幅広い意味で使われます。

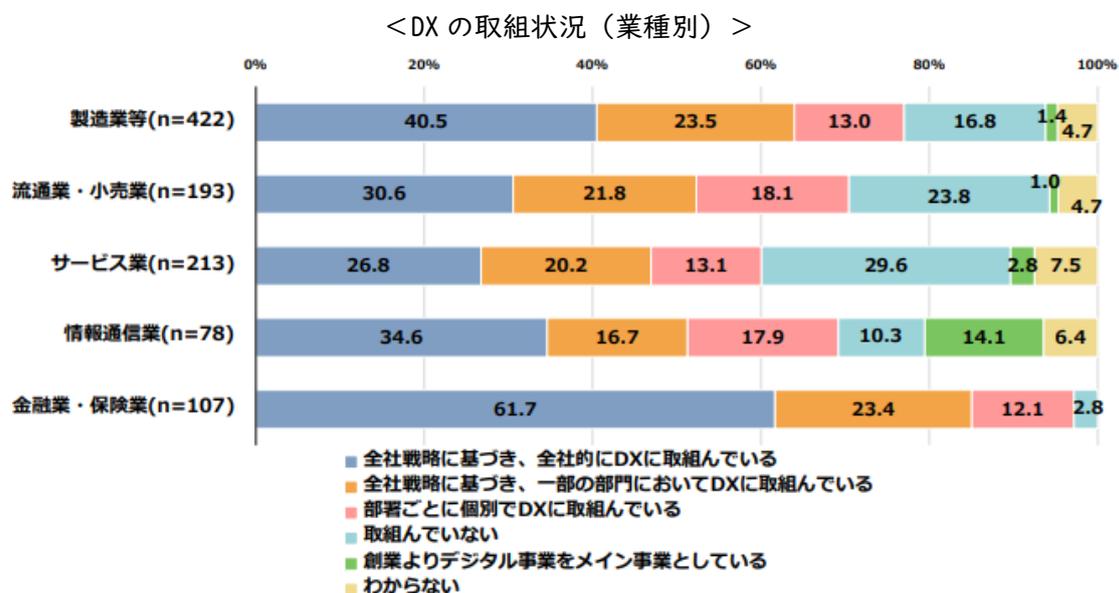


参考データ

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「DX 動向 2024」（p.2、図表 1-1）によると、DX に取り組んでいる企業の割合（※）は 2023 年度で 73.7%（n=1,013）となっています。

※「全社戦略に基づき、全社的に DX に取り組んでいる」「全社戦略に基づき、一部の部門で DX に取り組んでいる」「部署ごとに個別で DX に取り組んでいる」の合計

また、DX の取組状況は業種によって差はあるものの、情報通信業（IT）に限らず、どの業種でも 6~10 割程度の企業が DX を進めていることが分かります（下図）。



（出所）IPA「DX 動向 2024」p.3、図表 1-3

(3) 人材の需要動向

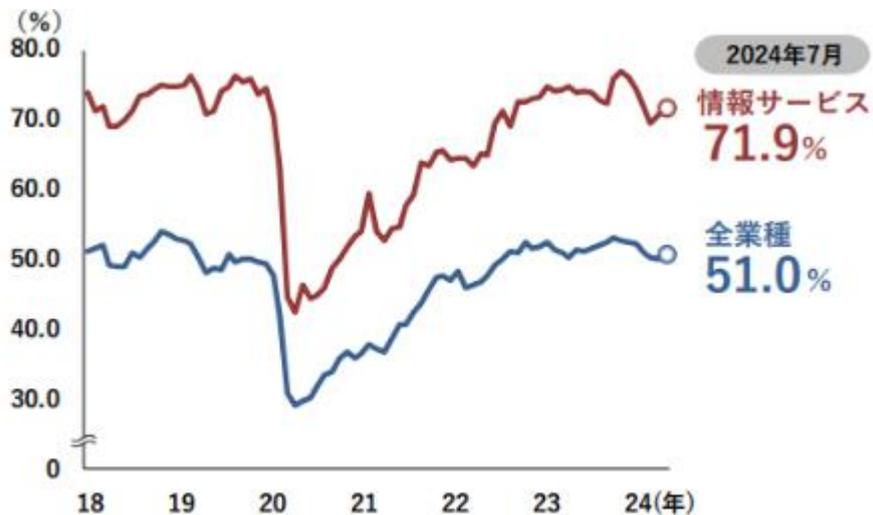
- ITを活用する仕事は、今後も高い需要が続く見込みです。初めてITを活用する仕事に就職する方でも、特に若いうちから実績やスキルをしっかりと積んでいくことができれば、長く活躍できる可能性が高いと思われます。



参考データ

帝国データバンクによると、情報サービス業の正社員の人手不足割合は、2024年7月時点で71.9%であり、業種の中で最も割合が高くなっています。また、今後も需要の拡大に伴い人手不足が長引くと見られています。

<情報サービス業の人手不足割合 月次推移（正社員）>



(出所) 帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査 (2024年7月)」『TDB Economic Online』ⁱⁱ

(4) 仕事の具体例

① IT 業界の職種

- IT を活用した具体的な仕事について、まず、IT 業界の職種から説明をします。(1) で IT 業界の 5 分類を説明しましたが、各業界（ハードウェア業界、ソフトウェア業界、通信業界、インターネット・Web 業界、情報処理サービス業界）の中でも、様々な職種があります。
- IT 業界の仕事の工程（流れ）は一般的に、企画立案・プロジェクト管理、営業、設計・構築、運用・保守に分けられ、工程ごとに異なる職種が関わっています。下の図で例を示します。

用語解説:

「職種」は個人が担う仕事の種類のことで、これに対し「業種」（「情報通信業」等）は企業が行う事業の種類です。

用語解説:

「工程」とは、作業を進める順序やステップのことです。

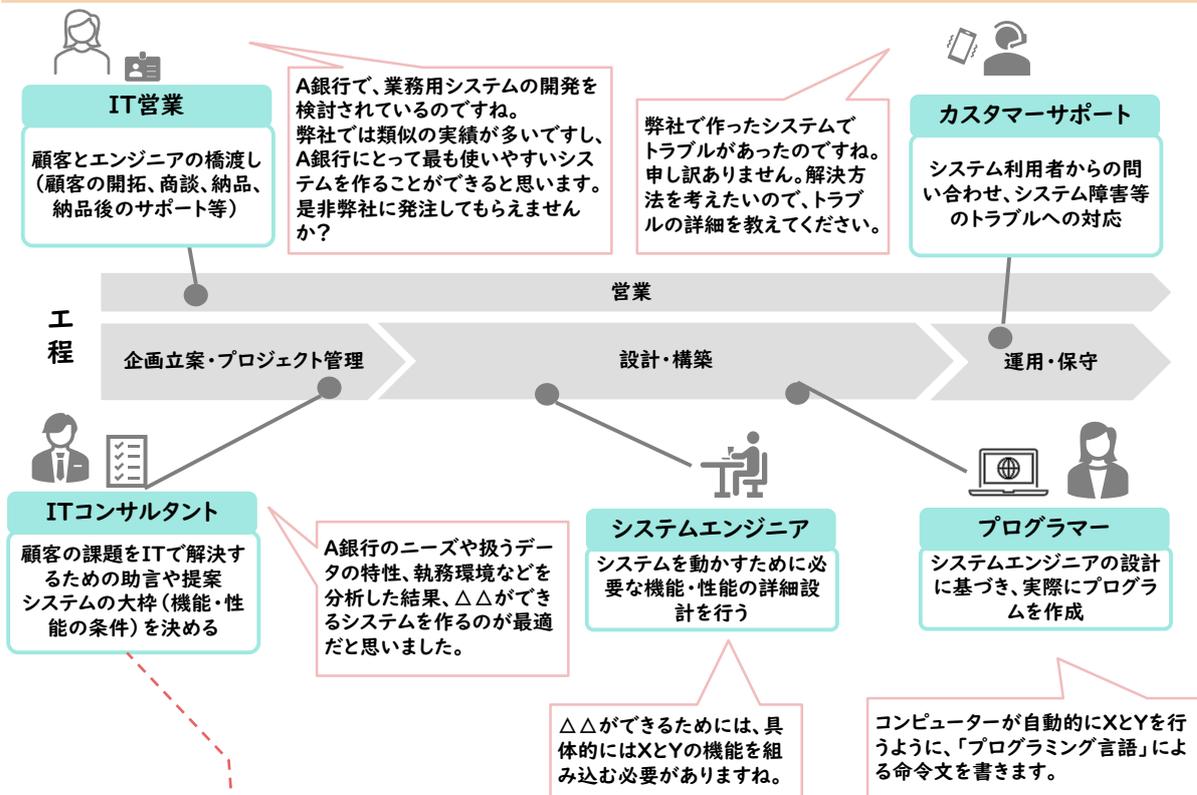
<工程ごとの職種(例1)>

凡例: 職種 業務内容 例 のシチュエーションにおける業務の具体的イメージ

企業向け業務用システム開発のケース

例

顧客であるA銀行から、業務で使うシステムの開発を依頼された。A銀行で扱うデータの特性、A銀行独自の執務環境などを考慮し、A銀行にとって最も使いやすいシステムを作ること。



ちょっとポイント:

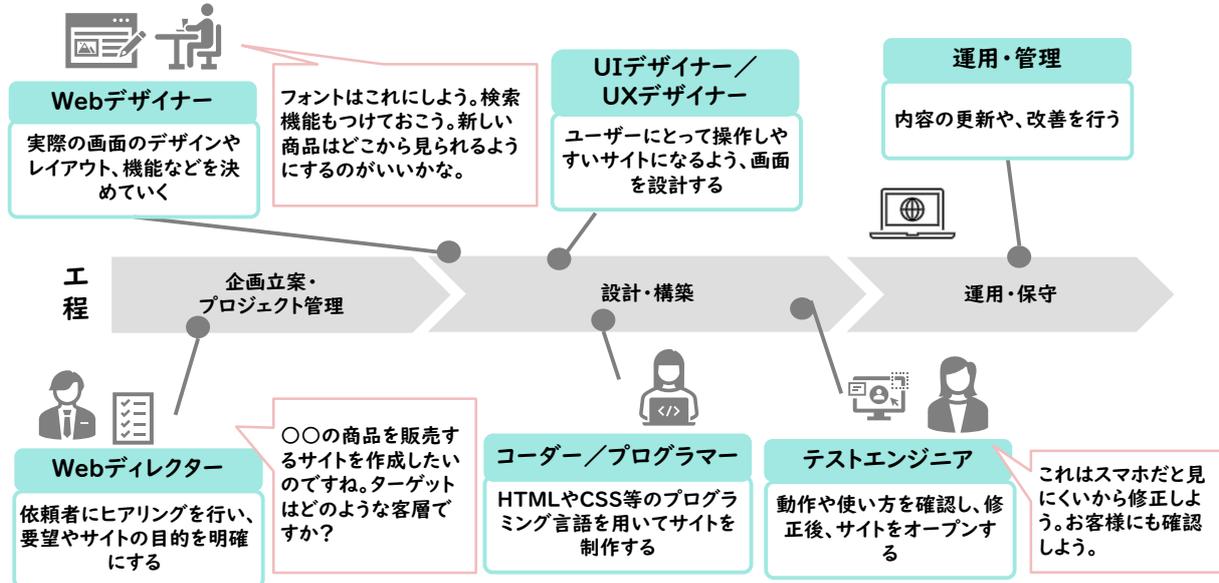
各 IT 職種の仕事範囲は、各企業が業務の実態に合わせ、少しずつ異なるものを設定しています。上図のシステム開発のケースで言えば、図のように IT コンサルタントとシステムエンジニアが分業している企業もあれば、システムエンジニアが企画立案・プロジェクト管理から担っている企業もあります。求人票上の職種名だけで判断せず、各企業に実際の仕事内容を確認する必要があります。

<工程ごとの職種(例2)>

凡例: 職種 業務内容 例 のシチュエーションにおける業務の具体的なイメージ

商品販売のためのWebサイトを制作するケース

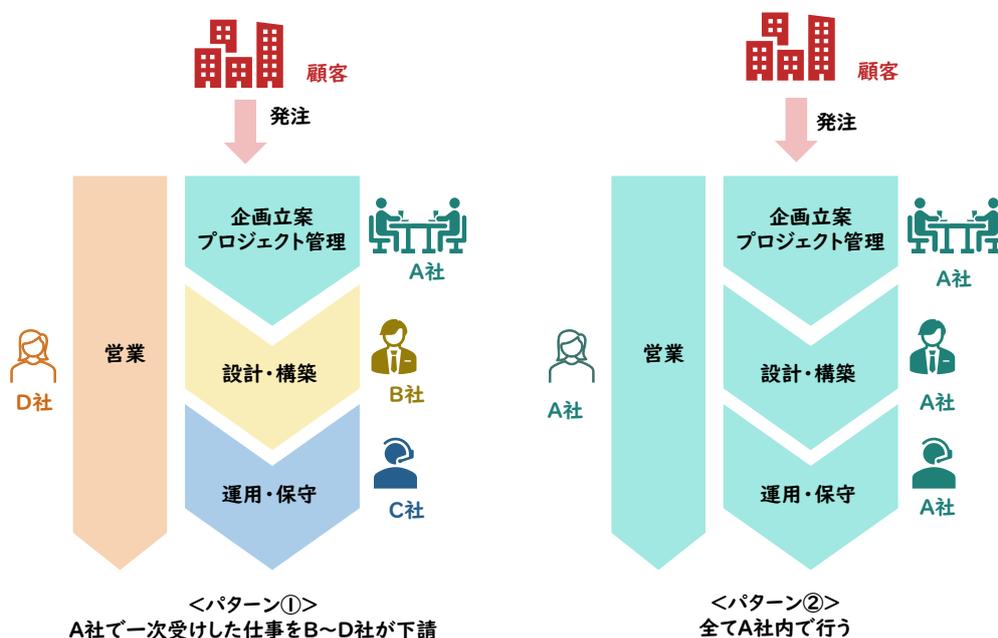
例 顧客企業から、自社商品のオンラインショップのサイト制作を依頼された。大規模なWebサイトであるため、社内でチームを組んで作成することに。



※上記の例では様々な職種で役割分担を行っていますが、実際には、Webデザイナーだけで全ての工程をカバーする場合も多くあります。

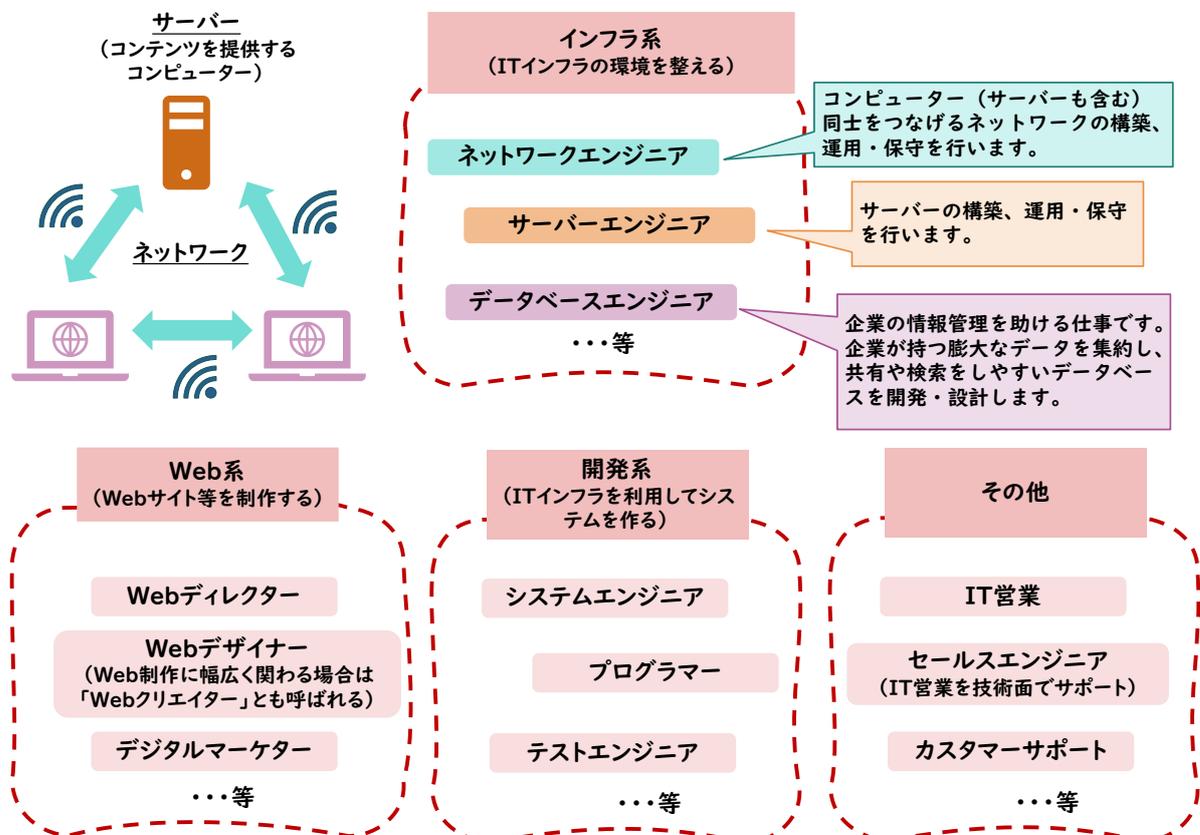
- なお、1つのプロジェクトに必要な仕事について、1つの会社で一括して行っていることもあれば、複数の企業（システムエンジニアの会社、カスタマーサポートの会社等）がチームとして行っていることもあります。

<IT業界の構造(例)>



- ここまでの説明で、IT 業界の職種の具体例を見ていくと、生み出す商品の種類（企業向け業務用システム、Web サイト等）が個々の企業によって様々あることをお分かりいただけたかと思えます。ただ、いろいろなパターンがあるとはいえ、ある程度カテゴリ分けした方が理解しやすいため、大まかな職種の分類を下図に示しておきます。（中でも「インフラ系」の職種は聞きなれない言葉が多いと思うので、詳しくに解説しています。）

<IT 業界の職種の大まかな分類>



※実際には、1人で2つ以上の役割を担う場合も多々あります。

- では、IT 業界の職種の中で、業務未経験から目指しやすいものとしては、何があるでしょうか。次ページ以降にいくつかの例をまとめましたので、参考に見てみてください。中でもデジタル marketer や IT 営業、カスタマーサポートは、ヒアリング調査でも、基礎レベルの IT スキルがあれば業務未経験からでも始めやすい職種として挙げられていました。
- なお、同じ職種でも、企業によって担当する仕事内容は大きく異なることにご留意ください。また、次ページ以降で触れている IT 資格は、高等職業訓練促進給付金の対象にならない場合もありますので、ご注意ください（給付金の対象かどうかは、お住まいの自治体に御確認ください）。
- その他の職種については、厚生労働省の職業情報提供サイト「job tag」（<https://shigoto.mhlw.go.jp/User>）で調べてみるのもおすすめです。「job tag」では、IT 業界以外も含めた様々な職種について、仕事内容や平均収入等の情報がまとめられています。

Web デザイナー、Web クリエイター

■業務内容

Web デザイナー、Web クリエイターは、Web サイトを制作する職種です。依頼者の意図をくみ取って、使いやすさも考えながらデザインし、プログラミング言語を使って Web サイトを作ります。Web サイトの公開後も、より使いやすくなるように更新していきます。

ちょこっとポイント:

Web デザイナーは依頼者の要望に沿って設計をすることが基本ですが、ユーザー目線で使いやすい画面をデザインする「UI デザイナー」や、サービスを使うことで得られる心地よさや満足感などの体験をデザインする「UX デザイナー」という職種もあります。

■未経験での採用可能性

HTML や CSS などのプログラミング言語や、Illustrator のようなデザインツールの使い方を学ぶことに加え、自分で制作したサイトやデザインをまとめたポートフォリオを作っておくと、実務経験がない場合でも、実践的なスキルがあることをアピールできます。

■市場ニーズの動向

EC サイト（ネットショップなど）やインターネット広告など、Web デザインの需要自体は増加していくでしょう。ただ、最近は AI やデザインツールの普及により、初心者でも Web デザインが可能となり、仕事を獲得できない Web デザイナーも増えています。他方で、アクセシビリティ対応や AI 活用サイトなど、新しい知識や高度な技術を持つ Web デザイナーは、今後も求められていくと思われます。

デジタルマーケター

■業務内容

インターネットを活用したマーケティングの戦略を立てる仕事です。顧客の要望を基に、Web サイトや SNS などを活用した効果的な商品販売促進の方法を考え、実行します。

■未経験での採用可能性

未経験者も可とする求人も多くあります。エントリーレベルの仕事で実務経験を積みながら、関連の資格（ウェブ解析士、マーケティング・ビジネス実務検定、Google アナリティクス個人認定資格等）を取得することで、更なるキャリアアップを目指せます。

■市場ニーズの動向

電通「2023 年日本の広告費」によると、2023 年の広告費 73,167 億円のうち、インターネット広告費は 45.5% を占め、新聞・雑誌・ラジオ・テレビの広告費を大きく上回っています。インターネット広告費は過去 10 年で 3 倍に伸びており、今後もデジタルマーケティングの仕事の需要は高まっていくと思われます。

プログラマー

■業務内容

プログラマーは、システムエンジニア（システムの設計・開発・運用の全体を管理する職種）の行った設計を基に、プログラム言語を用いてシステムやソフトウェアを開発する職種です。プログラムのバグ（システムの不具合の原因）の発見、修正等も重要な仕事です。

■未経験での採用可能性

年数をかけて専門的スキルを習得していく前提のため、未経験の場合は20～30代の採用を中心とする企業が少なくないようです。

未経験の場合は、プログラミングの知識を習得することが採用に有利に働きます。プログラミング言語は多岐に亘るため、どのような製品の開発を行う企業に就職したいかを踏まえ、学習する言語を選択しましょう。

■市場ニーズの動向

AI 技術の進歩により、プログラマーやシステムエンジニアの需要が減っているとも言われます。

しかし、例えば IT インフラを扱う仕事では、顧客とコミュニケーションを取りながら継続的に課題分析や改善策の検討を行う必要があるなど、AI よりも人間に期待される役割が大きいです。特に、プログラマーからシステムエンジニアにキャリアアップすることで、活躍の場が広がっていくことが期待されます。

ちょこっとポイント:

プログラマーの経験を積んでから、上流工程の職種であるシステムエンジニアにキャリアアップする方が多いようです。システムエンジニアは、顧客からの要望を基にシステムを設計し、プログラマーと協力しながらシステム開発、テスト等を行います。プログラミング等の IT 知識の他、顧客や開発チームとのコミュニケーションや開発をマネジメントする力など、プログラマーよりもハイレベルなスキルが求められ、年収等も高くなることが多いです。



IT 営業

■業務内容

IT 営業は IT 技術の専門性を生かした営業を行います。顧客から課題や方針を聞き取り、自社が提供している商品（IT 機器や IT サービス、システム等）を顧客先に販売します。

■未経験での採用可能性

資格は必須とされておらず、IT 業界の中では未経験者が挑戦しやすい職種であると言われています。

一般的な営業職と同様、顧客が抱えている課題を的確に把握・分析し、解決方を提案することが求められるため、コミュニケーション力、課題分析力、さらに顧客にサービスや提案をわかりやすく説明する説明力等が求められます。もちろん IT 関連の知識や営業の経験があれば、採用可能性はより高まるでしょう。

■市場ニーズの動向

IT 業界全体の傾向と同様、IT 営業についても、スキルを持つ人材の高い需要が続いていくと思われます。

カスタマーサポート

■業務内容

カスタマーサポートは、商品に関する顧客からの問い合わせに対して、電話、メール、チャット、訪問等でサポートを行う職種です。基本的な製品の使用サポートから、システムのトラブルシューティングまで、対応内容は多岐に亘ります。

■未経験での採用可能性

特別な資格等は必要とされないことが多く、IT を活用する仕事の登竜門として、未経験者でもチャレンジしやすい職種です。システムや IT 機器を対象とするため、IT 関連の知識やパソコンの基本操作スキルを身に付けておくことがよいでしょう。また、顧客との対話が中心になるので、コミュニケーション力があれば活躍しやすいと思われます。

ちょこっとポイント:

商品を導入した顧客に対し、継続的なサポートをすることで、サービスの継続利用や新規利用につなげていく仕事を「カスタマーサクセス」ともいいます。
また、カスタマーサポートの中でも、商品の利用中に発生したトラブル等に対応する窓口を「ヘルプデスク」と言います。

■市場ニーズの動向

AI の進化によりサポートの自動対応が進む可能性が指摘されていますが、多くの企業で IT は活用されており、カスタマーサポートの需要は高い状況が続いています。

IT の基礎知識やスキルを習得することで、より専門性の高いサポート対応で活躍する人、プログラマーやシステムエンジニアにキャリアアップする人がいます。

② IT 以外の業界で、IT を活用する仕事

- IT 以外の業界で基礎レベルの IT スキルを必要とする職種としては、以下で紹介する ICT 支援員の他、一般事務等の仕事もあります。

ICT 支援員

ちょこっとポイント:

自治体に直接雇用されるケースと、自治体の委託を受けた民間企業に雇用されるケースがあります。

■業務内容

学校における教員の ICT 活用（例えば、授業、校務、教員研修等の場面）をサポートすることにより、ICT を活用した授業等を教員がスムーズに行うための支援を行う職種です。具体的な業務内容としては、授業支援（教員・児童生徒の操作支援、機器の準備、障害トラブル対応等）や、校内での研修実施、環境整備（メンテナンス、ソフトウェア更新等）、校務支援（ホームページ作成支援等）等が挙げられます。

勤務時間帯や長期休暇の時期など、こどもと生活リズムが合う点で、働きやすい仕事です。

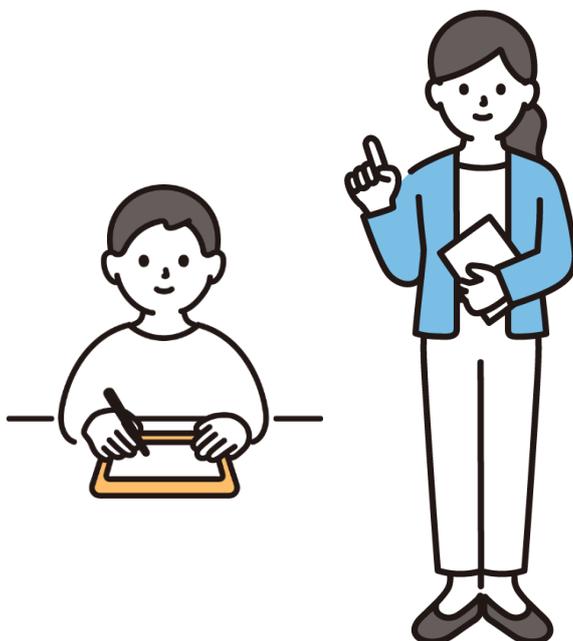
■未経験での採用可能性

資格は必須とされていませんが、業務ごとに必要なスキルレベルが「基本レベル」「応用レベル」の2段階に分けて定められており、少なくとも「基本レベル」のスキルが求められます。

技術系職種や教員経験者が採用されるケースが多いので、未経験者の場合は、採用可能性を高めるため、ICT 支援員に必要な知識やスキルがあることを証明する「ICT 支援員認定試験」を受けることも1つでしょう。

■市場ニーズの動向

文部科学省が定めた「教育の ICT 化に向けた環境整備計画」では、ICT 支援員を4校に1人配置することを目標としています。令和5年度末時点では4.5校に1人と、計画にはとどいておらずⁱⁱⁱ、今後も採用数は増加していくと見られます。



4. 未経験者の採用可能性と仕事への適性

(1) 未経験者でも採用されるのか

- IT を活用した仕事では、業務未経験の場合、初めから高条件で就職することは難しいのが現実です。
- IT を活用した仕事は幅広く、高度な専門知識と豊富な実務経験を必要とする仕事（例：ソフトウェアの会社で開発の全体設計を担う場合など）もあれば、基礎的な IT スキルだけで始められる仕事（例：ソフトウェアの会社で商品のテストを行う仕事や、顧客の興味や行動に合ったコンテンツを SNS 配信するデジタルマーケティング、表計算ソフトを操作する一般事務等の仕事）もあります。
- 基礎的な IT スキルで対応できる仕事であれば、関連業務の実績がなくても、コミュニケーションスキルなど他に求められる条件を満たせば、採用される可能性は十分にあります。
- 他方、高度な IT スキルを必要とする仕事をしたい場合は、いきなりその仕事への就職を目指すのは現実的ではありません。いずれその仕事に就くことを念頭に、初級の仕事から始めて、下積みの時期を経てレベルアップしていく必要があります（例：将来的にはソフトウェア開発の全体設計を担うシステムエンジニアになることを目指して、比較的難易度の低いプログラマーから始める）。
- また、Web デザイナーを目指す方については、自分で制作したサイトやデザインをまとめたポートフォリオを作っておくことで、実践的なスキルがあることを証明できるため、業務未経験でも採用で有利になる場合があります（「7.IT を使って活躍するひとり親の事例」も参照）。

(2) 採用で資格よりも重視されること

- ITを活用した仕事では、労働時間だけでなく成果が重視されることが多くあります。そのため、採用に当たっては資格の有無よりも、実績や、成果を出すポテンシャル(業務遂行力、コミュニケーション力、論理的思考力など)があるかどうかが問われます。
- 雇用側にとっては、業務遂行力、コミュニケーション力、論理的思考力などのスキルが最も重要であり、その上で IT 資格を持っていればプラスの評価となります。逆に、上記のようなスキルが足りないとみなされた場合、資格を持っていても採用されない可能性が高くなります。
- なお、実績については、ITを活用した仕事の実績がなくても、例えば、特定の企業で一定期間、フルタイムの正社員として働いた経験がある場合は、それをアピールすることで、「企業で働くことに慣れている人」という評価を受けられる場合があります。

ヒアリング調査の結果から

ひとり親を支援する民間団体やひとり親を雇用するIT企業等に、採用で重視されるスキルを尋ねました。その結果から、以下のようなポイントを整理しました。

■業務を遂行する力

- ・ まずは、どんな仕事にも共通することですが、責任感を持って最後まで仕事をやり遂げる力が重要です。
- ・ また、ITを活用した仕事では、複数のタスクを同時並行で行うことが多くありますので、自分でやるべきことを洗い出し、優先順位を考え、スケジュールを守って仕事を進める力(タスク管理力)が求められます。

■コミュニケーション力

- ・ どんな企業であっても、社内や顧客とやりとりしながら仕事を進める上で、コミュニケーション力(相手の話を傾聴する力や、共感する力、伝える力など)は必須のスキルです。
- ・ また、IT業界では形の見えないもの(ネットワークやソフトウェアなど)を商品としています。商品について顧客に説明したり、社内で打合せをしたりする際は、専門的な内容や抽象的な概念であっても、的確な言葉でわかりやすく表現しなければ、お互いの認識を合わせることができません。つまり、説明力、プレゼン力が重要です。

■論理的思考力

- ・ 特にIT業界の場合、顧客の要望に対応するシステムの構築や、システムに問題がある場合の改善作業を行うために、論理的思考力(全体像を見ながら問題を分析し、解決策を筋道立てて考える力)が重要となります。

(3) 地域や年齢によっては就職チャンスが少ない

- お住まいの地域など、状況によっては就職先が見つかりにくい場合があります。ITを活用した仕事への就職を考えている方は、あらかじめ、お住まいの地域にITを活用した仕事の求人があるか、採用条件(職歴など)を満たせそうか、といったことを確認しておくのがおすすめです。
- 地域によっては、ITを活用した仕事の求人自体が少ないこともあります。



参考データ

前出のIPA「DX 動向 2024」でも、従業員規模が小さい企業ほど、DXに取り組んでいる割合が低いというデータがあります(※)。つまり、小規模な企業が中心の地域では、ITを活用した仕事の求人も少ないことが予想されます。

※2023年度にDXに取り組む企業の割合は、従業員規模が「1,001人以上」の企業では96.6%(n=266)なのに対し、「100人以下」の企業では44.7%(n=336)となっている(IPA「DX 動向2024」p.2、図表1-2)。

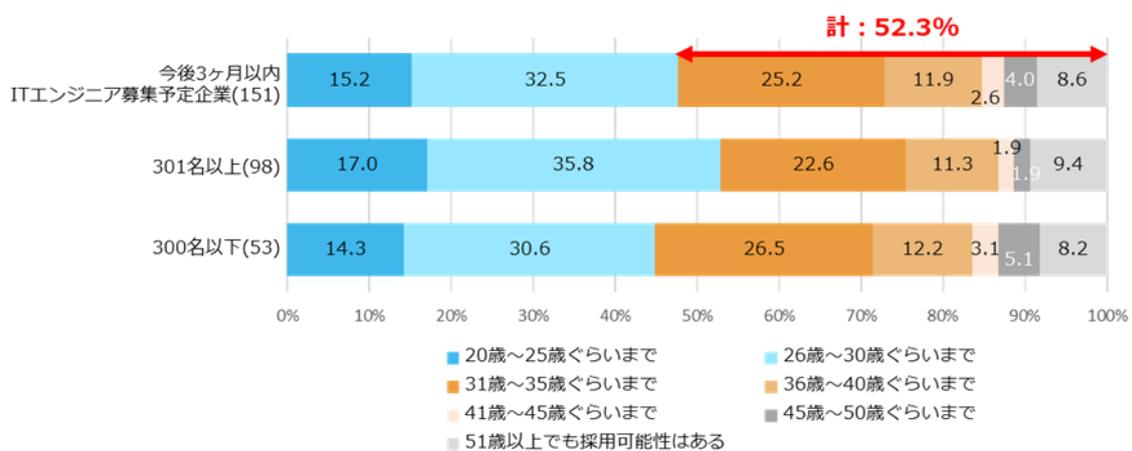
- 特に専門性の高い職種では、未経験者の場合、就職してから時間をかけてキャリアアップしていく想定のため、20~30代を中心に採用をしている企業も少なくないようです。



参考データ

マイナビ「中途採用・転職活動定点調査」によると、3か月以内に「ITエンジニア」を募集予定の企業に対し、開発未経験の応募者の採用可能性を尋ねたところ、半数以上は30代以上でも採用可能性ありと回答しました。ただ、30代前半に比べると、30代後半以降は割合が低くなっています。

＜応募者が開発未経験の場合、何歳までなら採用の可能性はあるか＞



(出所) マイナビ中途採用・転職活動定点調査(2023年6月)^{iv}、図7

(4) 仕事への適性も重要

- どんな仕事でも同様ですが、自分の適性によっては「仕事が合わない」こともあります。せっかく IT を活用する仕事に就職しても、自分が合わないと感じる仕事では、働き続けることがストレスになるかもしれません。
- IT を活用する仕事の中にも、とりわけ論理的思考が求められる仕事や、特に対人コミュニケーションスキルが重視される仕事など、様々なものがあります。関心のある仕事の内容をよく調べ、スキルやパーソナリティの面で自分に合いそうか、想像しながら就職先を検討してみてください。
- 自分のスキルやパーソナリティを整理できていないという方は、適職診断を受けてみるのも1つの方法です。適職診断は、オンラインで無料公開されているものも多くあり、IT 業界の職種に特化したものもあれば、様々な分野の仕事の中から適職を判断してくれるものもあります。



参考データ

厚生労働省の職業情報提供サイト (job tag) では、仕事に対する興味・価値観、能力面の特徴から適職を探索する自己診断ツールが公開されています (IT 業界に特化したツールではありません)。自分のスキルやパーソナリティを確認する参考にしてみてください。

※職業情報提供サイト (job tag) 『自己診断ツール』

<https://shigoto.mhlw.go.jp/Search/Top>



参考データ

IT 業界の採用活動では、プログラマーなど IT 業界の仕事に向いているかを判断するため、業界特有の適性検査を行う場合が多くあります。例えば、主要な適性検査の1つである「CAB」 (日本エス・エイチ・エル株式会社の提供するコンピュータ職適性検査) では、指定された命令を実行すると図形がどう変化するかを尋ねる問題など、プログラミングに必要なスキルを測る問題が出題されます。適性検査の出題例を確認すれば、自分の適性を判断する参考になるかもしれません。

iRupでは、独自の研修スキームで未経験者をITエンジニアとして育成しており、ひとり親の社員も活躍しています。



コラム：IT企業におけるITエンジニアの育成（株式会社iRup）

■会社の概要、特徴

- 株式会社iRup（以下「iRup」という）はエンジニア派遣、エンジニアの育成、システム開発などを行う会社です。2021年創業で、従業員は約100人です。
- iRupの特徴の1つは、経験者だけでなく未経験者も採用し、即戦力のITエンジニアとして育成していることです。会社として未経験者向けのカリキュラムを用意しており、内定者は入社までの間にこのカリキュラムを各自修了し、ITエンジニアとして最低限必要なスキル（コミュニケーション力、問題解決力等）を身につけます。入社後の1~2年間は、先輩社員の案件に参画しながら実践スキルを磨きます。慣れてきたら、自分で案件のマネジメントを行うなど、主体的に仕事を進めていくようになります。

■ひとり親の社員について

- 上記のような育成体制の下、未経験から入社し、システムの運用・保守兼プログラマーの仕事で活躍しているひとり親の社員もいます。オフィスへの出勤を基本とするなど、雇用条件等で他の社員と異なることはありません。ただ、チームメンバーに対してひとり親であることや、こどもの病気等で急に休む場合がある等も説明した上で案件に参画しており、周囲の理解を得ながら柔軟に有給休暇の取得等を行えています。

■雇用条件、働き方

- iRupで未経験者を多く採用しているのは、運用・保守の職種です。採用後半年間は契約社員ですが、勤怠等に問題がなければ、その後正社員に切り替わります。年収は300万円前後からスタートします。
- 正社員の平均残業時間は月10時間前後です。ただし、仕事内容や時期によっては残業が多くなることがあります。特にリリース（新しい商品を発表すること）の時期は忙しくなりがちです。また、運用・保守の仕事は、夜間に問い合わせが発生する案件の場合、夜型の勤務になることがあります。
- 大半の社員がオフィスに出勤しています。テレワークでは、特に新規採用者の場合、分からないことがあっても聞きづらい等、コミュニケーションや仕事の効率でデメリットも多くあります。実績を数年積みめば、テレワークに移行してもスムーズに仕事ができるかもしれません。

用語解説：

Amazon Web Servicesが提供するクラウドサービスに関する知識やスキルを認定する資格です。

■IT資格に関するアドバイス

- ITエンジニアとして働くには、ある程度の基礎知識を身につけた段階で実践に移り、実績を積みながらキャリアアップしていくことが重要です。ただ、採用段階でIT資格があればベターです。Excel関数が使えことは最低限必要ですが、VBAや、インフラ系のエンジニアを目指すならLPI認定資格、CCNA、AWS認定資格などがあるとよいでしょう。

5. 気になるワード「テレワーク」と「フリーランス」

(1) テレワークのよくある誤解

- IT を活用した仕事であっても、必ずテレワークができるわけではありません。職場によって、完全テレワーク（全くオフィスに出勤せず、在宅など自分の好きな場所で仕事をしてよい）を認めている場合もありますが、毎日又は定期的にオフィスに出勤することを求めている場合もあります。

用語解説：

「テレワーク」は、在宅勤務の他、サテライトオフィス・シェアオフィス、モバイル勤務（ホテルや新幹線・電車等、移動中の場所で仕事すること）も含まれます。



参考データ

2023 年 4 月の内閣府「第 6 回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、全国のテレワーク実施率は 3 割、東京 23 区で 5 割となっており、地域により差があることが分かります。また、業種によっても差があり、情報通信業（IT）では 7 割となっています。

なお、上記の「テレワーク実施率」のうち、完全なテレワークを認めているケースの割合はかなり低いと思われます。例えば、マイナビ「ライフキャリア実態調査 2024 年版」でも、正社員でリモートワーク（テレワーク）をする人のうち、完全リモートワーク（週 5 日以上在宅勤務をしている人）は 2 割弱（n=792）にとどまっています（東郷 2024）⁹。

- 「テレワーク＝楽な仕事」というイメージを持っている方もいるかもしれませんが、それは誤解です。テレワークでは、オフィスに出勤して行う仕事と同様に、勤務時間中はパソコンに向かって仕事をしている必要があり、オフィスで仕事をする場合と同様の量と質の成果を出すことが求められます。
- テレワークでは 1 人きりの環境で仕事ができるため、他の職員との直接のやりとりが少なく、人間関係のストレスが少ないと感じる人もいます。ただし、それは裏を返せば、自分で仕事の進行を管理し、仕事に必要なスキルも自分で身に付けていかなければならないなど、自律性が求められるということでもあります。
- 過度な期待を持ったままテレワークを始めてしまうと、「こんなはずではなかった」と思う場面に多く直面し、仕事を続けることが難しくなってしまうかもしれません。テレワークを希望する場合は、上記のことをしっかり認識しておくことが重要です。

(2) フリーランスの実際

- ITを活用した仕事を目指す方の中には、フリーランスに関心のある方もいるのではないかと思います。フリーランスと言えば、好きな時間に好きな場所で仕事ができる、といったポジティブなイメージが強いかもしれませんが。しかし実際には、フリーランスにもデメリットがありますし、フリーランスになったもののうまくいかないケースも存在します。
- 「フリーランス」とは、企業等の組織には所属せず（企業等と雇用契約を結ばず）、個人で仕事を請け負う働き方のことです。単発の仕事について、企業等との間で業務委託等の契約を結び、その仕事が終わったら契約終了となります。
- フリーランスの強みは、時間や場所の制約を受けず、柔軟な働き方が可能な点です。また、単発の仕事一つ一つについて契約を行うので、やりたい仕事を主体的に選びやすいのもメリットです。スキルの高い人であれば、組織に所属して仕事をするよりも、高い収入を目指すことができます。
- しかし、上記のようなメリットを享受するには、高いスキルを持った人材であることが前提条件となります。当然ながら、業務を委託したいと考える顧客がいなければ、仕事の依頼は来ません。また、一つ契約ができたとしても、その案件が終われば契約は終了し、次の契約があるまで収入はゼロになります。
- 一般的には、まず企業等の組織に所属して（正規雇用等の雇用契約を結んで働いて）、キャリアや人脈を築いてから、フリーランスに転向するケースが多いようです。未経験から Web デザインやプログラミングの仕事にチャレンジしようとしている方については、まずは企業に所属して経験を積んでいく方が、いずれフリーランスに転向するとしても、成功するチャンスが大きくなると思われます。



参考データ

一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会「フリーランス白書 2024」^{vi}によると、フリーランス・パラレルワーカーの回答者 1,242 人について、直近 1 年間の仕事獲得経路で最も多いのは「人脈（知人の紹介含む）」（61.6%）、次いで「過去・現在の取引先」（58.9%）となっています（重複回答あり）。また、最も収入が得られる仕事獲得経路は、「過去・現在の取引先」（32.7%）、「人脈」（27.9%）の順に多く、合計で全体の 6 割となっています。フリーランスとして仕事を獲得していく上では、実績や人的ネットワークが重要であることが分かります。

用語解説：

「パラレルワーカー」とは、複数の仕事を持ちながら働く人のことで、雇用契約をしている人も含まれます。

6. 取得する IT 資格を考える

(1) IT 資格を取得する意義

- IT を活用する仕事では、どの職種であっても、特定の資格を取らなければ IT 関係を活用した仕事ができないわけではなく、また逆に、特定の資格を取れば必ず関連の仕事に就職できるわけでもありません。基礎的な IT スキルだけで始められる仕事であっても同様です。
- 他方で、**IT 資格は、IT の知識や技術を証明するツールの 1 つとして有用です**。業務未経験者の場合は、基礎レベルの IT 資格の取得を通じて、IT 業界の仕事をする上で最低限のコミュニケーションを取れるだけの力が身につきます。そのため、企業から「仕事上のコミュニケーションができる人」「IT の基礎知識を自ら学習し修得する能力のある人」といった評価を受けやすくなることがあります。
- また、既に IT 企業等で活躍している人については、(今の職場で資格が昇格・昇給等の要件になっている場合は) IT 資格の取得が昇格・昇給につながったり、仕事の幅を広げたり、職場での評価を高めるといった効果も期待できます。



参考データ

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 (2024) ^{vii} の調査で、高等職業訓練促進給付金を活用して IT 資格を取得した人からは、同じ職場にいながら仕事の幅が広がった、能力が向上した、給与が上がった、職場で評価が高まったといった声がありました。

<資格を取得したことによる就業状況の変化(IT 資格取得者の回答のみ抜粋)>

仕事の幅が広がった
<ul style="list-style-type: none">・ 仕事内容にデータ活用を利用する業務が増えた。レベルアップできた。・ これまで提供していたサービスに加えて、ウェブデザインの知識もふまえてサービス提供をできるようになりました。・ 任される仕事が増えた。自分に自信がついた。
能力が向上した
<ul style="list-style-type: none">・ 新しいシステムやパソコン周りの動作確認などが以前より容易になった。・ PC 操作が早くできるようになった。・ 作業効率があがった。
給与アップにつながった
<ul style="list-style-type: none">・ 給料が上がった。・ 仕事でできる事が増え、能力給が上がった。
職場で評価が高まった
<ul style="list-style-type: none">・ 職場で意見を重宝されるようになった。

(注) 複数のカテゴリに当てはまるものについては、主なもの 1 つに掲載した。

(出所) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 (2024) p.167, 図表 4-71

- ただし、「IT」は職業ではなく、あくまでスキルです。そのため、IT資格を取得しただけでは、すぐには好条件の就職ができない場合も多いのが現実です。また、地域や年齢などによっては、求人自体が見つかりにくいこともあります。特に、ITを活用した仕事が未経験の方については、まずはITを活用する仕事の内容や就職に当たり求められることを理解し、自分がどんな仕事を目指し、そのためにどんな準備をすればよいのか、戦略を立てることが重要です。
- なお、「IT」はあくまでスキルであるからこそ、本人の意欲や活用の仕方によって、多様な選択肢につながる可能性があります。時間単価の労働よりもナレッジワーク（自身の持つ知識を活用して新たな付加価値を生み出す労働）が向いている人や、病気や障害等の理由で体を大きく動かすことが難しいものの、デスクワークなら活躍できる人、パソコンの基本スキルを身につければ応募できる求人が増えるという人もいます。そうした方にとっては、自分らしく継続的に働いていく上で、ITを活用したキャリアにチャレンジすることは価値があるものと思われる。

(2) 就職活動に役立つ IT 資格の例

- 初心者でもチャレンジしやすい基礎レベルの IT 資格で、国の給付金制度（高等職業訓練促進給付金や教育訓練給付金など）の対象となる可能性のあるものについて、いくつか紹介したいと思います。（なお、実際に給付金の対象になるかどうかは、お住まいの自治体に確認が必要です。）
- まず、IT 資格の難易度を判断する際、1つの目安となるのが「IT スキル標準（ITSS）」です。初心者の場合、難易度に関して言えば、ITSS レベル1相当の資格からチャレンジするケースが多いと思われます。なお、基礎レベルの資格の中には、ITSS の枠組みではレベルが割り振られていないものもあります。



参考データ

IT スキル標準（ITSS）は、情報サービス産業における各職種・専門分野について、評価の基準となるレベルの設定、必要なスキルの定義、キャリアマップの提示をすることで、必要な実務能力を体系化した共通枠組みです。平成 14 年 12 月に経済産業省により策定されましたが、現在は独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が改訂版を策定・公表しています。

ITSS では、個人の経験と実績の達成度指標で評価する 7 段階のレベルを設定しています。高等職業訓練促進給付金では、修業期間が 6 か月以上であれば、ITSS のどのレベルの資格も対象になり得ますが、一般的にはレベル 1~3（比較的初級レベルのもの）に相当する資格を目指すケースが多いと思われます。

レベル 1 は仕事上のコミュニケーションに必要な基礎知識があるレベル、レベル 2 は指示に従ってマニュアル化された業務を行えるレベル、レベル 3 は独力でマニュアル化された業務を行えるレベルとされています（IPA 2012）^{viii}。

- まず、職種を問わず必要な IT の基礎知識や、パソコンの基本スキルを証明する資格を紹介します。

IT パスポート試験

国家資格

情報処理技術者試験（国家試験）の 1 つ。IT に関する全般的な基礎知識を測定する試験として、採用や社員教育に活用している企業も多い。

■学習内容

AI、ビッグデータ、IoT、経営、プロジェクトマネジメントなど、IT に関する総合的知識

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等）ができる

■学習時間

の目安

(※1)

70 時間

(※2)

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)

IT の領域に関わる人全般（事務職、営業職等を含む）

ITSS 該当なし

※1：学習時間の目安は、教育訓練給付制度の Web サイト^{ix}に掲載されている各講座の「訓練時間」を参考に記載した。以下同様。

※2：ITSS レベルについては、特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会「各スキル標準と認定試験・資格の関係（ISV Map Ver12.4）」に基づく。以下同様。

基本情報技術者試験

国家資格

情報処理技術者試験（国家資格）の 1 つで、IT エンジニアに必要とされる基礎知識・技能を測る試験。基礎レベルの資格だが、IT パスポート試験よりも難易度が高いとされる。

■学習内容

IT を活用したサービスやシステム等を作る際に必要とされる基本的な知識・技能

■学習に必要な前提知識等

IT についての基礎的な理解がある方が取り組みやすい。

■学習時間

の目安

70 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)

プログラマー、システムエンジニア、インフラエンジニア等

ITSS レベル 2

MOS (Microsoft Office Specialist)

民間資格

Microsoft 社が認定する、同社製品 (Word, Excel, PowerPoint, Access, Outlook) の知識・操作スキルを客観的に証明する資格。各製品についてバージョンごとに試験科目が設定されており、Word 及び Excel については、一般レベルと上級レベル (エキスパート) が用意されている。

■ 学習内容

Microsoft Office 製品による資料作成やデータ分析等の知識・操作スキル

■ 学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作 (起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等) ができる

■ 学習時間の目安

60-80 時間
/ 1 科目

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種 (例)

事務、経理、総務等、Microsoft Office を用いるあらゆる職種

ITSS 該当なし

VBA エキスパート

民間資格

Microsoft Office 製品に搭載されているマクロ (操作を自動化する機能) と、VBA (Excel 等の Microsoft Office 製品で使われる、マクロを作るためのプログラミング言語) のスキルを証明する資格。Excel と Access のそれぞれについて、ベーシックとスタンダードの2レベルが用意されている。

■ 学習内容

Excel あるいは Access について、VBA を使ってマクロを作成・読解するスキル

■ 学習に必要な前提知識等

Excel の基本操作 (データ入力、書式設定、四則演算、データの保存等) ができる

■ 学習時間の目安

60 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種 (例)

総務・人事・経理職、営業・マーケティング職、製造管理職等

ITSS 該当なし

Webクリエイター能力認定試験

民間資格

Webサイトの制作に必要な、HTML（Webサイトの構造を作るプログラミング言語）やCSS（Webサイトのデザインやレイアウトを作るプログラミング言語）等のスキルを証明する資格。スタンダード、エキスパートの2段階のレベルがある。

■学習内容

Webサイト制作のデザイン能力、プログラミング言語（HTML、CSS）を使ってコードを書く能力

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起動、マウスやキーボードの操作、データの保存等）ができる

■学習時間の目安
60時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

Webクリエイター、Webデザイナー、Webディレクター等

ITSS 該当なし

HTML5 プロフェッショナル認定試験レベル1

民間資格

HTML5（Webサイトを作るための言語）を活用してWebサイトやアプリケーションを作るために必要な知識やスキルを認定する資格。レベル1とレベル2があり、レベル1ではWebコンテンツ制作の基礎の実力を測る。

■学習内容

Webの基礎、CSSやHTMLによるコードの書き方、多様なデバイスへの対応、API（※）の知識

■学習に必要な前提知識等

Web制作やプログラミングの経験がある

■学習時間の目安
40時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

Webデザイナー、プログラマー、コーダー、アプリケーション開発者等

ITSS レベル2

※ API：ソフトウェアやアプリケーションの機能を連携する仕組み

Photoshop クリエイター能力認定試験

民間資格

Photoshop（アドビ社の画像編集ツール）の活用能力を測定する試験。

■学習内容

画像編集技術に関する知識、
Photoshop を使ってコンテンツ
を制作する能力

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起
動、マウスやキーボードの
操作、データの保存等）が
できる

■学習時
間の目安
50 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

グラフィックデザイナー、WEB デザイナー、WEB ディレクター等

ITSS 該当なし

Illustrator クリエイター能力認定試験

民間資格

Illustrator（アドビ社のデザインツール）の活用能力を測定する試験。

■学習内容

文書をデザインする技術に関す
る知識、Illustrator を使って
コンテンツを制作する能力

■学習に必要な前提知識等

パソコンの基本操作（起
動、マウスやキーボードの
操作、データの保存等）が
できる

■学習時
間の目安
50 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種（例）

グラフィックデザイナー、WEB デザイナー、WEB ディレクター等

ITSS 該当なし

- 次の LPIC-1、OCJP Silver SE、CCNA は、インフラエンジニア、クラウドエンジニア、システムエンジニア等の仕事をしていく上では有用な資格です。ただし、ネットワーク、クラウド、プログラミングの基本知識がない場合、学習の難易度が高くなります。未経験から IT エンジニアを志望する方は、基礎レベルの仕事から始めて、実務経験を積みながらこれらの資格を取得し、キャリアアップを目指していくという方法もあります。

LPIC-1

民間資格

LPI (Linux Professional Institute) 認定資格の1つで、Linux (サーバーを構築するソフトウェアの1つ) を扱う知識やスキルを認定する試験。なお、LPIC-1 よりもハイレベルな試験として LPIC-2、LPIC-3 もある。

■学習内容

Linux のインストール方法・基本操作の知識や、システム構築・管理の能力

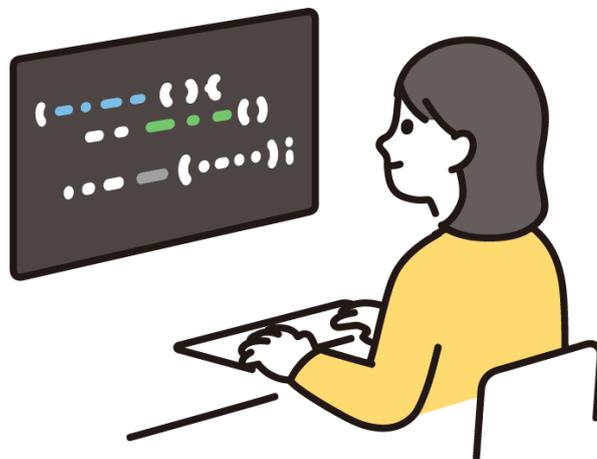
■学習に必要な前提知識等

IT 全般の基本知識があること。ネットワーク、クラウドの基本知識がある方が学習しやすい

■学習時間の目安
60 時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)
インフラエンジニア、クラウドエンジニア等

ITSS レベル 1



OCJP (Oracle Certified Java Programmer) Silver SE

民間資格

オラクル認定資格（オラクル社製品に関する専門知識を証明する資格）の1つで、Java（システム開発に使うプログラミング言語）に関する知識・スキルを認定する資格。Bronze、Silver、Goldの3レベルがあり、最も難易度が高いのはGold。Silverは、開発初心者向けの学習内容となっている。

■学習内容

Javaを利用したアプリケーション開発に必要とされる、基本的なプログラミング知識

■学習に必要な前提知識等

プログラミングの基本知識を有すること

■学習時間の目安
60時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)
プログラマー、システムエンジニア等

ITSS レベル 1

CCNA (Cisco Certified Network Associate)

民間資格

シスコ技術者認定資格（シスコシステムズ社製品を扱う技術・知識を証明する資格）の1つで、ネットワークエンジニア（快適な通信環境を作るため、コンピューターネットワークの構築・保守・管理を行うエンジニア）の入門資格。

■学習内容

ネットワークの基礎、IPサービス（通信の仕組み、通信方式の設定）、セキュリティ、ネットワーク管理の自動化等の知識

■学習に必要な前提知識等

IT全般の基本知識があること。シスコシステムズ社の製品に関する知識を問われるため、製品を使った経験がある方が学習しやすい

■学習時間の目安
60時間

★この資格で学んだ知識やスキルが役立つと思われる職種(例)
ネットワークエンジニア、カスタマーサポート等

ITSS レベル 2

奥進システムは、システム開発やHP制作を行う会社で、障害のある社員やひとり親の社員が在宅ワークで活躍しています。



コラム：システム開発会社における誰もが働きやすい環境づくり (有限会社奥進システム)

■会社の概要

- 有限会社奥進システムは従業員 10 名の小さな会社で、主に中小企業向けのシステム開発とホームページの制作・保守を行っています。顧客の悩みや課題に寄り添い、各社の業務に密着した、オーダーメイド型のシステム開発を特徴としています。
- 誰にとっても働きやすい社会を目指し、子育てや体力的・精神的な事情で出社が困難な社員に対して、在宅勤務を活用した働き方を積極的に推進しています。そうした取組が評価され、障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度や、テレワークの表彰など、官公庁や自治体から様々な認定・表彰を受けています。

■「在宅勤務」「残業ゼロ」など、働きやすい環境づくり

- 2000 年の設立当時から、身体障害のある社員やひとり親の社員が週 1～2 日、在宅勤務制度を活用していました。新型コロナウイルス感染症が拡大した 2020 年以降は、ほぼ全社員が在宅勤務をしており、出社頻度は週 2 日程度となっています。働きやすい環境づくりとして「残業ゼロ」にも取り組んでいます。

■システム開発、ホームページ制作、営業の概要と求められるスキル

- システム開発の仕事は、末端のプログラマーから上流の設計の仕事まで幅広い業務があります。ただ、いきなり設計を担当することは少なく、まずはプログラマーになるための訓練を行い、そこからキャリアアップしていくことが多いです。プログラムにはバグ（不具合、間違い）がつきものなので、それを 1 つ 1 つ直していく忍耐力も求められます。
- ホームページ制作は、コードを書いてからブラウザで確認すれば、どんなページができたか見ることができます。システム開発はコードを書いてもそれがどのように動くのか、すぐには確認できないため、この点は大きく異なると言えます。
- 営業は顧客と会社（技術）の橋渡し役として、コミュニケーション力が求められます。さらにレベルが上がると顧客に提案を行うことや、自社システムで開発可能か見極める力なども必要になるため、IT の知識・経験を一定有していることが望ましいでしょう。
- ホームページ制作は未経験者でも比較的早く活躍できるようになるのに対し、システムとその営業の場合は、企業の現場で経験を積むことが重要です。ひとり親の方等がシステム開発への就職を目指す場合は、職業訓練でシステム開発の実績を作っておくことも考えられます。
- 入社に際しては、当社の場合、基本的には Excel と PowerPoint が使えれば大丈夫ですが、それ以外に基礎レベルの IT 資格（IT パスポート試験や、ホームページ制作であれば Photoshop、Illustrator 等の資格）があればスキルの証明になることがあります。

(3) 高等職業訓練促進給付金の対象になる資格

- 高等職業訓練促進給付金は、ひとり親の方が就職に向けて必要な資格を取得する場合に、資格の養成訓練受講期間（修業期間）の生活費として給付金を支給する制度です。
- 対象となるのは、資格取得に向けた講座のうち、6か月以上の期間で組まれているもので、かつ自治体が就職につながるとして指定をしているものです。同じ資格であっても、養成校によって講座期間は異なりますし、指定の判断も自治体により異なりますので、養成校及び自治体に確認が必要です。

<高等職業訓練促進給付金の概要>

制度の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修業期間中、月額 10 万円（住民税課税世帯は月額 70,500 円）の生活費が支給される。 ・ 訓練を受けている期間の最後の 1 年間は支給額が 4 万円増額される。 ・ 訓練修了後、5 万円を支給（住民税課税世帯は 25,000 円）
対象資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職を容易にするために必要な資格として自治体が定めるもので、養成機関において 6 か月以上修業するもの。（具体例は下の「参考データ」参照）
制度の対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養成機関での修業を開始した日以後・修業を修了した日において、次の要件を満たすひとり親。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童扶養手当の支給を受けている者と同等の所得水準(※)にある。 ※所得制限水準を超過した場合であっても、1年に限り引き続き対象者とする (2) 対象資格を取得するため、養成機関において 6 か月以上のカリキュラムを修業し、対象資格の取得が見込まれる者等。 (3) 就業又は育児と修業の両立が困難であると認められる者。



参考データ

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（2024）の調査では、自治体が高等職業訓練促進給付金の対象に指定している IT 資格・講座の例として以下のようなものがありました。

- Microsoft Office Specialist (MOS)
- 基本情報技術者試験
- Web 制作やデザイン制作関係の資格・講座（Web クリエイター能力認定試験、Illustrator クリエイター能力認定試験、Photoshop クリエイター能力認定試験 等）
- ベンダー資格(※)（LPI 認定資格、シスコ技術者認定資格 等）
- IoT 関連資格・講座（IoT エンジニアの資格等）
- 第四次産業革命スキル習得講座（AI エンジニア育成の講座等）

※ベンダー資格とは、IT 関連の製品を製造・販売する企業（ベンダー）が、製品を扱うスキルを認証する資格のことです。

- なお、高等職業訓練促進給付金の他にも、資格取得を支援する給付金制度がいくつかあります。高等職業訓練促進給付金の対象とならない資格でも、他の給付金制度の対象となっている場合があります。
- また、**高等職業訓練促進給付金は生涯に一度しか利用ができない制度です**。例えば、試しに基礎レベルの IT 資格を取得し、IT の勉強が自分に向いていればハイレベルな IT 資格も取得したいと考えている場合は、まずは他の給付金制度を活用して基礎レベルの IT 資格を取得し、ハイレベルな IT 資格を取得する際に高等職業訓練促進給付金を活用するという方法もあります。

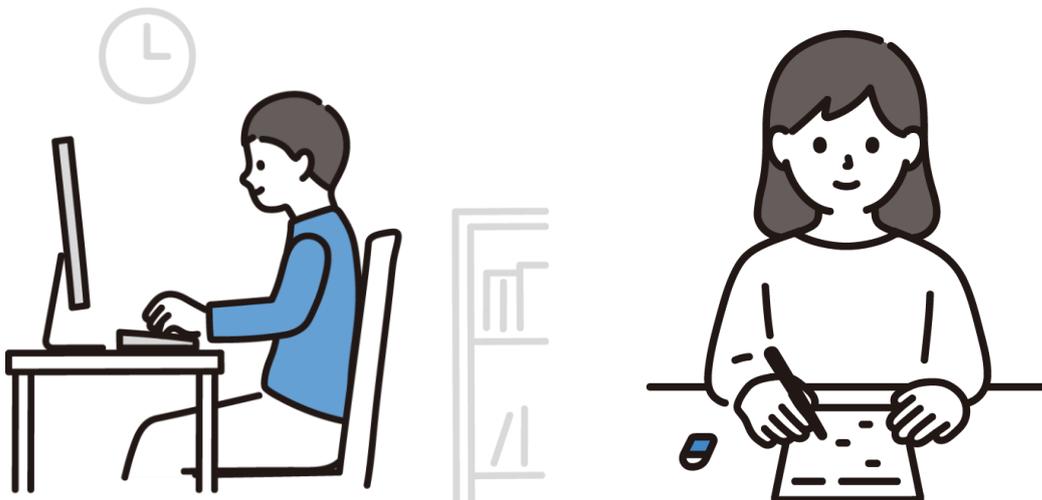
＜資格取得を支援するその他の給付金制度（主な例）＞

	自立支援教育訓練給付金	教育訓練給付金（※）		
		一般教育訓練給付金	特定一般教育訓練給付金	専門実践教育訓練給付金
概要	ひとり親が教育訓練給付金の指定講座等を修了した場合に、その経費の 60%を支給 また、専門実践教育訓練給付の対象となる講座を受講し、修了後 1 年以内に資格取得し、就職等した場合にはその経費の 85%を支給	厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を修了した場合に、その費用の 20%を支給	厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を修了した場合に、その費用の 40%を支給 また、資格取得し、1 年以内に雇用された場合、受講費用の 10%を追加支給	厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練を受講する場合に、6 か月ごとに、経費の 50%を支給 また、資格取得し、1 年以内に雇用された場合、受講費用の 20%を追加支給 さらに、賃金が受講開始前より 5%上昇した場合、受講費用の 10%を追加支給
対象資格	一般教育訓練給付、特定一般教育訓練給付、専門実践教育訓練給付の対象講座 など	右記以外で雇用の安定・就職の促進に資する教育訓練	特に労働者の速やかな再就職及び早期のキャリア形成に資する教育訓練	特に労働者の中長期的キャリア形成に資する教育訓練
備考	高等職業訓練促進給付金との併用も可能			

※教育訓練給付金の対象者は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者または被保険者です。自分に受給資格があるかどうか、ハローワークに確認が必要です。

(4) 学習体制を確保する

- 修業期間中は子育てや仕事もある中で学習を行いますので、修業開始前と比べて、時間的・体力的・精神的にハードな生活となることが予想されます。思い切って養成講座に申込みをしたけれど、仕事や育児に日々疲れている中、勉強時間が確保できずに挫折してしまうとなれば、せっかくかけたお金や時間が無駄になり、後悔してしまうかもしれません。
- 資格取得に向けた修業を決める前に、まずは学習する内容や難易度、資格取得までに必要な学習時間を把握し、その学習時間を確保する場合の 1 日のスケジュールを書き出してみることをおすすめします。そして、そのスケジュールでの生活を成り立たせるために、どのような体制を整える必要があるか、考えてみましょう。
- 例えば、小さなお子さんを育てている場合、養成校の授業を受けている間や、土日等に自習をする間、保育所等の預かりサービスを利用するか、親族からの育児サポートを受けられることが前提になると思います。また、仕事を持っている方の場合は、学習時間を確保するため仕事のシフトを調整してもらうなど、職場の理解を得る必要が生じるかもしれません。
- 学習を行うために必要な環境を整備し、万全な体制で学習を始めることができれば、目標とする資格を取得できる可能性が高まります。また、もしも今すぐには環境を整えることが難しい場合は、例えば 1 年後に修業を開始できるように 1 年かけて準備を行うなど、別の可能性を検討してみてください。



7. IT を使って活躍するひとり親の事例

- 最後に、IT を活用した仕事で活躍しているひとり親 6 名の事例を御紹介します。
- うち 5 名 (A~E さん) は、最近、高等職業訓練促進給付金を利用して IT 資格を取得し、現在はその資格を生かしてお仕事をされている方です。
- もう 1 名 (F さん) は、10 年ほど前に業務未経験から Web デザインの勉強をして IT 業界に入り、現在は UX デザイナーとして活躍されている方です。高等職業訓練促進給付金の利用はないケースですが、IT 業界で長期的にキャリアを築かれている事例として参考になると思います。

<ヒアリングに御協力いただいたひとり親のリスト>

本資料内での仮名	年代	こどもの人数等	高等職業訓練促進給付金を活用して取得した資格	左の資格の取得時期	現在の仕事	雇用形態
A さん	40 代	高校生 2 人	Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート	令和 4 年度	コールセンター	非正社員
B さん	30 代	未就学児 2 人	Web クリエイター能力認定試験 エキスパート	令和 6 年度	UI/UX デザイナー	正社員
C さん	20 代	小学生 1 人	VBA エキスパート (Excel VBA Standard)	令和 6 年度	製造業の業務改善	正社員
D さん	30 代	未就学児 1 人	Web クリエイター能力認定試験スタンダード	令和 4 年度	IT 企業の人材開発部	正社員
E さん	50 代	高校生を含む複数	Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート	令和 5 年度	教育関係の事務職	期間業務社員
F さん	30 代	大学生と高校生	※高等職業訓練促進給付金の利用なし	—	UX デザイナー	正社員

コールセンターでシステム開発補助に携わる A さん

プロフィール

コールセンターに勤務。現在 40 代で、高校 3 年生と高校 1 年生のこどもがいる。ひとり親になった後、子育てと両立しやすい仕事を探し、現在の勤務先に就職。高等職業訓練促進給付金を利用して Microsoft Office Specialist 2019 エキスパートを取得。

これまでのキャリア

コールセンターに入社し、オペレーター業務（電話対応）に従事。

現在の勤務先で役職を上げるには枠が少なく、難しいと思っていたため、転職のために資格取得を検討。

Word や Excel の基本操作を習得するため、高等職業訓練促進給付金を利用して講座を受講し、Microsoft Office Specialist 2019 エキスパートの資格を取得。

勤務先の上司（マネージャー）との定期面談において資格取得を伝えたところ、その努力を評価され、上の役職を打診される。

役職が上がり、コールセンターの新人指導・研修の担当や、オペレーターが対応する画面を改良するシステム開発補助に従事。

こどもが病気のときなどに代替できる、融通が利きやすい仕事としてコールセンターを選びました。

マネージャーに資格取得のために勉強していることを話したことがきっかけとなり、新しい仕事も任せてもらえるようになりました。

現在の仕事について

<仕事内容>

コールセンターのオペレーター社員として、新人指導・研修、オペレーターが対応する際の画面の改良などの業務に従事。電話回線が混み合っている際は、オペレーター業務（電話対応）に一部当たることもある。

<働き方など>

非正社員。現在、週 5 日勤務で残業は 1 か月に 1 回程度。入社当時は週 4 日勤務で残業もなかったが、役職が上がったタイミングで会社から週 5 日勤務を打診された。

役職が上がったことで時給がアップし、手当も出るようになりました。ゆくゆくは正社員を目指したいです。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名/取得時期

Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート/令和4年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

現在の勤務先で役職を上げることは難しいと考え、転職のために働きながら資格を取得することにした。元々ITやパソコンに触れた経験はあったが、Word、Excelによる資料作成等は難しかったため、パソコンの基本操作を習得しようと考えた。

修業中の状況

資格の勉強をしていた頃は週4日勤務であったため、週に2日、仕事がない日にパソコン講座に通った。仕事をしながらではあったが、講座の先生は教え方が上手で、大人になってから学ぶのはこんなにも楽しいのかと感じた。当時中学生と高校生だったこども達も家事を手伝ってくれ、特に両立が大変だと思うこともなかった。

資格を取得して良かったこと

講座を受けて資格取得に挑戦し、成し遂げたという気持ちが自分の自信につながったということが大きく、資格を取得して良かったと感じている。また、資格取得がきっかけとなって勤務先で新しい仕事も任せてもらえるようになったり、自分のできることが増えていったりすることも嬉しかった。何年も同じ仕事をするより、自身が成長できる方が仕事もやりがいがある。資格取得のために学んだ知識は業務で直接活用できているわけではないが、パソコンの操作方法・考え方などは参考になっている。

今後の意向・取り組みたいことなど

まだまだ力量不足ではあるが、システム開発の補助から、今後は開発の担当として業務を担いたい。また、現在の雇用形態は非正社員のため、正社員を目指したい。

ITを活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

こどものためにお金をかけるだけでなく、親自身が自分を磨いていくことも大事だと思います。こども2人も資格取得を応援してくれましたが、親が頑張る姿を見せることは、こどもに対しても良い影響があると思います。

UI/UX デザイナーとして画面構築に携わる B さん

プロフィール

IT 企業に勤める UI/UX デザイナー。現在 30 代で、保育所に通うこどもが 2 人いる。ひとり親になった後、高等職業訓練促進給付金を利用して Web クリエイター能力認定試験エキスパートを取得。未経験から IT 業界へ転職した。

これまでのキャリア

大学でプロダクトデザインを専攻。卒業後はデザインから離れ、飲食業の企業に就職。パソコンの基本操作はできたが、職場ではパソコンを使用したことがなかった。

出産後に短時間勤務をしていた中、ひとり親になる。前職ではこどもが発熱した際に代替りのスタッフを見つける必要があり、急な休暇取得が難しかった。育児のため夜間に働くことができず、給与面も厳しいため、転職しようとする。

在宅勤務可能かつ大学で学んだデザインの知識を生かせる仕事を探していたところ、Web デザイナーについて知る。

高等職業訓練促進給付金等を利用して講座を受講し、Web クリエイター能力認定試験エキスパートを取得。

中長期的なキャリアも考えた上で、UI/UX デザイナーとして転職。現在 1 年目。

保育所が休みである祝日も有給休暇を取得する必要があり、仕事と育児の両立が難しい状況でした。

これからも現在の会社でキャリアを築いていきたいと思っています。まずはチームの一員として、自分の意見を出せるようになりたいです。

現在の仕事について

<仕事内容>

システム開発の画面の UI をデザインしている。構造担当、デザイン担当等で構成されるプロジェクトチームの一員として働いている。

<働き方など>

正社員。在宅勤務やフレックスタイム制を利用し、週 5 日フルタイムで勤務している。入社日数は決まっておらず、柔軟な働き方が可能。早朝からの勤務や、中抜けを利用して、こどもの通院の付添いや見守りをするができる。

柔軟な働き方が可能な会社に転職できたことで、仕事と育児の両立がかなえられています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名/取得時期

Web クリエイター能力認定試験 エキスパート/令和6年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

在宅勤務が可能で、デザインに携わることができる転職先を調べていた中で、Web デザイナーという職種を知った。また、パソコンスクールのカウンセリングや自治体職員との面談で、様々な給付金について情報提供を受けたことで、給付金を活用して資格を取得することにした。

修業中の状況

講座は本来1年間のカリキュラムであったが、早く転職をしたいという思いから速めのペースで履修を進め、9か月で受講を完了。その後1か月の自主勉強を経て、資格を取得した。修業期間中は週5日の仕事を週4日に変更し、1日を勉強に充てていた。

資格を取得して良かったこと

資格の取得を通じて、Web サイトの構築に使われる言語 (HTML、CSS、JavaScript) など、仕事において前提とされる知識を学ぶことができた。転職後は、講座で学んだ知識をベースとしながら、実務で求められる技術を勉強している。

IT を活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

将来なりたい姿や中長期的なキャリアについて考えた上で、それがかなう仕事を選択することが重要だと思います。その際、職種名だけで判断しないこともポイントです。例えばWeb デザイナーの中には、静的画面 (いつも同じ内容が表示される画面) を作る人と、動的画面 (閲覧する人や時間などによって表示される内容が変わる画面) を作る人がいます。どのような仕事があるのか、その仕事のキャリアステップはどんなものかを調べ、自分のゴール像に合った仕事を選んでみてください。

製造業で IT による業務効率化に奮闘する C さん

プロフィール

自動車製造工場に勤める事務職として、生産管理の業務に従事している。高校卒業後、現在の会社に入社し、出産後も就業を継続。現在 20 代で、小学生のこどもがいる。高等職業訓練促進給付金を利用して、VBA エキスパート (Excel VBA Standard) の資格を取得。

これまでのキャリア

高校卒業後、現在の勤務先に就職。入社後は事務職として生産管理の業務に従事。20 歳で出産し、育児休業を約 1 年半取得して復職。

ひとり親になった後、社内の生産管理システムの開発プロジェクトに主担当として参画。同プロジェクトに参画していた社外のシステムエンジニアの方からパソコンの基礎を学び、IT を活用した業務改善に関心を持つ。

IT スキル向上のため、社内で受講できる 1 日研修などに参加するものの、実践的なスキル習得には至らないと物足りなさを感じる。

市から案内のあった高等職業訓練促進給付金を利用して講座を受講し、VBA エキスパート (Excel VBA Standard) の資格を取得。

マクロを使って職場の業務改善に取り組む。周囲の社員が抱える困りごとや改善要望に応じてマクロを作成し、よりよい業務の流れを検討。

当時は配偶者の両親と同居しており、子育てのサポートがありました。

当時は注文書をパソコンに手入力していましたが、ミスの原因になるためやめたいと思っていました。

「マクロ」とは、業務における一連の動作を自動化するプログラムです。

現在の仕事について

<仕事内容>

自動車のプラスチック部品の製造工場で、生産管理の業務に携わっている。毎月顧客から届く大量の注文書について、データ入力・チェックを行い、生産現場の稼働計画を作成するなどの事務作業が中心。

<働き方など>

正社員。月曜～金曜の週 5 日、8 時～17 時のフルタイム勤務。テレワークは全社的に未導入。

自身の母、祖父母と同居しており、こどもの世話などは日常的なサポートを受けています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名/取得時期

VBA エキスパート (Excel VBA Standard) / 令和 6 年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

IT を活用して業務改善に取り組むため、必要なスキルを身につけたいと考えていたところ、市役所から高等職業訓練促進給付金のチラシが自宅に届き、給付金を活用して資格を取得することにした。

修業中の状況

自宅から 40 分程度のスクールに通学することも検討したが、往復の移動時間(受講時間と合わせて 1 回 3 時間程度)を考えると負担が大きかったため、オンライン受講とした。週 3 回、19~20 時に勉強するという生活をほぼ 7 か月間続け、資格を取得。当初はオンラインで学習を継続できるか不安だったが、毎回講師が変わり教え方が上手な先生がいたり、特定の知識に詳しい先生がいたり、楽しんで受講することができた。

資格を取得して良かったこと

マクロを活用して職場の業務効率化・簡素化に役立てることができている。かつては手書きの業務プロセスをデジタル化することに抵抗のある社員もいたが、社内も顧客もデジタル化に対応せざるを得ない環境になってきた。資格を取得し、IT 関連の業務に力を入れてきたため、周囲から頼ってもらえる場面が増えたと感じる。

今後の意向・取り組みたいことなど

今後は Illustrator や Photoshop など学び、展示会に出展する際のブースデザインやチラシ作成なども手掛けてみたい。これまで誰もやらなかった新しいことに挑戦する人、一番手を担える人材でいたいと思っている。

IT を活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

資格を取得したことで、自分の努力が周囲の方に認められ、自信につながりました。最初は無理かもしれないと思っても、1 つのことが達成できると、他のことにも挑戦してみようという気持ちが湧いてきます。「資格を取得する」と決めて勇気を出せば、何らか次につながる良い変化が起きると思います。

IT 企業のエンジニア→人事関係部署で活躍する D さん

プロフィール

IT 企業の人事関係部署で、社員の管理・サポートを行う。現在 30 代で、保育所に通うこどもがいる。医療系の仕事に従事していたが、子育ての両立等を考えて、高等職業訓練促進給付金を利用して Web クリエイター能力認定試験スタンダードを取得。IT 業界へ転職した。

これまでのキャリア

コロナ禍に医療系の業務に従事していたが、体力面で時短勤務でないと子育てが難しいこと、こどもへの感染リスク等を考慮して、転職を決意。

↓

高等職業訓練促進給付金等を利用して講座を受講し、Web クリエイター能力認定試験スタンダードを取得。

↓

システムソリューションの事業を行う IT 企業に転職。入社後 1 年間は、エンジニアとして顧客企業で常駐勤務を行う。

↓

エンジニア業務は勤務時間が長く、子育ての両立が難しかったため、上司に相談。企業内で勤務できる人事関係部署に異動。

↓

現在は、人事関係部署で、エンジニアの経験を生かしながら、顧客企業に常駐勤務している社員の管理やメンタルケア等を担当している。

転職先の選定では、様々な経験が積めること、ホームページが魅力的なこと、育成のカリキュラムがあること等も考慮しました。

エンジニア時代はこどもとの時間が取れなかったため、会社に相談してテレワークもできる部署に異動しました。

現在の仕事について

<仕事内容>

常駐勤務を行う社員は会社の目が届かないところで仕事をしているので、社員の勤務状況等をオンライン又は対面で確認し、社員が働きやすい環境整備やサポートに取り組む。社員との対話や新入社員のサポートでは、エンジニアとしての勤務経験や IT 知識が生かされている。

<働き方など>

正社員。週 5 日勤務で、出社とリモートは半々。年収は約 330 万円。テレワークで朝が少しゆっくりできるようになり、こどもの表情が明るくなり、よく話すようになった。

用語解説:

「常駐勤務」とは、顧客企業のオフィスに出勤して働くことです。

こどものお迎えと夕食は、近隣に住む親族に協力してもらいながら両立しています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名／取得時期

Web クリエイター能力認定試験スタンダード／令和4年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

資格取得を目指すタイミングでは、Web デザイナー志望だったので、この資格が有利だろうと思いで取得した。

修業中の状況

ものづくりが好きのため、修業時の講義は楽しんで取り組めた。給付金を受ける前に独学で勉強していた時は苦戦していたが、体系化されたカリキュラムで学習できたことが良かった。なお、受講中は実家に住み、育児のサポートを受けていた。そうでなければ学習に遅れを取っていたように思う。実家のサポートもあったので、6か月のコースを4か月で修了し、5か月目からはポートフォリオ作成、6か月目は就職活動、というスケジュールを立てて実行した。

資格を取得して良かったこと

エンジニアとしての初めての常駐先が、資格取得で学んだコードを使っていたため、スムーズに対応できた。その他の常駐先でも応用したコードの使用が多く、IT 関係の業務の登竜門として資格を取得して良かったと感じた。また、ホームページ作成と機器の画面作成は全く別物のように見えていたが、同じ「画面作成」であり、Web 系の資格は応用が利いた。想像よりも選択肢は広いように感じている。

通常の未経験者採用は、半年間のカリキュラムを修了した人からエンジニアとして客先に常駐するシステムになっている。この半年は給与が低く抑えられるが、資格があることで、経験者採用となり、転職後すぐに常駐で正社員として勤務できた。

IT を活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

資格取得をするか悩んでいる人もいますが、悩むよりもまずやってみた方が後悔はないです。

また、知識をアウトプットした経験(制作経験)は、就職や実際の勤務でも役に立ちます。修学期間中には自主的にポートフォリオ作成に取り組むことをおすすめします!

50代で資格取得し、教育関係の事務職として活躍する E さん

プロフィール

学校のサテライト施設で事務職として勤めつつ、高校生を含む複数名のこどもを育てる。50代でひとり親になった後、これまでのキャリアを生かした転職を目指し、高等職業訓練促進給付金を利用して Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート (Excel) を取得。

これまでのキャリア

就職氷河期で就職先を選ぶことが難しい環境にあった中、最初に入社して配属になったのが経理だった。自分にあっていたのでそのまま経理・総務関係に従事していた。

シングルマザーになり、生活を支える立場となる。これまでのキャリアを生かして、経理や総務などの事務職での年収アップを目指して転職を志す。

資格取得後の転職活動では就職時期の見通しが立たないため、高等職業訓練促進給付金の受給期間で就職できるように計画を立てる。事務職を念頭に、Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート (Excel) を学びつつ、並行して転職活動にも取り組む。

修業中に転職先が決定。転職後も勉強を続けて、資格取得に至る。

学校のサテライト施設で事務職として働く。資格取得で得られたスキルで効率的に業務を行えている。

ITの知識が全くないわけでもないのに、両立してでもやってやるという気持ちでした。

IT資格＝プログラミングのイメージでしたが、Excelの資格があるとわかり、チャレンジしました。

歳を重ねたらICT支援員になることも考え中です。

現在の仕事について

<仕事内容>

学校のサテライト施設で、事務、経理等を担当。支払や予算の管理、施設管理、学生対応など多岐の業務に携わる。経理のシステムが企業のように確立されていないため、Excelで予算管理を実施している。

<働き方など>

期間業務社員。週5日、フルタイム勤務。残業は平均的には10時間以内。

最近はExcelのグラフを活用した資料作成などにも取り組むことが増えています。

IT 資格の取得について(高等職業訓練促進給付金を利用)

資格名／取得時期

Microsoft Office Specialist 2019 エキスパート (Excel) ／令和5年度

資格を取得しようと思ったきっかけ

経理や総務などの事務への転職先を見越して資格を取得した。50代で生活を支える必要がある状況で、未経験業務への挑戦はリスクがあるように感じ、これまでの職歴の延長線上にある業務を想定して資格を選んだ。なお、自治体の担当者から、IT資格について教えてもらったときは気が進まなかったが、Excelのコースについて情報提供を受け、自身でも情報収集する中で、これまで勉強する機会はなかったので給付金を利用してチャレンジしてみようと思うことができた。

修業中に大変だったこと

講座について、模試や一部のカリキュラムを自分のペースで繰り返し学習したいと思うことがあった。スクールを選ぶ際は、通いやすい環境や自分の希望する学習方法とマッチするか(自主学习か動画学習か、予約方法や補習の状況など)等の観点で、いくつか見て選ぶことが重要だと思う。

資格を取得して良かったこと

資格を取得したことで、自分にそんな力があつたのかと自信につながった。スクールには同じように勉強している色々な年代の人がいて、モチベーションもアップした。資格の勉強を通じて、それまでの業務で使用したことがなかったExcelの詳細な機能を知ることができ、自身の業務効率が上がったように感じる。また、資料作りが楽しく、今まで避けていた作業も難しくないと感じるようになった。

ITを活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

20~30代は「これから勉強すればいい」と言われても、50代では「何もできないのか」と言われることがあります。資格取得はスキルの証明になり、意味があることだと思います！

高等職業訓練促進給付金は自立した生活に向けて、就業で必要なスキルを身につけることができるので、難しいそうと敬遠せず、チャレンジしてほしいです。

UX デザイナーとして DX 支援で活躍する F さん

プロフィール

DX 支援の会社に勤める UX デザイナー。現在 30 代で、大学生と高校生のこどもがいる。20 代でひとり親になった後、未経験から IT 業界へ。また、高等学校卒業程度認定試験に合格。高等職業訓練促進給付金の利用経験なし。

これまでのキャリア

10 数年前にひとり親になってすぐ、自費で Web デザインの学校に半年通い、Web の総合的なスキルを身につけた。

Web マーケティングの会社で、アルバイトとして SEO（検索エンジン最適化）などを担当。その後、同じ会社内の Web 制作の部署に異動し、ホームページ等のグラフィックのデザインを 4 年ほど担当。

フリーランスで Web デザインの仕事を 1~2 年続けた。また、フードコーディネーターの仕事を兼業。

Web デザイナーから UX デザイナーに方向転換し、Web マーケティングの会社に就職。インターネットバンキングの機能や使い勝手のデザインを担当。

DX 支援の会社に転職し、現在 2 年目。

当時は実家住まいで、両親から学費や子育てのサポートがありました。

自分にとって、よりやりがいや面白みを感じる仕事を考え、キャリアチェンジしました。

現在の仕事について

<仕事内容>

UX デザイナーとして、顧客（企業）が新規事業を考える際のユーザーリサーチ、ニーズの抽出、企画立案等の支援をしている。例えば、顧客がアプリケーションを開発又はリニューアルする場合、まずアプリケーションを使うのはどんなユーザーなのか、どのように使うのかを調査・分析する。その結果を基に、ユーザーが使いやすいサービス設計や全体のデザインを提案。

<働き方など>

正社員。週に数回入社（フルリモートも可）。残業もあるが働き方に無理はない。副業で大学の非常勤講師もしている。

企画やニーズ調査からデザイン設計まで、自分でアイデアを考えて実行できるのが、この仕事の魅力です。

年収について、UX 領域では、未経験でも 400 万円、シニアレベル以上では 1000 万円という人も多いです。

こぼれ話

UXの道に進む場合、具体的にどのような仕事をしていくことになるのでしょうか。

Fさんの場合は、今の職場に採用されるまでに、以下のような業務実績を積んでいました。このような実績があるので即戦力として採用され、年収800万円からのスタートとなりました。

- Webデザインの基本業務（グラフィック、コーディング等）
- ユーザー調査（定性リサーチ）、マーケティング
- プロジェクトの計画立案、クライアントと交渉しながらのリサーチ実施
- インフォメーションアーキテクト（IA）、ユーザーインターフェース（UI）の設計

用語解説：

「ユーザー調査」では、ユーザーのニーズや意見を把握し、商品開発等に生かします。アンケート等による方法「定量リサーチ」、インタビュー等による方法を「定性リサーチ」と言います。

用語解説：

「IA」は、ユーザーに分かりやすい・探しやすいように情報を整理することです。

用語解説：

「UI」は、ユーザーがWebサービスやアプリケーションを使う際に操作する画面やボタン等のことです。

ITを活用した仕事を考えているひとり親の方へのメッセージ

元々はITやデザインのバックグラウンドがなく、最初にWebデザインの道を選んだのにも、強い理由があったわけではありません。でも、今振り返ると、ITを活用した仕事はこの先も需要が高いですし、この道を選択して正解だったと思います。

参考

■ソフトウェアの商品名称について

Access、Excel、Outlook、PowerPoint、Windows Server	米国 Microsoft Corporation（マイクロソフト社）の米国およびその他の国における登録商標又は商標です。
Illustrator、Photoshop	Adobe Incorporated（アドビ社）の商標です。
Linux	Linus Torvalds 氏の登録商標又は商標です。
Microsoft Office	米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
MySQL、Oracle Database	Oracle Corporation、その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
Word	この資料では、Microsoft Word（米国 Microsoft Corporation の商品名称）を指します。

i IPA「DX 動向 2024」, <https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/eid2eo0000002cs5-att/dx-trend-2024.pdf>（2025年3月10日閲覧）

ii 帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査（2024年7月）」『TDB Economic Online』, <https://www.tdb.co.jp/>（2025年3月24日閲覧）

iii 文部科学省「令和5年度 ICT 支援員（情報通信技術支援員）の配置状況」

iv マイナビ中途採用・転職活動定点調査(2023年6月), https://career-research.mynavi.jp/research/20230731_55685/（2025年3月10日閲覧）

v 東郷こずえ（2024）「日本におけるリモートワークの現状、メリットとデメリットについて」マイナビキャリアリサーチ Lab, https://career-research.mynavi.jp/column/20240802_83756/（2025年3月10日閲覧）

vi 一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会「フリーランス白書 2024」, <https://blog.freelance-jp.org/wp-content/uploads/2024/03/whitepaperFreelanceSurvey2024.pdf>（2025年3月3日閲覧）

vii 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング（2024）「ひとり親家庭等への支援に関する調査研究」令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業, https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2024/04/koukai_240426_02_08.pdf（2025年3月31日閲覧）

viii 独立行政法人情報処理推進機構（2012）IT 人材育成本部 IT スキル標準センター『IT スキル標準はやわかり』

ix 教育訓練給付制度 厚生労働大臣指定教育訓練講座, <https://www.kyufu.mhlw.go.jp/kensaku/>（2024年9月10日閲覧）

令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業

高等職業訓練促進給付金等事業の
効果的な活用の在り方に関する調査研究

報 告 書

令和7（2025）年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2